

2021年度法政大学国際文化学部国際社会演習 トランスナショナル・ヒストリー研究卒業論 文集

MURAMATSU, Miyu / 櫻井, 海鈴 / 増田, 凧紗 / 村松, 美優 /
八十田, 舞 / 吉沢, 敬太 / 今市, 百音 / 上杉, 奈都子 /
SAKURAI, Misuzu / MASUDA, Nagisa / YASODA, Mai /
YOSHIZAWA, Keita / IMAICHI, Momone / UESUGI, Natsuko

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部 (佐々木一恵ゼミ)

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

99

(発行年 / Year)

2022-03

法政大学 国際文化学部

国際社会演習

トランスナショナル・ヒストリー研究

2021 年度 卒業論文集

目 次

櫻井海鈴

美白化粧品を使うのは何のため？

ー インド美白意識の男女差 ー 1

増田風紗

女性による「男性の商品化」の新たな形態

ー メンズ地下アイドルとママ活を例にー 11

村松美優

不自由さを生き抜く「女子」像の演技

ー 「女の子写真」と「美術館女子」から見る若年女性のアンビバレンスー
..... 30

八十田舞

ロバート・ヘンライが目指した新たなアメリカン・リアリズム

ー Ashcan School を先導した者として ー 43

吉沢敬太

対アフリカ政策からみる開発援助による被援助国の変遷

..... 60

今市百音

ペットロスに伴う悲嘆による死生観と信仰心の変化

ー 悲嘆への新たなアプローチ ー 74

上杉奈都子

バラエティ番組からみるジェンダーバイアス漫才と女性芸人の変化

..... 89

目次

はじめに

第1章 先行研究分析に見るヒンドゥー教と美白意識

第1節 カースト制度における肌の色

第2節 ヒンドゥー教における肌の色と女性

第2章 インド美白意識のルーツ

第3章 美白化粧品のコマーシャルから見る男女使用理由についての差異

第1節 女性向け美白化粧品のコマーシャル

第2節 男性向け美白化粧品のコマーシャル

第4章 インタビューから見る男女使用理由についての差異

第1節 インド出身男性(自認)4名へのインタビュー

第2節 インド出身女性(自認)3名へのインタビュー

おわりに

はじめに

近年のインドにおける美白化粧品の人気は目を見張るものがある。ユニリーバをはじめとする世界的大企業も美白への関心に目をつけ、インドでの市場を拡大している。特にユニリーバの美白化粧品ブランドである「Fair & Lovely」はインド中に愛用者がいるとされ、Karnaniによるとその利用者数は2700万人にもものぼる¹。一方で、現代では美白信仰に対抗する流れもある。Fair & Lovelyをもじって「unfair & Lovely」というハッシュタグを用いた反対運動が、Instagramをはじめとする各ソーシャルメディアで起こっている。こうしたソーシャルメディアにおける人種問題への抗議は、2020年のBlack Lives Matter 運動などを発端として、世界での人種および肌色の問題の再認識するきっかけとなっている。インドではこうした運動の影響から、2020年、Fair & Lovelyを発売したユニリーバが肌の白さを示す言葉「fair」の使用をやめ、商品名を「Glow & Lovely」に変更した。

Fair&Lovelyをはじめとする美白化粧品がインドで市場を拡大していることから、インドの美白意識は注目すべき点であると言えるだろう。インドにおける美白意識については、サブハードラ・チャンナなどの先行研究がヒンドゥー教およびカースト制度と美白意識の関連性を指摘している。本稿では、美白化粧品の消費からインドの美白意識を検討することで、美白意識とインドカースト制度の関係性と、今日のインドにおける美白意識について先行研究分析とインタビューを交えて考察する。

第1章 先行研究分析に見るヒンドゥー教と美白意識

本章では、ヒンドゥー教およびカースト制度と美白意識の関連性について指摘した先行研究を分析する。

第1節 カースト制度における肌の色

カースト制度の成立を辿ると、その始まりは紀元前1500年頃に遡る。北西インドからガンジス河上流の地域に侵入したアーリヤ人は先住民たちを征服し、「色」の意味を持つヴァルナという階級制度を作り上げた。この制度の中で、肌色が白く支配民族である自身たちを上位とし、一方で肌色が黒く被支配民族である原住民たちを下位とした²。

これまで、カースト制度の成り立ちについてはこうした言説が広く信じられてきた。しかし、研究者のサブハードラ・チャンナはこれを「インド＝アーリア人神話」とであると指摘した³。チャンナによれば階級制度そのものはジャーティという形でインドに存在していたが、その制度をカーストというヨーロッパ由来の言葉を用いて強化及び拡大させたのは、インドの植民地支配を行ったイギリスだったという。植民地支配以前、インドにおいて「カースト」という概念は存在せず、現地の言葉の「ヴァルナ」および「ジャーティ」の区分が存在するのみであった。「ヴァルナ」が神話を元とした理念としての4区分を指すのに対して、「ジャーティ(ジャート)」は実際の社会的区分、つまり婚姻や職業、地域社会生活を規定するものだ。しかしこ

¹ Aneel G. Karnani “Doing Well by Doing Good Case Study: ‘Fair & Lovely’ Whitening Cream” Ross School of Business Working Paper Series Working Paper No. 1063, 2007, <https://deepblue.lib.umich.edu/bitstream/handle/2027.42/49327/1063-Karnani.pdf?sequence=1>

(最終閲覧2021年10月23日)。

² 神谷信明「On varna system in India」『岐阜市立女子短期大学研究紀要』第53輯、2004年、65ページ。

³ サブハードラ・チャンナ(工藤正子、門田健一 訳)「インドにおけるカースト・人種・植民地主義—社会通念と西洋科学の相互作用」、竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う—西洋的パラダイムを超えて』人文書院、2005年、326ページ。

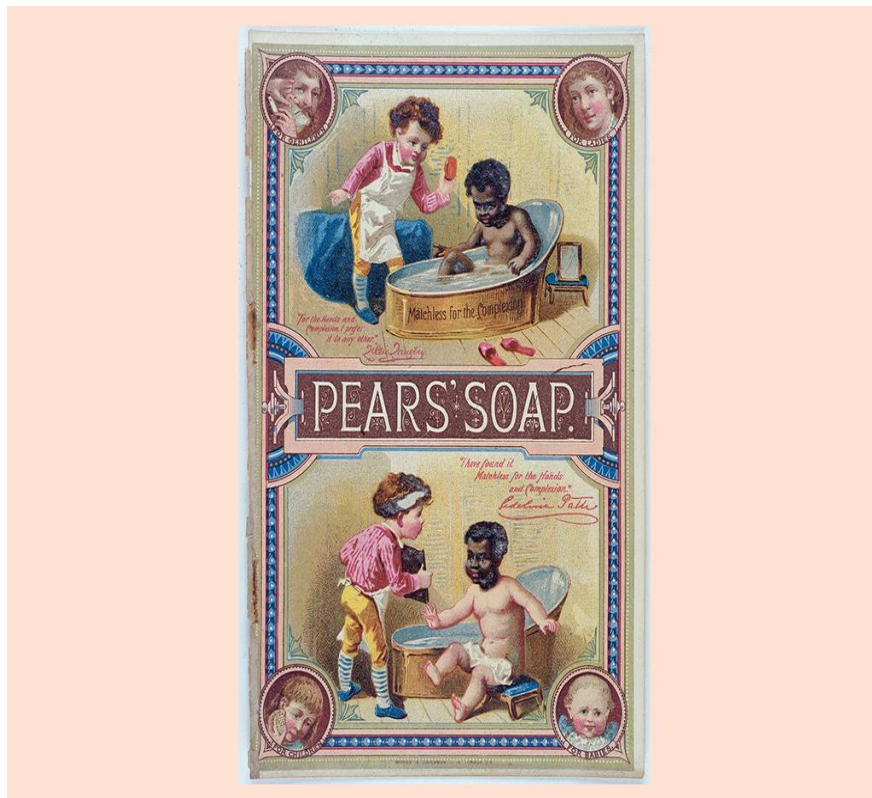
れもカーストとは異なり、インドの限定的地域のみで実施されていた。加えて、ジャーティは流動的でありカーストのように不変の構造を持つものではなかった⁴。

こうした「ヴァルナ」および「ジャーティ」を、植民地支配を円滑に進めるために「インド＝アーリア人神話」を基盤としたカースト制度へと作り変えていったのがイギリスをはじめとする欧米列強であった。新たに構築された「インド＝アーリア人神話」では、アーリア人、つまり支配者層と同じく肌が白く鼻が高い白色人種が上位カーストとされ、原住民、つまり非支配者層と同じく肌が黒く鼻が低い黒色人種が下位カーストとされた。ホカートは、「私たちが不幸にも『カースト』としてしまった『ジャーティ』という言葉は実際には非常に弾力的」であったとして、バラモンの息子の何人かがクシャトリヤになり、末の息子はシュードラになったという神話を引用してジャーティの変容を指摘している⁵。

第2節 ヒンドゥー教における肌の色と女性

カースト制度における肌の色の解釈は、ヒンドゥー教そのものにおける肌の色への解釈が大きく影響していると考えられている。ジョセフィ・バーギースは植民地時代のペアーズという石鹸ブランドの広告を例に挙げ、ヒンドゥー教の浄および不浄の概念と肌の色が結びつけて考えられていると指摘している⁶。ペアーズの広告では、白人の少女が黒人の少年をペアーズの石鹸で洗うと、その部分の肌の色が白くなるという描写がなされている（図1）。バーギースは、白人を「浄」と捉え、世界の「不浄な」黒人を「洗浄」することが「白色人種の責任」である、という視点をこの広告が象徴していると言う。

図1 “Matchless for the Complexion”, Pears’ Soap advertisement



出典：The Lovepost

⁴ A. M. Hocart “Caste: A Comparative Study,” *The American Journal of Sociology*, vol.1, 1950, p59.

⁵ Ibid..

⁶ J Varghese “Fair (?) & Lovely: Ideas of beauty among young migrant women in Chennai, India,” *Women’s Studies Journal*, Vol. 31, no. 1, 2017.

前述したように、浄・不浄観はヒンドゥー教の中心的概念であることから、インドの価値観の基盤であるとも言える。本稿で特に注目したいのが、ヒンドゥー教のもとでの女性に対する価値観である。中村裕は、ヒンドゥー教における女性の地位の低さを指摘している⁷。インド古典におけるヴァルナ制度の共通する特徴のひとつとして、「男性は自分と同等かより低いヴァルナの女性との結婚が許され、逆は許されるべきでないとされていた」ことを挙げる⁸。こうして女性にもヴァルナが存在していたことを示唆する一方で、ヒンドゥー教においては多くの面で女性の地位が低く、ヴァルナの上下にかかわらずその地位はシュードラと同一視されていたことも指摘している⁹。男性が「浄」とされているのに対して、ヒンドゥー教における女性は、「不浄」とされ、出産・月経なども「不浄」とされている¹⁰。ここから、浄・不浄観とカースト制度は密接に関係していると考えられる。

第2章 インド美白意識のルーツ

本章では、1章の内容を踏まえて本稿の問題提起を行う。

本稿1章では、カースト制度と美白意識および浄・不浄の観念が相互に関係していることを述べ、女性に焦点を当ててヒンドゥー教におけるその社会的地位について論じた。ヒンドゥー教において女性は、そのヴァルナにかかわらずシュードラと同等の地位として捉えられていた。つまり、女性はカースト制度と直接関係しなかったと言える。一方で、前述した先行研究には、カースト制度と肌の色の関係性について言及しているものが多い。チャンナは、白い肌が上位カーストあるいは上流階級と結びつけられているがゆえに、下位カーストで肌の白い者は母親が高カーストの人物と姦通したと考えられてしまうと指摘している。しかし、Fair&Lovelyのような美白化粧品メインユーザーは、こうしたカーストに直接関係しない女性である。インドの美白意識が高カーストの象徴として白い肌を理想としているのであれば、カースト制度と直接関係しなかった女性に美白化粧品が浸透したのは何故なのだろうか。また、2005年にエマミがインド初の男性向け美白化粧品を発売すると、瞬く間に人気商品となり、ニベアをはじめとする競合他社はこぞって男性向け美白化粧品を発売した。つまり、美白意識は男性にも支持されるものであったことがわかる。

先行研究では女性向け美白化粧品、とりわけ国内最大シェアの「fair&lovely」に焦点を当てるものが多く、男性向け美白化粧品や男性の美白意識について言及しているものは少ない。しかし、各社の美白化粧品のコマーシャルを見ると、男性向けと女性向け美白化粧品の間には表現方法の違いが見られる。そこから、美白化粧品を使用する理由に男性と女性で違いがあるのではないかと考えた。そこで本稿第3章では、インド出身者の男性（自認）にインタビューを行うことで、美白化粧品を使う理由について男女間の差異の存在を検証することにした。

第3章 美白化粧品のコマーシャルから見る男女使用理由についての差異

本章では、インドの美白化粧品のコマーシャルを分析し、男女間での美白化粧品使用理由に関する差異について考察する。

⁷ 中村 裕「『マヌ法典』に見る浄・不浄観について」、『大正大学大学院研究論集』、33巻、2009年。

⁸ 同上論文、2ページ。

⁹ 同上論文、3ページ、6ページ。

¹⁰ 三瓶 清朝「浄と不浄—インド文化の儀式的汚れの信仰について—」、『民俗学研究』、40/3、1975年、208ページ。

第1節 女性向け美白化粧品のコマーシャル

美白化粧品のコマーシャルは多くあるが、そのどれもが、＜立ちはだかる障害を美白化粧品を用いて肌を白くすることで乗り越える＞、というメッセージを伝える内容になっている。つまり、美白化粧品を使うことで肌の色だけでなくその人生までも良い方向へ変えることを唱えているのである。女性向け美白化粧品のコマーシャルでは女性の社会的成功や自己実現が使用の結果として多く挙げられるのに対して、男性向け美白化粧品では多くの女性から好意を向けられることが多く挙げられる。ここからも、美白化粧品を使用する理由に男女間の差があると考えられる。

女性向け美白化粧品のコマーシャルの例として、国内シェアトップの「Fair&Lovely」を挙げる。コマーシャルの内容は次のようなものである。野球のスポーツ実況者を目指す女性がテレビの前に実況の練習をしていた所、女性の母親が現れそのマイクを取り上げ、「Fair&Lovely」を手渡す。「Fair&Lovely」を受け取った女性ははじめ懐疑的な表情をするものの、使うごとに肌が白くなっていきテレビ関係者の目すら惹きつけ、最終的に女性は念願のスポーツ実況者となって夢を叶えるというストーリーだ¹¹。複数パターンはあるものの、「Fair&Lovely」のコマーシャルはほぼ全てが夢だった仕事を手にできる、など社会的成功や自己実現に繋がっている。

第2節 男性向け美白化粧品のコマーシャル

一方で、男性向け美白化粧品のコマーシャルの例として、人気商品である「Fair&Handsome」を挙げる。コマーシャルの内容は次のようなものである。ジムである男性が更衣室に入っていくのをボリウッド俳優であるシャー・ルク・カーンが横目に見ている。男性は女性向け美白化粧品の顔を塗り始めるが、そんな男性を見たカーンは呆れたように男性に話しかける。美白化粧品を取り上げたカーンは、代わりに「Fair&Handsome」を手渡す。「Fair&Handsome」を使用した男性は、肌のトーンが明るくなり、周囲の女性が皆彼に微笑みかけるようになるというストーリーだ¹²。女性向け美白化粧品のコマーシャルと比較して、男性向け美白化粧品のものには「異性からの人気」という面が強く描かれている。自己実現的側面を描いたものも存在したが、「異性からの人気」という面はほぼ必ずと言っていいほど描かれていた。

第4章 インタビューから見る男女使用理由についての差異

本章では、美白化粧品を使う理由について男女間の差異を、インド出身者の男性（自認）へのインタビューの結果を踏まえて検討する。

第1節 インド出身男性(自認)4名へのインタビュー

本節では、インド出身の20代男性3人の1組と、30代男性1人の計4名に対し、美白意識や美白化粧品を使う理由についてのインタビューを行なった¹³。以下が概要である。

美白化粧品をつかったことがあるか、という質問に対し、4名中1名が過去に使ったことがあると答えた。その理由を次のように述べている。

¹¹ Fair & Lovely - Cricket - Director - Shoojit Sircar - Rising Sun Films
<https://www.youtube.com/watch?v=XTUjAM7DPy4>（最終閲覧2021年11月25日）。

¹² Fair and Handsome - World's no.1 fairness cream for men - Full Commercial
<https://www.youtube.com/watch?v=Zv0vhpaB2Zo>（最終閲覧2021年11月25日）。

¹³ 2021年11月27日 銀座のインドカレー店「ニルワナム 銀座店」にてインタビューを行った。

あります。付き合っていた女性に肌の黒さが理由で振られてしまったので学生の頃少しだけ使いましたが、今は使っていません。

ここから、男性で美白化粧品を使用する人は比較的少なく、その理由も異性からの目を気にしたものであるということがわかる。

また、美白化粧品を使っている友人はいるか、という質問に対しては、3人が知っている
と答え、その理由については以下のように語っている。

見た目をよくするためです。インド人は白い肌の人が文化的に好きなので、異性に対して魅力的であるためや、友人の間でも肌が白ければ自分をいい風に見せることができます。

ここから、白い肌というのはステータス化されているものの、あくまで白い肌は美容の1つとして捉えられていることがわかる。続けて、インドの美白意識は昔からあるものかどうか聞いたところ、以下のような回答があった。

インドのテレビを見ると白人のように肌の白い人たちが多く、インド人は肌の白さが魅力的だと感じるのだと思います。同じようにセレブたちも肌が白いで、白い肌を魅力的と思うんです。インド人はみんな毎日のように美白化粧品を見ているのでそれもあるかもしれません。

他国から、インド(の美白意識)は黒人に対する差別だと言われていますが、色に対する差別ではありません。

インドでは結婚に対して「(自分にとって良いものになるように)調整する」という意識があります。肌が白ければ、(条件の)いい結婚をするために有利になります。

インドに欧米の企業が参入したことでできた意識だと思います。私ぐらいの年齢からそれ以上の人は、ほとんどが肌は白い方がいいという考え方ですね。ただ、最近の20代くらいからは考え方が変わってきているなと思います。「unfair&lovely」というハッシュタグも有名です¹⁴。

ここから、インドにおける肌の白さは、差別意識というよりも美容の1つであり自己実現のための手段であることがわかる。一方で、他国の反応を受けて意識を変えようとする若者は多く、その運動は国内でも注目されているようだった。

続けて、インドの美白意識は昔からあるものかどうか聞いたところ、以下のような回答があった。

¹⁴ インドの人気美白化粧品「fair&lovely」をもじって作られたインスタグラムのハッシュタグ。美白意識に対して批判的なポストや、生まれ持った肌の色を賛美するポストにつけられている。同名のコメディビデオがYouTubeで680万回再生をされていたり(Unfair & Lovely feat. Khushbu Baid & Jizzy | Girliyapa Spotlight <https://www.youtube.com/watch?v=L0ccdzGw8MU> 最終閲覧2021年11月28日)、ボリウッドで同名の映画まで存在していることから注目度の高さは伺える。

私は欧米が美白化粧品の需要を作り上げたと考えています。現代でも似た事例はありますが、白い肌をもてはやし、黒い肌を「モテない」などダメなことと決めつける内容の広告を作ることによって需要を作り、製品が売れるよう仕向けたのだと思います。

さらに、男性よりも女性の方が美白化粧品を使う傾向にあるか聞いてみたところ、「完全にそうです。市場には男性向けの美白化粧品は少なく、女性向けは多いです」、「結婚が有利になったりするので、使っている人は多いと思いますよ」と答えている。ここから、その根底にはインドのジェンダー観との関係が見られた。

その上で、男性向け美白化粧品で知っているものを聞いたところ、ニベア、エマミの「fair&handsome」、ガルニエの名前が上がった。また、こうした商品はコマーシャルを使っており、「ハリウッドの俳優が出演していることが多いので、そういった人たちに憧れて使う人も多いです」との答えが返ってきた。そのためコマーシャルについて聞いてみたところ、「塗ってすぐに肌が白くなるような表現で、誤解を招きやすい内容だと思います」、また「インドは日差しが強いので、日焼け止めを少し塗るようにすればすぐ肌の色は明るくなるんですけどね」と答えた。ここから、美白化粧品そのものへの批判的意識が見えた。

第2節 インド出身女性(自認)2名へのインタビュー

本節では、インド出身の20代女性(自認)2名と、30代女性(自認)1名の計3名に対し、美白意識や美白化粧品を使う理由についてのインタビューを行なった。以下が概要である。

美白化粧品をつかったことがあるか、という質問に対し、3名中3名が使ったことがなく、現在は使うつもりもないと答えた。その理由を次のように述べている。

肌を白くする化粧品を使いたいなと思った時はあります。小さい頃から、肌が白い人はキレイだという考え方がインドにはあるということを認識していましたし、それを実感したこともあります。そういった理由で私も肌を白くする化粧品を使いたいと思っていました。今考えると自分はなんてかわいそうな考え方をしていたのだろーと思います。こういった差別的な考えは現在もありますが、私は気にしていません。最も大切なのは人の心であり、見た目は関係ないと思うからです。

これまで美白化粧品を使ったことはありません。私の友人でも使っている人はいません。私たちは韓国では美容整形が盛んであり韓国の全ての女性が美容整形をしていると思いがちですが、実態は違います。インドの美白化粧品もこれに似ていて、欧米諸国が思うよりも身の回りで使っている人は少ないです。

ここから、男性へのインタビューで語られていたほど女性は美白化粧品を使っていない実態がわかる。

また、美白化粧品を使っている友人はいるか、という質問に対しては、いずれもないと答えたが、美白化粧品を使っている人の特徴に関して以下のように語っている。

私が個人的に感じているのは、下層中産階級の女性はより美白化粧品を使う傾向にあるということです。彼女たちは教育水準が低く、単に安いクリームを使っただけでは肌の色を白くすることが出来ないということを理解していません。

ここから、教育水準の違いが美白化粧品の使用率に関係していること、また、教育水準が同程度の者同士でコミュニティが形成される傾向にある事がわかる。

続けて、インドの美白意識は昔からあるものかどうか聞いたところ、以下のような回答があった。

インドはイギリスに植民地支配を受けていました。その影響としてインド人は、白い肌を持っていればより美しく、他者より優れた存在になれると考えるようになりました。そしてこうした考えが美白化粧品を生んだのだと思います。

「他者より優れた存在になれる」という言葉から、男性へのインタビューで聞いていたように、インドにおける肌の白さは黒い肌への差別意識というよりも、美容の1つであり自己実現のための手段であることがわかる。そのルーツについては男女それぞれが異なる主張をしているものの、肌の白さを美しいとみなす感覚は欧米から由来しているという認識は共通していた。

さらに、肌の白さとより良い結婚の相関関係について聞くと、「インドでは未だに結婚を調整するという文化があります。肌の白い女性がより良い男性を得るチャンスを掴む事があるというのは事実です」と答えた。男性へのインタビュー時と同様の答えだった事からも、インドのジェンダー観との関係が見られた。特筆すべきは、こうした文化を時代遅れだとする考えが見えたのは女性特有で男性側には見られない事である。第1章で述べたように、ヒンドゥー教において女性は穢れとされる場面が多く、結婚においてもそれは例外ではない。インドに未だ根強く残るダウリー制はその最たる例と言える。ダウリー制とは、花嫁が花婿の家へ嫁ぐ際に持参金や家財などを贈る制度である。古くからインドに存在していたダウリー法は1961年に禁止法が制定されたものの、有名無実化しているのが現状である。カマヤニ・シンは、ラージプート（軍人階級）の家系である自身の経験をもとに、ダウリー制について次のように述べている。

ウッター・パラデッシュ東部（私の出身地である）のラージプートの家族では、娘をもつ父親と親類の男性は、彼等が良いと見込んだ花婿候補の家族に訪れるやいなや、真っ先に花婿の職業的地位をもとにして作られたダウリーの品物のリストが渡され、そのリストを満せるか否かを尋ねられる。彼等が可能であることを伝え、その時になって初めて彼等は着席を促される。花嫁の父親が花婿の家族に電話する際には、尋ねられるよりも先にまず自分が相手に何を与えることができるかを述べることから会話が始まるのだ！このような社会的雰囲気の中で、娘を「上手く」結婚させる事は何よりも難しい課題である。それゆえに、両親は娘が結婚してもらいたい年齢になる2-3年前から花婿を探しはじめ、ダウリーの額について交渉に交渉を重ねる¹⁵。

ここからも、女性の地位が圧倒的に低いことや、結婚が当人たち以上に両親が深く介入しなければならないものであるという事がわかる。彼は自身の姉が結婚した時の様子を綴っている

¹⁵ カマヤニ・シン「インドの女性とダウリー制」、国際基督教大学ジェンダー研究センター ニュースレター no. 2、2004年。

が、女性自身の意志は見え、両親や親戚に望まれた「より良い相手との結婚」を行う様子が描かれている。つまり、肌の白さは娘をもつ親たちにとって、少しでも良い結婚をスムーズに行うための重要な要素であると言える。本稿第3章の第1節において取り上げている「Fair&Lovely」のコマーシャルでは、「野球のスポーツ実況者を目指す女性がテレビを前に実況の練習をしていた所、女性の母親が現れそのマイクを取り上げ、『Fair&Lovely』を手渡す。」シーンが存在する。また、「Fair&Lovely」を風刺したユーチューブのショートドラマ「Unfair&Lovely」でも、ビデオの冒頭で、母親が娘に早く結婚して欲しがっていることや、娘に化粧品を塗って肌を白くさせようとする描写が見られる。こうした光景が単なるビデオの演出ではなく実際に起こっていることであり、その理由が「より良い結婚」であるのだとすれば、インドのダウリー制が美白信仰を定着させようとする要因であったと考えられる。

おわりに

本稿では、インドの美白化粧品とカースト制度を結びつけて分析することで、男女の美白意識の差や美白化粧品を使う理由を考察した。

これまで肌の白さとカースト制度は深く関係していると考えられてきた。しかし、美白意識のルーツは欧米諸国にあったと答える回答者が多かった一方で、現代インドにおける美白意識は、実際は高カーストというよりも俳優への憧れや、異性への人気という部分が起因していることがわかった。また、同じ「異性への人気」が目的であったとしても、男性はアプローチとして、女性はより良い結婚や自分磨きなど自己実現のために使用しているケースが多いことが見えてきた。こうした女性の自己実現の1つに結婚が挙げられていることや、男性と比較して社会的価値に使用理由を置いていることから、インドに根づくジェンダー観が大きく関係している事がわかる。特にダウリー制はその最たる例とも言えるものだ。ダウリー制は「招かれざるもの」である女性をより良い男性に「娶ってもら」ために男性へ持参金や家財を贈るとい、女性の地位が低いことを前提とした慣習である。女性は両親や親戚が望むようなより良い男性との結婚を達成しなくてはならない。こうした女性の地位の低さと美白信仰は相性が良かったために、ダウリー制との強い相関関係を持ちながら浸透していったのではないだろうか。

参考文献

Aneel G. Karnani “Doing Well by Doing Good Case Study: ‘Fair & Lovely’ Whitening Cream” Ross School of Business Working Paper Series Working Paper No. 1063, 2007, <https://deepblue.lib.umich.edu/bitstream/handle/2027.42/49327/1063-Karnani.pdf?sequence=1> (最終閲覧2021年10月23日)。

神谷信明「On varna system in India」『岐阜市立女子短期大学研究紀要』第53輯、2004年。

サブハードラ・チャンナ(工藤正子、門田健一 訳)「インドにおけるカースト・人種・植民地主義—社会通念と西洋科学の相互作用」、竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う—西洋的パラダイムを超えて』人文書院、2005年。

ジョアンナ・リドル、ラーマ・ジョーシ(重松伸司 監訳)「インドのジェンダー・カースト・階級」、明石書店、1996年。

A. M. Hocart “Caste: A Comparative Study. “, “THE AMERICAN JOURNAL OF SOCIOLOGY”, vol1, 1950.

A. M. Hocart “Caste: A Comparative Study. “, “THE AMERICAN JOURNAL OF SOCIOLOGY”, vol1, 1950.

中村 裕「『マヌ法典』に見る浄・不浄観について」、『大正大学大学院研究論集』、33巻、2009年。

三瓶 清朝「浄と不浄ーインド文化の儀式的汚れの信仰についてー」、『民俗学研究』、40/3、1975年、208ページ。

カマヤニ・シン「インドの女性とダウリー制」、『国際基督教大学ジェンダー研究センター』、2004年。

Tenisha Kumar “The racist roots of skin-whitening and how we can overcome hundreds of years of cultural conditioning”, The Love Post, 2021. (最終閲覧2021年10月25日)。

森真理子「インドの美容法ー叙事詩を中心としてー」、『印度學佛教學研究』、第55巻、第1号、2006年。

J Varghese “Fair (?) & Lovely: Ideas of beauty among young migrant women in Chennai, India,” Women’ s Studies Journal, Vol. 31, no. 1, 2017.

Ians “Indian men chase fairness creams”, The Express Tribune, 2021.
<https://tribune.com.pk/story/16048/indian-men-chase-fairness-creams>
 (最終閲覧2021年11月25日)

Fair&Handsome, About us
<https://www.fairandhandsome.net/about-us/>
 (最終閲覧2021年11月25日)

Fair & Lovely - Cricket - Director - Shoojit Sircar - Rising Sun Films
<https://www.youtube.com/watch?v=XTUjAM7DPy4>
 (最終閲覧2021年11月25日)

Fair and Handsome - World’s no.1 fairness cream for men - Full Commercial
<https://www.youtube.com/watch?v=Zv0vhpaB2Zo>
 (最終閲覧2021年11月25日)

Unfair & Lovely feat. Khushbu Baid & Jizzy | Girliyapa Spotlight
<https://www.youtube.com/watch?v=L0ccdzGw8MU>
 (最終閲覧2021年11月28日)

Fair And Handsome ad || Allu Arjun
<https://www.youtube.com/watch?v=TKYrmsqqWmk>
 (最終閲覧2021年11月25日)

Fair & Lovely Men Fairness Cream.
<https://www.youtube.com/watch?v=tXtsAKSAC34>
 (最終閲覧2021年11月25日)

女性による「男性の商品化」の新たな形態
ーメンズ地下アイドルとママ活を例にー

増田風紗

目次

はじめに

研究の背景

先行研究の分析と本論の目的

第一章 ママ活における「男性の商品化」

第一節 ママ活の概要

第二節 金銭が介在することによる関係

第三節 女性が求めるもの

第四節 ママ活男子の学歴

第五節 補導や不倫問題への発展

第二章 メンズ地下アイドルにおける「男性の商品化」

第一節 メンズ地下アイドルの概要

第二節 ジャニーズアイドルと比較した特異性

第三節 恋愛の商品化

第四節 女性アイドルとの相違点

第五節 ママ活女性との類似点

第六節 恋愛感情によるトラブル

おわりに

参考文献

はじめに

研究の背景

男性による女性のモノ化や商品化は、ポルノグラフィや、映画、アニメ、漫画等の作品、売春、風俗など枚挙にいとまがない。これらに対し、女性による「男性の商品化」の事例はこれまで取り上げられることが少なかった。本研究では、これまで研究されていなかった、疑似恋愛サービスを売りとする「メンズ地下アイドル」、女性が男性とデートをする代わりに対価を払う「ママ活」を取り上げることで、現代の「男性の商品化」を考察する。なお、「性の商品化」の定義については、志田雅美の「性にまつわる行為、情報が商品という形で流通すること」という定義に依拠する¹。

先行研究の分析と本論の目的

「男性の商品化」に関する先行研究はいくつか見られるが、ここでは二次元コンテンツ、映像、漫画といった創作物ではなく、現実の男女関係における「男性の商品化」に着目する。飯野智子は、性の商品化市場において女性が消費する側になっていることを「レンタル彼氏」「出張ホスト」を通して考察している。女性たちにとってホストクラブは信用できない、料金が高いという印象や、性を買うことへのためらいがある。また、恋愛やセクシュアリティに関することにお金を払うのは良くないという恋愛神聖化、恋愛幻想が根強い。しかし、レンタル彼氏はコミュニケーションというサービスにお金を払っているという感覚を女性に抱かせることで抵抗感をなくし、女性が利用しやすくしていると飯野は指摘する。また、キャストは「好き」「愛している」「あなただけ」という言葉を使わないことで恋愛関係を避けている²。出張ホストは性的サービスを伴うことから、はっきりとセクシュアリティを売り物にしており、利用者の恋愛感情によるトラブルが絶えないという。また、レンタル彼氏と同様、ホストは好きという言葉を使わないことで恋愛を避ける傾向が見られた³。男性学の視点からホストクラブを分析した研究で飯野は、ホストクラブでは、消費する側が女性であっても、その関係をリードするのは消費される男性であることを指摘した⁴。また、自らの性を商品化する男性達は、集団として商品化されていないことから、女性によって男性のセクシュアリティが抑圧され、搾取されているというようなセクシズムには当たらないとし、男性の性の商品化は個人的かつ例外的と論じている。志田雅美はホストクラブにおいて、ホストは自分のアイデンティティを捨てて接客し、女性はそれに対して金銭を支払い、自らの理想のアイデンティティを獲得しているとしている⁵。

¹ 志田雅美「女性の主体性に関する一考察 ―「ホストクラブ」という場から―」『社会システム研究』20巻、2017年。

² 飯野智子「多様化するセクシュアリティの消費形態 ―女性向けセクシュアリティ産業の調査より―」『実践女子大学短期大学部紀要』36巻、2015年。

³ 同上論文。

⁴ 飯野智子「男性学・男性研究と今日の男性問題についての考察」『実践女子大学短期大学部紀要』39巻、2018年。

⁵ 志田、前掲論文。

これらの先行研究では、商品化される側の男性に焦点を当てられていることが多く、女性が「男性の商品化」を通じて何を求めているのかの考察が十分になされていない。一方本研究では、先述した先行研究で取り上げられていない「ママ活」「メンズ地下アイドル」を研究対象にし、女性が求めるものを明らかにすることを試みる。分析にあたり、それらが金銭を基に成立する男女関係であり、商取引と人間関係に密接な関係があることに着目する。商取引と人間関係の関係性については、田村うらが文化人類学の視点から、トルコの定期市における小売商人と村人の関係に着目し、商取引に伴う二者の関係の変化を分析している。田村は、買い手である村人と商人は淡泊な関係を構築するが、村人がその商品の品質を信頼する場合は、固定的な関係が生まれるとしている⁶。また、渡部瑞希も文化人類学の視点から商取引における人間関係を論じている。渡部はネパールの宝飾品市場における小売商人と観光客の関係に着目し、商人は目の前の観光客と親しくなることで個人情報を得て、取引価格を決めるが、ネパール独自の分け与えが前提とされる友人関係に発展することは少ないとしている⁷。これらの先行研究では、主に市場における商取引で生じる人間関係に焦点が当てられている。一方、本研究の対象であるママ活、メンズ地下アイドル市場においては、人間関係が商取引の重要な対象になっている。また、このようなサービスの売買においては、物財以上に買い手の購買目的が複雑化する傾向がある。これらを踏まえ、メディアのインタビュー記事を取り上げながら当事者である女性たちの言動を分析する。そこから、現代における「男性の商品化」の形態を明らかにする。

第一章 ママ活における「男性の商品化」

本章では、ママ活に焦点を当て、「ママ」と呼ばれる女性が、男性とどのような関係を構築し、何を求めているのかを明らかにしていく。また、個人間の関係だからこそ発生する問題点についても考察する。

第一節 ママ活の概要

ママ活とは、女性が金銭等を支払い、若い男性とデートをすることを指す。「ママ」という言葉が使われている通り、女性は30代から50代ほどの年齢層であることが多い。ママ活という言葉が広まる以前から「パパ活」という言葉が存在しており、これは30代から50代ほどの男性が金銭等を支払い、若い女性とデートをすることを指す。同じような現象は1980年代前半に流行した「アルバイト（女子学生によるアルバイト感覚の売春の略）」や「愛人バンク」、1990年代後半に流行した「援助交際」等があり、パパ活自体に目新しさ

⁶ 田村うら「トルコの定期市における売り手-買い手関係 ―顧客関係の固定化をめぐる―」『文化人類学』74巻1号、2009年。

⁷ 渡部瑞希「経済取引における『賭け』と『フレンドシップ』―カトマンズの観光市場、タメルにおける宝飾商人の事例から―」『文化人類学』79巻4号、2015年。

はない⁸。しかし「ママ活」は、女性が金銭等を支払い、男性とデートするという男女逆の現象であることから、これまでになかったものとして捉えることができる。「ママ活」という言葉は2016年頃に認知され始め、そのメインターゲットは富裕層の女性から一般の主婦にまで広がっている⁹。また、金銭等を支払う側の女性は「ママ」、援助を受ける男性は「ママ活男子」と呼ばれる。ママ活の内容としては、お茶や食事をするというものから肉体関係を持つものまで様々であり、女性は男性に対し、お小遣いとして金銭を支払うことが多いが、食事を奢るだけ、プレゼントを渡すだけの場合もあり、報酬は曖昧な部分が多い。パパ活、ママ活は、レンタル彼氏やホスト、ホステス等と違い、素人とのデートを楽しむことができるという点が大きな魅力として挙げられる。出会い方は多様で、パパ活においては交際クラブ¹⁰、マッチングアプリ、出会い喫茶¹¹、SNS等が主流だが、ママ活においてはプラットフォームがまだ整っていないこともあり、SNSやマッチングアプリが主な出会い方である。

第二節 金銭が介在することによる関係

先行研究で考察されていたレンタル彼氏、出張ホストにおける男性は、トラブルを避けるために恋愛を意図的に避けるような意思がみられた。では、ママ活においては恋愛がどのように捉えられているのか。松本妃奈子によると、パパ活は金銭を媒介した現象であるため、恋愛と区別されるという¹²。本論の研究対象であるママ活も金銭を媒介した現象であるため、ママ側の女性と支援される側の男性は恋愛関係になり得ないといえるのではないだろうか。実際に当事者である女性のインタビュー記事では、恋愛と金銭の媒介に揺れ動く様子がみられる。彼女は既婚であり、大学生の男性と会うたびに一万円を払うという関係を二年半続けた。男性から金銭を要求されたことは一度もないが、自発的にママ活のような関係になった理由を次のように言及している。

恋愛だと思いたいという反面、どこかで「割り切っている自分」でいたかったのかもしれない。「金銭のやり取りがあったんだから、これは遊びよ」っていう…¹³。

⁸ 坂爪真吾「パパ活の社会学 援助交際、愛人契約と何が違う？」光文社新書、2018年。

⁹ 「ママ活男子にハマる人妻たち」週刊SPA!、2018年12月4日。

¹⁰ 女性と男性のデートを仲介する場。1997年、東京都においてデートクラブ営業等の規制に関する条例が制定されたことから、交際クラブは営業所の立地や広告などが厳しく規制された事業である。女性は面接を通らないと登録できず、男女ともに身分確認が徹底されていることから、SNS等の出会い方と比べると安全性が高い。

¹¹ 女性と男性のデートを仲介する場。男性が女性を指名し、個室で会話をした後双方の合意が取れれば店外デートができるというシステムになっている。交際クラブと異なり、18歳未満の女性が入店していることで児童買春事件に発展するケースがあるが、店と女性との間に雇用関係がないことや、店舗内での性行為がないことから現行の風営法では規制できず、一部の都道府県が条例で規制している状況に留まる。

¹² 松本妃奈子「現代日本における『パパ活』の進展と性の非対称性の検討 ―イアン・ハッキング Grade of commitment 適用の試み―」『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』361巻、2021年。

¹³ 「『完全にママ活ですよね』バイト先の大学生とセックスする日々……子持ち女性が『1万円を渡し続けた』ワケ」cyzo woman、2020年11月3日。https://www.cyzowoman.com/2020/11/post_309375_1.html (最終閲覧2021年10月30日)

つまり、恋愛関係に発展したいという想いを抑えるために金銭の授受を選んだと言える。また、ママ活をする女性の中では比較的若い 25 歳の女性は、次のように述べている。

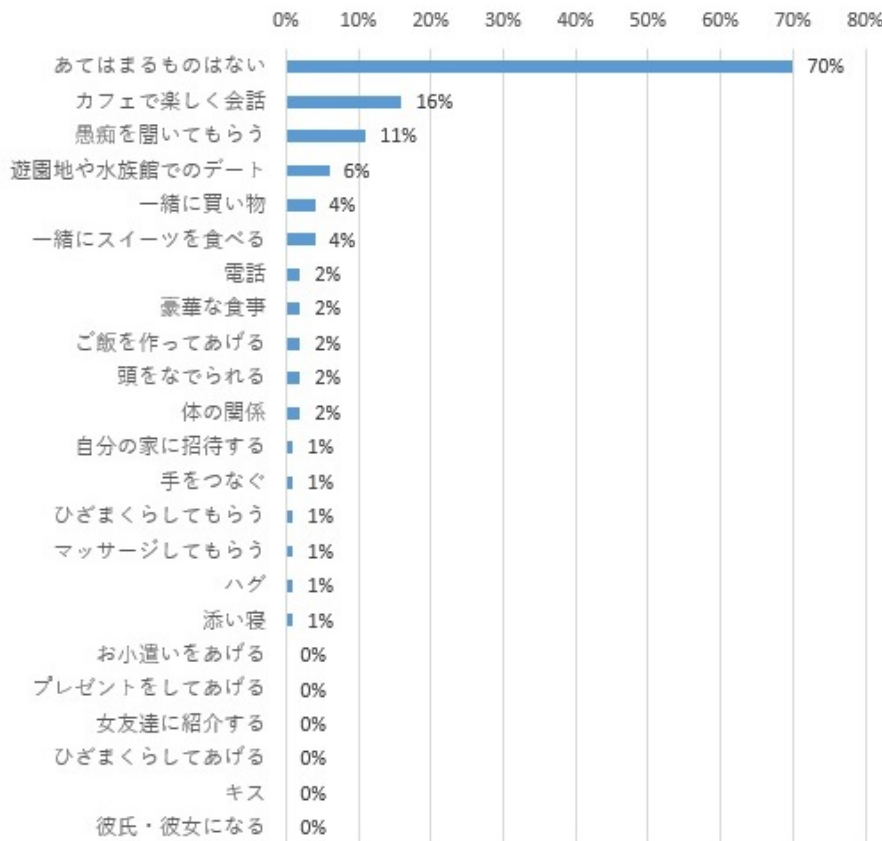
好きになられたら困るから、後腐れないように食事代やホテル代だけは絶対に私が払うようにしています。謝礼はあげたくないけど、あくまでママ活ってことは忘れないで欲しいから、デート代は私が払うんです¹⁴。

この女性も恋愛関係に発展しないために金銭の授受を選択している。これらのことから、金銭が介在しているママ活は、恋愛関係とは一線を画していると言えるだろう。

第三節 女性が求めるもの

では、基本的に恋愛関係への発展を期待しないママ活において、女性は何を求めているのだろうか。ここでは当事者へのインタビュー記事から浮かび上がる三つのことを挙げる。一つ目は、「癒し」である。これはインタビューを通して度々言及されている言葉である。また、30 歳から 49 歳の女性 100 名へのアンケートでもその傾向が見られた。

¹⁴ 「“ママ活”する女性たち。若い男子との添い寝に 1 万円払う心情とは」日刊 SPA !、2019 年 1 月 23 日。 <https://nikkan-spa.jp/1539876> （最終閲覧 2021 年 10 月 30 日）



(図1：仮にあなたが「ママ活」をする場合、「やってみたい」ことは何ですか？ 出典：『ママ活してみたい？』30～40代女性に調査。年下男子にして欲しいことは「女子SPA！」)

別の質問項目において、回答者のうち75%はママ活に興味がないと回答しているため、この質問でも「当てはまるものはない」の項目に回答が集中している。しかし、「カフェで楽しく会話」「愚痴を聞いてもらう」等の項目に回答が集まったことから、女性たちはママ活に精神的な癒しを求めていることが分かる¹⁵。

二つ目として、「母親的な役割を果たす願望」が挙げられる。母性とは、「女性のもつ母親としての性質。母親として、自分の子供を守り育てようとする本能的特質」とされる。しかし大日向雅美は、日本では高度経済成長期に妊娠、分娩、産褥期の一時期に限らず、母であり、母となる可能性を持つ全期間に及んで母性が捉えられるようになったとしている¹⁶。このように、母性の定義は極めて曖昧であるが、ママ活などに関するものとしては、自分の子供のように弱い立場の存在を守り育てたいという願望のようなものとして捉えることができるかもしれない。芸能評論家の三杉武は次のように述べている。

¹⁵ 『ママ活してみたい？』30～40代女性に調査。年下男子にして欲しいことは「女子SPA！」、2018年11月15日。 <https://joshi-spa.jp/889053> (最終閲覧2021年10月30日)

¹⁶ 大日向雅美「新装版 母性の研究 その形成と変容の過程：伝統的母性観への反証」日本評論社、2016年。

売れていないバンドマンとか、お笑い芸人といった下積み時代の生活を支えているのは女性ファンが多い。夢に向かって頑張っている人を応援してあげたい。成熟していない人の面倒を見てあげることに喜びを感じるのでしょう¹⁷。

ママ活における女性も自分より年下の男性を援助することから、これらの人と同じように成熟していない人の面倒を見ることへの喜びを感じていると考えられる。当事者のインタビューを参照すると、41歳の女性は次のように言及している。

家に呼び、手料理を食べさせたら、気持ちが少し満たされたんです。『ママ活』という意識はありません。自分の子供のように面倒を見てあげたいけど、見ず知らずの男の口に手料理を食べさせるのは罪悪感が湧くので、一回 5000 円ほど渡しています¹⁸。

彼女は疑似恋愛というよりも母親気分を味わうためにママ活をしている。これは「自分の子供のような存在を守り育てたい」という願望を満たすための行為であるといえる。一方で、同じく母親的役割を果たすためにママ活をしている女性は、離婚し、息子は地方に行っていることから、ひとりの夕飯が耐えられなくてママ活を始めたという。先述の女性と同様、会うたびに手料理を食べさせて 5000 円を渡すという関係を続けていたというが、次第に恋愛感情のようなものが生まれてきたことを言及している。

はじめは息子みたいにしか思っていなかったんですが、何回もお願いしているうちにだんだん“男”としても見てきちゃって。やっぱり本当の息子じゃないですしね。勇気を出してお泊りをお願いしてみたんです。とはいえ、息子と同年だし、最後までではちょっと……って気持ちもある。だから SEX というより、添い寝とちょっとイチャイチャしたいなあって（笑）。彼も実は彼女がいたらしく『添い寝だけならいいよ』って、需要と供給が一致したというか¹⁹。

息子としての立場と恋人としての立場は相反するもののように捉えられる。しかし、親子ほどの年齢差があるとはいえ男女の関係であるからこそ、恋愛感情は切り離せないものなのではないだろうか。また、相手に彼女がいることについて次のように述べている。

¹⁷ 『ママ活』で補導された 17 歳男子高校生とのお茶の値段は？ 『パパ活』より市場は活性化」週刊朝日、2018 年 11 月 9 日。 <https://dot.asahi.com/wa/2018110800095.html?page=1> （最終閲覧 2021 年 10 月 30 日）

¹⁸ 「ママ活男子にハマる人妻たち」週刊 SPA！、2018 年 12 月 4 日。

¹⁹ 「“ママ活”する女性たち。若い男子との添い寝に 1 万円払う心情とは」日刊 SPA！、2019 年 1 月 23 日。 <https://nikkan-spa.jp/1539876> （最終閲覧 2021 年 12 月 9 日）

彼女がいることを聞いて寂しいなって感情はありましたけど、嘘をつかずに本音を言ってくれて彼の人柄にまた惹かれたというか……。SEX してたらのめり込みすぎてたかもしれませんし、今のこの関係がちょうどいいのかも知れません²⁰。

先述の通り、金銭が媒介すると恋愛関係にはなり得ない。彼女も男性が添い寝をした場合には追加の報酬を支払っていることから、この男性との関係を恋愛関係とは明確に区別しているのではないだろうか。また、性行為を伴わないことで恋愛感情を抑えていることが明らかになった。

三つ目は自己承認欲求を満たすことである。女性誌の編集者は、ママ活をする女性の動機について次のように述べている。

若いイケメン男性相手に性欲を満たすというよりは、食事をしたり、お茶をしたりしながら非日常の時間を楽しんで癒されたり、年下の若い男性の相談に乗ってあげたり、頼られることで、普段の生活では得難い自己承認欲求を満たしたいという思いもあるようです²¹。

つまり、女性は頼られるという行為を通じて自分の価値を確認し、自己承認欲求を満たすためにママ活をしているといえる。また、自身もママ活をしているという 44 歳の主婦は次のように言及している。

20 歳の東大生と温泉旅行に行きました。荷物を持ってくれたり、移動中に手を繋いでくれたりと家庭では絶対に味わえない扱いをされて、女である自覚を取り戻せたんです²²。

当事者は日常で「主婦」という役割を担っており、若い頃感じていたような女性としての自覚を感じられなくなったことから、ママ活においてそれを獲得することで自己承認欲求を満たしていると考えられる。

以上のことから、ママ活を通して女性が求めていることは癒しや母親的な役割を果たす願望、自己承認欲求を満たすことであることが浮き彫りになった。

²⁰ 同上。

²¹ 『『ママ活』もブーム 男子学生と主婦らがアプリで気軽にデート 「パパ活」上回る市場とも』AERAdot.、2018 年 10 月 19 日。<https://dot.asahi.com/dot/2018101900026.html>（最終閲覧 2021 年 10 月 31 日）

²² 「急増する『ママ活』ってなんだ？」週刊 SPA！、2017 年 9 月 19 日・26 日合併号。

第四節 ママ活男子の学歴

従来、女性に養われる男性といえば「ヒモ男」と呼ばれるような成熟していない男性が多かった。例えば、働かずに金銭の援助を求めてきたり、約束や時間に対してルーズだったりする男性である。しかし、同様に金銭の援助を目的とするママ活男子は、ヒモ男とは逆の性質がある。ママ活において女性は男性に高いレベルを求めており、特にそれは学歴に顕著に表れている。ママ活を経験した現役グラビアアイドルでライターの吉沢さりいは次のように述べている。

ママ活男子によると、ママ活は顔より学歴重視な女性が多いらしく、東大や早慶、MARCH など軒並み高学歴な大学生ばかりでした。

ママ活を希望する男子に対して、圧倒的に『ママ』の人数が足りていないのが現状。私が実際に会った青学のイケメン男子でさえ、『東大生や慶応男子のほうが人気で、なかなかママに会ってもらえない』と嘆いていました。パパ活と比較すると、まだまだ需要と供給が合っていないようです²³。

このように、ママ活男子は高い学歴が求められる傾向にあり、その背景として「ママ」である女性よりもママ活男子の方が圧倒的に多く、女性が選ぶ立場にあるため、男性に求める条件が高くなることにある。では、なぜ従来のような「ヒモ男」とは違い、ママ活男子は学歴が重視される傾向にあるのだろうか。42歳で早稲田大学卒の独身OLである女性は、東京大学大学院に通う冴えないサラリーマンのような容姿の男性と、お茶をしたり美術館、博物館などを巡ったりするママ活をしているという。彼女は高学歴の男性を選ぶ理由を以下のように述べている。

顔や身長なんてどうでもいいんです。彼は身長も低いし、中肉中背。誰が見てもイケメンではありません。でも会話がとってもスマートで博識。私は相手に“高学歴で対等に会話が成り立つかどうか”だけしか見ていません。チャラチャラした男の隣で歩いて知り合いに会ったら困りますし。でも東大の子なら、一緒にお茶してても、食事してても、言い訳ができるんです。たとえば、「この子、東大の子なんだけど就職の相談に乗ってるのよ」って²⁴。

つまり、この女性はステータスとしての「高学歴の男性」を求めているというよりも、比較的高いレベルの会話が成り立つこと、ママ活をしている言い訳を作りやすいことという二つの条件を満たすことのできる男性として高学歴を選んでいるといえる。しかし先述の通

²³ 『ママ活』の意外な実態、東大生男子に地味め主婦が多い理由」DIAMOND online、2019年2月23日。<https://diamond.jp/articles/-/194970>（最終閲覧2021年12月24日）

²⁴ 「“ママ活”する女性たち。若い男子との添い寝に1万円払う心情とは」日刊SPA!、2019年1月23日。<https://nikkan-spa.jp/1539876>（最終閲覧2021年12月27日）

り、ママ活をする女性はこのように独身で「バリキャリ²⁵」といわれるような女性だけではなく、一般の主婦も多い。主婦である女性たちは、この女性のように高いレベルの会話をするというよりも、癒されることや母親的役割を果たすことを求めているのではないだろうか。また、男性が高学歴であっても、日常のコミュニティが限られる主婦であればママ活をしていることへの言い訳を作るのは容易ではないと考えられる。では、このような女性たちはなぜ男性に高学歴であることを求めているのだろうか。ライターの亀山早苗は、美魔女ブームの頃から、若い男性とデートをすることで自分の生活をアピールしたいという女性の欲求が顕在化するようになったことにより、ママ活をする女性が増えたと指摘している²⁶。しかし、女性にとって自分の生活をアピールできるような男性の魅力は「若さ」だけではない。その一つとして「学歴」があることで、女性は「高学歴の男性とデートをしている」と事実により自分の生活をアピールしようとしているのではないだろうか。また、ママ側の女性は「男性の夢を支援したい」という名目でママ活をしていることが多い。そのため、比較的学業に熱中していると思われる高学歴な男性を「向上心がある」とみなすことで、彼らを支援したいと考えるのではないだろうか。

第五節 補導や不倫問題への発展

先行研究で取り上げられていたホストクラブやレンタル彼氏が店舗を介した男女の関係構築であったのに対し、ママ活はマッチングアプリや SNS を介した個人間のやり取りによる関係構築が主である。このような身分の不確実性から、高校生への補導や主婦の不倫といった問題へ発展する事例が度々みられる。2018 年 11 月には、17 歳の男子高校生が Twitter でママ活募集を呼びかけ、福岡県警に補導される事例が報じられた。男子高校生は Twitter で「福岡 17 さい ままかつしたい #ママ活募集」と投稿し、サイバーパトロールを行っていた署員が身分を隠してやり取りをすると、「2 時間カフェでまったり会うので 7 千円」と条件を提示した。10 月上旬、待ち合わせ場所の JR 博多駅前にて男子高校生は補導された。県警担当者によると、「17 歳が援助の目的で不特定多数に交際を呼びかけたということで、“不良行為”にあたるため、補導することになりました」という²⁷。山岸純弁護士は、今回の補導は少年法の趣旨に基づくものであると指摘する。「2 時間カフェでまったり会うので 7 千円」という行為が違法になることはないが、「不良行為少年の補導について」が定める「不良行為」のうちの「不健全性的行為」か「金品不正要求」に該当する可能性があり、将来金銭が絡んだ性犯罪事件や、恐喝・強要事件を引き起こす可能性があるから、今のうちに教育するために補導をしたという²⁸。このように、二十歳以上の人であれば他者に関与され

²⁵ 「バリバリのキャリアウーマン」を略した言い方。猛烈に働く女性、ファッションや恋愛よりも仕事やキャリアを重視しているような女性のあり方を意味する語。(引用：実用日本語表現辞典)

²⁶ 「急増する『ママ活』ってなんだ？」週刊 SPA!、2017 年 9 月 19 日・26 日合併号。

²⁷ 『『ママ活』で補導された 17 歳男子高校生とのお茶の値段は？』『パパ活』より市場は活性化』週刊朝日、2018 年 11 月 9 日。<https://dot.asahi.com/wa/2018110800095.html?page=1> (最終閲覧 2021 年 10 月 30 日)

²⁸ 『『ママ活』17 歳の男子高校生が補導も、『ママ側が罰せられることはない』ワケを弁護士解説』cyzo

ない事例であっても、未成年の場合は少年法によって取り締まれ、ニュースでの報道や補導に発展するのである。

また、主婦がママ活をしたことで不倫問題に発展した事例もある。39歳の主婦は、週に一回夜中に男性と会い、二万円程度を渡すことを条件に肉体関係を持ち続けた。そのうち夫との関係が険悪になり、さらには男性が既婚者であったことが発覚する。最終的には男性との関係を実家に告発され、今でも精神的に立ち直れていないという²⁹。この事例では、ママ活をしたことによって、離婚や慰謝料の請求といった夫婦生活が崩壊する事態にまでは発展していないものの、夫婦関係を脅かす出来事になったことは確かである。これを踏まえると、ママ活は不倫になり得るのだろうか。坂爪真吾は、不倫の定義を「既婚者が、配偶者以外の相手と恋愛感情を伴った肉体関係を持ち、かつその関係を継続する意志を相手方と共有していること」としている³⁰。先述の通り、ママ活は金銭を介した関係であることから恋愛関係と切り離され、なおかつ必ずしも肉体関係を持つ訳ではないことから、不倫とは言えないのかもしれない。しかし、民法上では不倫とされる場合がある。夫婦は互いに貞操義務を負っており、平和な共同生活を送る権利を持つ。貞操義務に反した不貞行為の範囲には、性行為以外にも、性交類似行為も含まれている。キスや手つなぎ、抱擁は不貞行為に該当しないとされているが、厳密な線引きはないため、個々の状況や頻度に応じて決められる³¹。夫であるママ活をされた側は、平和な共同生活を送る権利を侵害されたことになり、民法第709条の「故意又は過失によって他人の権利又は法律上保護される利益を侵害した者は、これによって生じた損害を賠償する責任を負う。」によってママ活をした側とその相手に対して損害賠償を請求することができる。また、貞操義務に反した不貞行為をしたという点において、ママ活は民法上での不法行為に該当するとして不倫であると解釈されうる。これらのことから、ママ活をされた側の解釈やママ活の内容に応じてママ活が不倫になり得るといえる。

さらに、先述の通りパパ活に似た現象として「アルバイト感覚の売春の略）」が1980年代前半に流行したが、ママ活も「売春」と似ている現象のように捉えられるかもしれない。しかし、売春防止法では、売春を「対償を受け、又は受ける約束で、不特定の相手方と性交すること」と定義されている。ママ活においてもその多くが「対償を受け、又は受ける約束」がなされているものの、あくまでも両者の合意がある特定の相手に限られていることから売春には当てはまらないといえる。

このように、ママ活は高校生の補導に繋がったり、不倫の温床になったりと問題が付きまとう。この背景として、これまでのレンタル彼氏やホストクラブのような店舗を介した男女関係ではなく、SNSやマッチングアプリを介した個人間の関係であるからこそ、法律を順守

woman、2018年11月8日。https://www.cyzowoman.com/2018/11/post_208506_1.html（最終閲覧2021年12月13日）

²⁹ 「ママ活男子にハマる人妻たち」週刊SPA!、2018年12月4日。

³⁰ 坂爪真吾「はじめての不倫学 『社会問題』として考える」光文社新書、2015年。

³¹ 同上。

した制度を整えることが難しいことにある。

第二章 メンズ地下アイドルにおける「男性の商品化」

本章では、メンズ地下アイドルに焦点を当て、従来の男性アイドルや女性地下アイドルとの比較、さらにはインタビュー記事を通し、アイドルとファンがどのような関係を構築し、ファンの女性が何を得ようとしているのかを明らかにしていく。また、ママ活とはまた違うトラブルも頻発している点についても考察する。

第一節 メンズ地下アイドルの概要

メンズ地下アイドルとは、ライブハウスでのパフォーマンスや、チェキ撮影といった特典会を中心に活動する男性アイドルを指す。特に特典会での疑似恋愛的なサービスが特徴である。グループによってどの程度のサービスをするかは異なるが、メンズ地下アイドル特有のサービスとしては「粘膜接触以外 OK」という謳い文句のもと、人差し指を挟んで唇を接触させる「指チュー」、ハグ、お姫様抱っこ、壁ドン³²等が挙げられる。このようにサービスが過激化した背景には、個々のグループが他のグループとの差別化を図ったことにある。また、メンズ地下アイドルは雲の上の存在と言われるような従来の男性アイドルとは違い、金銭を支払えば会話や接触等ができる身近さから、ホストのアイドル版のように捉えられることもある。彼らの歴史は浅く、2010 年頃から今のようなスタイルのパフォーマンスグループがいくつか立ち上がり始めたと考えられ、女性の地下アイドルと比べるとグループ数は少ない³³。ファンは 20 代の女性を中心である。

第二節 ジャニーズアイドルと比較した特異性

長らく男性アイドル市場はジャニーズが中心となっていた。そのため、メンズ地下アイドルのファンへのインタビュー記事や男性アイドル研究ではジャニーズと比較した言述が多い。ゆえに、本研究では近年のジャニーズアイドルとメンズ地下アイドルを比較することで、メンズ地下アイドルの特異性を考察する。現代アイドルを分析する西条昇、木内英太、植田康孝は、ジャニーズアイドルの二面性を指摘している。ジャニーズアイドルは「わちゃわちゃ感」と呼ばれる男性同士の親密さや絆をアピールしたり、アイドル同士の身体的接触等の同性愛的な表現がなされたりすることにより、女性の存在を無化する「偶像」になることに成功している。さらに、嵐のような「普通度」の高いメンバーで構成されたグループの台頭や、学校や家での出来事等のオフの演出により、彼らは現実空間にいる「キャラクター」としても認識されている。それゆえ、男性アイドルが女性ファンにとって異性愛関係を結べな

³² 壁を背にした女性の前に立ち上がった男性が壁に手をドンとかけて女性を追い詰める動作のこと。メンズ地下アイドルの特典会では、アイドルが壁ドンをしてファンと体を密着させる風景が度々見られる。

³³ 上岡磨奈「メンズアイドルの見えざる世界—『指チュー』の向こう側」『ユリイカ 2019 年 11 月臨時増刊号 総特集—日本の男性アイドル』青土社、2019 年。

い存在であると同時に、身近なレベルで自分の好みと合致させやすい存在としても構築されるようになっているとした³⁴。

メンズ地下アイドルにおいても「偶像」と「キャラクター」の二面性がみられるのだろう。彼らはライブハウスに行けば会話や接触ができるアイドルであることから、ジャニーズアイドル以上に現実空間にいる「キャラクター」という面が強い。「偶像」という性質はどうだろうか。メンズ地下アイドルは先述の通り疑似恋愛サービスを提供し、ファンがアイドルと恋人のごとく接触でき、他のファンがアイドルと接触するのを目の当たりにすることも多い。また、イベント関係者は次のように言及している。

アイドルとファンの子がデキてしまい妊娠したケースもあります。責任をとって結婚したけど、結局は離婚。そういうふうには、あわよくば深い関係になれちゃう期待感があるからおっかけがやめられない。だからこそ、こちらもビジネスとして成立していますし³⁵。

ジャニーズアイドルは異性愛関係を結べない存在であるのに対し、メンズ地下アイドルはこのような距離の近さから異性愛関係を結びえる存在であるため、女性の存在を無化する「偶像」という性質は見られない。

第三節 恋愛の商品化

先述の通り、メンズ地下アイドルはレンタル彼氏や出張ホストのように恋愛を避けることなく、彼ら自身も疑似恋愛サービスに徹していることから、恋愛を商品にしているのではないだろうか。現役地下アイドルは、ファン心理について次のように述べている。

推しの売り上げを巡って、女同士の戦いになっているのかも。ライブが終わった後、物販があるんですけど、大体どこのユニットもチェキを1枚買くと、1分話せるんです。それが1人1枚とか決まりがないから、ライブハウスの時間が許す限りは物販してるところがほとんど。だから何枚も買えばそれだけ推しのメンバーを独占できるんです。結局、ファンの……というより女同士の嫉妬だと思います。個室ではなく、フロアでやるので、どの子がどれだけお金を使っているかもすぐわかってしまいますから、競争心が出てくる³⁶。

つまり、アイドルへの恋愛感情が芽生えることで他のファンをライバルとみなし、嫉妬や競

³⁴ 西条昇、木内英太、植田康孝「アイドルが生息する『現実空間』と『仮想空間』の二重構造 ―『キャラクター』と『偶像』の合致と乖離―」『江戸川大学紀要』26巻、2016年。

³⁵ 「会いに行けるイケメンに群がる女たち」週刊SPA!、2013年11月12日。

³⁶ 「メンズ地下アイドルのサービスが過激化。ハグ、壁ドン、ポッキーゲーム…」日刊SPA!、2019年4月7日。<https://nikkan-spa.jp/1564121>（最終閲覧2021年11月17日）

争心、独占欲が生まれると考えられる。また、Abema TV のメンズ地下アイドル特集番組において「推しに貢ぐのは何のため？」という質問に対し、ファンは「単純に話したいし、周りに『(私は) これだけお金ありますよ』っていう意味で使うこともたまーにある。」と回答した³⁷。通常サービスの売買は「サービスを売る側」と「サービスを受ける側」の二者間取引がなされる。しかし、この場合においては「サービスを受ける側」の女性が「サービスを売る側」のアイドルに対して金銭を支払っているというよりも、他の「サービスを受ける側」の存在によって購買意欲が生まれているのである。これらのことからメンズ地下アイドルのビジネスは、彼らの魅力が商品になっているだけではなく、ファンの女性の恋愛感情の芽生えによる嫉妬心や競争心、独占欲があることで成り立っているとも言えるのである。

第四節 女性アイドルとの相違点

メンズ地下アイドルのファンの特異性を考察するにあたり、女性地下アイドルの男性ファンと比較する。女性の地下アイドルとメンズ地下アイドルの両方をプロデュースする男性は、以下のように言及している。

結局、メンズ地下アイドルは売り上げがあがりやすいけど、売れにくい。分子と分母でいうなら、分子である売り上げは増えるのに、分母であるファンが増えにくいんですよ。そこは本当に男女の違いかなと思います。男のファンって財力には限界があっても「なんとかこの子をこのユニットをメジャーにしてあげたい」って気持ちがある。だから1枚でも多くワンマンのチケットとかを買って、他のオタクに配ったりするんです。一方で、女のファンって推しを“独り占め”したいんですよ。チケットを余分に買って新規を増やそうっていうより、1枚でも多くチェキを買って推しを独占したい。ファン同士っていうよりライバル同士と捉えてしまうのかもしれないね。だから、新しいライバルが増えるぐらいなら、自分が稼いで貢ぐ！ ってなるんじゃないかな。結局それだと推しのメンバーは稼げても、ユニットは売れないですよ³⁸。

つまり、女性アイドルのファンは財力に限界があってもアイドルを有名にさせたいという願望が強いのにに対し、メンズ地下アイドルのファンはむしろアイドルが有名になることに抵抗感を示しながら、アイドルを独占したいという願望が強いことがわかる。また、男女の財力の違いについて現役地下アイドルは以下のように述べている。

最初はOLだった子がキャバ嬢になったり、風俗嬢になったり。要するに、女のコには限界がないんですよ、稼ぎに。男だったら稼ぎたくても限度があるけど、女

³⁷ 「The NIGHT [土曜] #141：知られざるメン地下アイドルの実態」Abema TV、2021年5月23日。

³⁸ 同上。

のコは職業を変えてしまえば、どんどん稼げるじゃないですか³⁹。

このことから、女性は男性と比べると稼ぎやすい一面があることがわかる。これに加え、パパ活によって得た稼ぎをアイドルに使うファンも存在する。このような女性特有の稼ぎ方や性質により、メンズ地下アイドルの女性ファン同士による競争が激化する傾向にあるのかもしれない。

第五節 ママ活女性との類似点

先述の通り、ママ活において女性が男性に求めることに一つに「母親的な役割を果たす願望」があるが、これは自分の子供のように弱い立場の存在を守り育てたいという願望と言い換えられる。メンズ地下アイドルの事例においても、売れないアイドルとお金を持っているファンの女性という関係があり、女性が「母親的な役割を果たす願望」を持っているのではないだろうか。メンズ地下アイドルの中でも地底アイドル⁴⁰のライブや特典会に月 10 万円ほど使うという女性は、高額のお金を使う理由について「推しメンとの時間を共有したいという思いよりも、推しメンのためになりたいという思いの方が大きいから」と言及した⁴¹。つまり、この女性は自分が金銭を支払うことでサービスという見返りを求めているというよりも、夢を追いかけてながらも報われない男性を支えたいという動機があることがわかる。また、別のファンの女性はメンズ地下アイドルにハマる理由として「親視線。成長していく姿を見たい」と述べている⁴²。ママ活におけるママ側の女性も同様に、ママ活男子を自分の息子のように扱うことで、母親的な役割を果たす願望を満たしていた。しかし、メンズ地下アイドルのファンの女性と大きく違う点は当事者の年齢である。ママ活における男女はほとんどが親子ほどの年齢差があるのに対し、メンズ地下アイドルは 20 代から 30 代、ファンは 20 代とほぼ同年代である。このことから、男性を商品化することで母親的な役割を果たす願望を満たすという行為は、当事者の年齢に関係なく女性が持ち得る欲求であるといえる。

第六節 恋愛感情によるトラブル

これまで考察してきたように、メンズ地下アイドルとそのファンは従来の男性アイドルと比べると距離が近いゆえに、恋愛が商品化されている。しかし、それに伴う女性の嫉妬心や競争心、独占欲がトラブルを生むケースもある。イベント関係者はメンズ地下アイドルに実際に起こったトラブルについて以下のように述べている。

³⁹ 同上。

⁴⁰ 地下アイドルの中でもファンが少なかったり、小規模なライブハウスでパフォーマンスを行ったりするような知名度の低いグループを指す。

⁴¹ 『『もう彼氏は作らない』過激サービスに月数十万円、パパ活する女性も…男性地下アイドルファン『リアコ』たちの思い』ABEMA TIMES、2018 年 8 月 13 日。 <https://times.abema.tv/articles/-/4731608>（最終閲覧 2022 年 1 月 8 日）

⁴² 「給与明細本編 # 5 : 【1 時間 SP】1 ヶ月で数千万稼ぐ?! メンズ地下アイドルの“光と影”」Abema TV、2018 年 4 月 29 日。

たとえばリップサービスでAさんに“愛してる”と言った場合、BさんはAさんに嫉妬し見るに堪えない罵詈雑言をネットに書き殴るのみならず、そのアイドルを逆恨みすることがある。過去には下剤入りのお茶を渡し、飲んだアイドルがその場で倒れるという事件も起こりました⁴³。

このように、他のファンへの嫉妬が購買意欲を促進するだけにとどまらず、ネット上の問題に発展することもある。また、ファンのプレゼントが問題を引き起こすのはメンズ地下アイドルに限った話ではない。しかし、同じ男性アイドルのジャニーズでいえば、トラブル回避のためにファンからの贈り物を手紙に限定している。メンズ地下アイドルはファンとの距離が近いからこそ、このような危険を回避する手段が構築されていない部分も多々ある。また、アイドル本人は実際に受けた被害について以下のように述べている。

家までストーキングしてくる人もいます。また、その情報を周りのファンに喋るから、こっちは引越しの連続。俺たちも役者や歌手として成功したいだけで、男版の芸者みたいなマネはしたくない。でも大体は事務所やマネージャーもついてないし、ついても弱小。自分対処するしかない。鬱病になってやめるヤツも大勢いますよ⁴⁴。

アイドルといえど身近な存在であり、恋愛が商品になっているが故に、ファンは「アイドルとしての男性」と「プライベートの男性」を区別できず、プライベートを侵害してしまう。アイドルが実際に被害を受けた後であれば警察にしかるべき対処をとるよう要請することは可能だが、先述の通りメンズ地下アイドルは大手の男性アイドルとは違い、事務所などによるマネジメントが機能していないからこそ様々なトラブルが起こってしまう。ママ活が個人間の関係であるからこそ制度が整っていない状況にあるのと同じように、メンズ地下アイドルにおいてもアイドルとファンの境界線が曖昧であったり、マネジメントが機能していなかったりすることでトラブルに発展するのである。また、ママ活とメンズ地下アイドルの双方において、まだ歴史の浅い事象であるからこそ制度が整っていないとも考えられる。

おわりに

本研究ではこれまでジェンダー研究の対象とされていなかった「ママ活」「メンズ地下アイドル」の市場における人間関係と商取引の関係を分析することで、女性が金銭の対価として何を求めているのかを明らかにすることを試みた。ママ活において女性は癒し、母親的な

⁴³ 「会いに行けるイケメンに群がる女たち」週刊SPA!、2013年11月12日。

⁴⁴ 同上。

役割を果たす願望や自己承認欲求を満たすことを求め、メンズ地下アイドルのファンの女性たちはアイドルとの恋愛を求めていることが明らかとなった。

「女性の商品化」に比べると、「男性の商品化」はまだ少ない状況にあるが、本研究で考察した「ママ活」や「メンズ地下アイドル」のように、新しいサービスは確実に増加している。既に女性の社会進出が進んでいることで、女性の経済的余裕が生まれているのに加えて、晩婚化が進むことで性の商品化市場はさらに活性化していくことが予測される。また、2021年には女性の自殺者が急増した。これはコロナウイルスの感染拡大の影響もあるが、社会の中で女性が孤独を感じていることも背景にある。厚生労働省が自殺防止を目的に実施した SNS による若者向け相談事業では、平成 30 年度の相談者数の 92.1%が女性で、男性は 7.9%であり、それだけ孤独から抜け出す救いを求めている女性が多いといえる⁴⁵。このような状況の中で、例えばママ活で癒され、自己承認欲求を満たしたり、メンズ地下アイドルとの疑似恋愛を楽しんだりすることは一種の自殺防止になり得ると考えられる。こういった状況を踏まえると、男性を商品化したサービスはニーズとともに増えていくのではないだろうか。しかし、既に考察したように、このようなサービスにはトラブルや法的問題等が付きまとうため、リスクを考慮したうえで享受することが重要である。

【参考文献】

- 飯野智子「多様化するセクシュアリティの消費形態 ―女性向けセクシュアリティ産業の調査より―」『実践女子大学短期大学部紀要』36 巻、2015 年。
- 飯野智子「男性学・男性研究と今日の男性問題についての考察」『実践女子大学短期大学部紀要』39 巻、2018 年。
- 太田幸治「サービス・コンセプトとサービスの構成要素の関連性についての一考察」『経営総合科学』101 巻、2014 年。
- 大日向雅美「新装版 母性の研究 その形成と変容の過程：伝統的母性観への反証」日本評論社、2016 年。
- 上岡磨奈「メンズアイドルの見えざる世界―『指チュー』の向こう側」『ユリイカ 2019 年 11 月臨時増刊号 総特集―日本の男性アイドル』青土社、2019 年。
- 西条昇、木内英太、植田康孝「アイドルが生息する『現実空間』と『仮想空間』の二重構造―『キャラクター』と『偶像』の合致と乖離―」『江戸川大学紀要』26 巻、2016 年。
- 坂爪真吾「はじめての不倫学 『社会問題』として考える」光文社新書、2015 年。
- 坂爪真吾「パパ活の社会学 援助交際、愛人契約と何が違う？」光文社新書、2018 年。
- 志田雅美「女性の主体性に関する一考察 ―「ホストクラブ」という場から―」『社会シス

⁴⁵ 「政府が『孤独・孤立対策担当室』を設置 コロナ禍で問題顕在化」産経新聞、2021 年 2 月 19 日。
<https://www.sankei.com/article/20210219-AVCTHSHNMVJQXJYQDYEFDOKB5A/>（最終閲覧 2022 年 1 月 11 日）

テム研究』20 巻、2017 年。

田村うらら「トルコの定期市における売り手-買い手関係 ―顧客関係の固定化をめぐる―」『文化人類学』74 巻 1 号、2009 年。

松本妃奈子「現代日本における『パパ活』の進展と性の非対称性の検討 ―イアン・ハッキング Grade of commitment 適用の試み―」『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』361 巻、2021 年。

渡部瑞希「経済取引における『賭け』と『フレンドシップ』―カトマンズの観光市場、タメルにおける宝飾商人の事例から―」『文化人類学』79 巻 4 号、2015 年。

「会いに行けるイケメンに群がる女たち」週刊 SPA !、2013 年 11 月 12 日。

「急増する『ママ活』ってなんだ？」週刊 SPA !、2017 年 9 月 19 日・26 日合併号。

「ママ活男子にハマる人妻たち」週刊 SPA !、2018 年 12 月 4 日。

「メンズ地下アイドルのエグい錬金術」週刊 SPA !、2019 年 2 月 12 日・19 日合併号。

一般社団法人交際クラブ協会 <https://dateclub.or.jp/about/> （最終閲覧 2021 年 12 月 24 日）

「『完全にママ活ですよ』バイト先の大学生とセックスする日々……子持ち女性が『1 万円を渡し続けた』ワケ」cyzo woman、2020 年 11 月 3 日。
https://www.cyzowoman.com/2020/11/post_309375_1.html （最終閲覧 2021 年 10 月 30 日）

「政府が『孤独・孤立対策担当室』を設置 コロナ禍で問題顕在化」産経新聞、2021 年 2 月 19 日。
<https://www.sankei.com/article/20210219-AVCTHSHNMVJQXJYQDYEFDOKB5A/>
（最終閲覧 2022 年 1 月 11 日）

「『出会い喫茶がアタシんち』歌舞伎町で放浪する 19 歳がそれでも笑顔の理由」PRESIDENT Online、2020 年 8 月 14 日。
<https://president.jp/articles/-/37761> （最終閲覧 2022 年 1 月 11 日）

風俗営業許可申請全国マップ <http://www.fuuei.com/topics/index-157.html> （最終閲覧 2021 年 12 月 24 日）

「不貞行為（浮気・不倫）の相手方の責任について」離婚の法律相談小西法律事務所、2021 年 8 月 23 日。
<https://www.rikon-konishi.com/topics/column/cause/adultery/3246/>
（最終閲覧 2021 年 12 月 24 日）

「『ママ活』17 歳の男子高校生が補導も、『ママ側が罰せられることはない』ワケを弁護士解説」cyzo woman、2018 年 11 月 8 日。
https://www.cyzowoman.com/2018/11/post_208506_1.html （最終閲覧 2021 年 12 月 13 日）

「『ままかつしたい』高 2 男子補導…『ママ活』『パパ活』って違法じゃないの？」弁護士ド

ットコムニュース、2018 年 11 月 28 日。https://www.bengo4.com/c_23/n_8906/（最終閲覧 2021 年 12 月 8 日）

『ママ活してみたい?』30~40 代女性に調査。年下男子にして欲しいことは」女子 SPA!、2018 年 11 月 15 日。<https://joshi-spa.jp/889053>（最終閲覧 2021 年 10 月 30 日）

「“ママ活”する女性たち。若い男子との添い寝に 1 万円払う心情とは」日刊 SPA!、2019 年 1 月 23 日。<https://nikkan-spa.jp/1539876>（最終閲覧 2021 年 10 月 30 日）

『ママ活』で補導された 17 歳男子高校生とのお茶の値段は? 『パパ活』より市場は活性化」週刊朝日、2018 年 11 月 9 日。
<https://dot.asahi.com/wa/2018110800095.html?page=1>（最終閲覧 2021 年 10 月 30 日）

『ママ活』の意外な実態、東大生男子に地味め主婦が多い理由」DIAMOND online、2019 年 2 月 23 日。<https://diamond.jp/articles/-/194970>（最終閲覧 2021 年 12 月 24 日）

『ママ活』もブーム 男子学生と主婦らがアプリで気軽にデート 「パパ活」上回る市場とも」AERAdot.、2018 年 10 月 19 日。<https://dot.asahi.com/dot/2018101900026.html>（最終閲覧 10 月 31 日）

「メンズ地下アイドルのサービスが過激化。ハグ、壁ドン、ポッキーゲーム…」日刊 SPA!、2019 年 4 月 7 日。<https://nikkan-spa.jp/1564121>（最終閲覧 2021 年 11 月 17 日）

『もう彼氏は作らない』過激サービスに月数十万円、パパ活する女性も…男性地下アイドルファン『リアコ』たちの思い」ABEMA TIMES、2018 年 8 月 13 日。
<https://times.abema.tv/articles/-/4731608>（最終閲覧 2022 年 1 月 8 日）

「給与明細本編 # 5 : 【1 時間 SP】1 ヶ月で数千万稼ぐ?!メンズ地下アイドルの“光と影”」Abema TV、2018 年 4 月 29 日。

「The NIGHT [土曜] #141 : 知られざるメン地下アイドルの実態」Abema TV、2021 年 5 月 23 日。

不自由さを生き抜く「女子」像の演技
－「女の子写真」と「美術館女子」から見る若年女性のアンビバレンス－

村松美優

目次

はじめに

第一章 「女の子写真」と「美術館女子」

第一節 女の子写真と美術館女子の概説

第二節 女の子写真と美術館女子における類似点の分析

第二章 被写体女性への視線

第一節 芸術における女性身体消費－ヌードをめぐる身体の意味－

第二節 男性視線の内在

第三章 女子カテゴリーが女性にもたらすもの

第四章 女の子言説への対応

第五章 言説への抵抗－ポストコロニアリズムの視点から－

おわりに

参考文献

はじめに

平成を迎えた 1990 年代、世間の若い女性はコンパクトカメラで写真を撮ることに熱中した。写真批評家の飯沢耕太郎は、この現象を「女の子写真」と称した¹。「好きなものを好きなように撮る」女の子達に注目したメディアは、「女の子写真家」である若手女性写真家をコンテンツ化していった。

この潮流から約 20 年後の 2020 年 1 月、女の子写真家とされた長島有里枝により「当事者から異議を唱えます」という趣旨で女の子写真潮流を捉え直し、そこに存在していた女性蔑視を指摘する著書が発表された²。また、同年 6 月には、読売新聞オンラインと美術連絡協議会による「美術館女子」がサイトと同紙面上で公開された。しかし、サイト開始から一ヶ月も経たず公開停止を余儀なくされた³。この企画は、女性アイドルが美術館を巡る様子を写真で紹介し、「アートの力を発信」することを試みるものであった。しかし、「〇〇女子は差別的」、「美術に男も女もない。」「美術館がアイドルの背景になってしまっていて、メインがアイドルである。」といった批判が寄せられ、企画は打ち切りとなった⁴。女の子写真と美術館女子への批判は、「女子」という枠組みによって個人がまとめ上げられ、イメージを押しつける言説が広まっていたことが問題視されていることを示している。しかし、言説によって表象されてきた女性達が、自身に押しつけられたイメージとどのように闘い、一元化してしまう言説を批判の対象にまで浮かび上がらせてきたか、その戦術とも言える動きは未だ論じられていない。

そこで本稿では、多様な個人の特徴を覆い隠し、伝統的なジェンダー規範を再生する「女の子らしさ」のイメージを植え付ける機能を果たしてきた女子言説の問題点と、女子言説の構築・再生産に対して女性達がとったアンビバレントな行為に着目する。そして、女性達がとった行為の中にあらわれる相反性をポストコロニアリズムの「不適切な模倣」を用いて分析していく。

論の進め方としては、まず「女の子/女子」と美術が紐付けられた二つの言説を取り上げ、サイトや雑誌等のメディアにおける女性の発言から、美術界における「女子言説」の成立が女性達にどのような意味を持ち、批判されるに至ったのかを考察していく。その上で、言説の成立が権力構造と密接に結びついていることを示し、言説によって付与されたイメージを自覚した女性達が、自らの考えや作品を表現していく範囲を拡大させていった戦術とも言える対応を取り上げる。

¹ 飯沢耕太郎『シャッター&ラヴ：Girls are dancin'on in Tokyo』インファス、1996 年。飯沢耕太郎『女の子写真の時代』NTT 出版、2010 年。

² 長島有里枝『「僕ら」の「女の子写真」からわたしたちのガーリーフォトへ』大福書林、2020 年。

³ 「アートの魅力を女子目線で再発見！ 読売新聞オンラインで新プロジェクト『美術館女子』スタート」2020 年 6 月 12 日 <https://www.atpress.ne.jp/news/215340> （最終閲覧 2021 年 10 月 20 日）。

⁴ 産経新聞「キャンペーン企画『美術館女子』、批判受け公開終了」2020 年 6 月 29 日 <https://www.sankei.com/life/news/200629/lif2006290032-n1.html> （最終閲覧：2021 年 10 月 20 日）。

第一章 「女の子写真」と「美術館女子」

本章では、「女の子写真」と「美術館女子」の概要を述べ、類似点を分析する。そこから、専門性の高いとされる美術の領域に若年女性が参画する際に見られた矮小化と撮影行為に現れる性的役割分業を指摘する。

第一節 女の子写真と美術館女子の概説

「女の子写真⁵」は1990年代に若い女性写真家を中心として生まれた写真の潮流であり、同世代の女性に一大写真ブームを巻き起こした⁶。「女の子写真家」の台頭は、男性中心であった写真界に新しい風穴を開けたと評された⁷。例えば飯沢耕太郎はその著書の中で、90年代前半に存在感を増し始めた20代女性写真家16名を「女の子」と表現し、紹介している⁸。飯沢によると、女の子写真家達は、技術進歩によって軽量化され操作が簡単になったコンパクトカメラの普及で、女の子特有とされるガジェットへの苦手意識が払拭された結果、台頭したという。また女の子写真については、女の子が感性の赴くままに「化粧品とほとんどかわらない⁹」コンパクトカメラで「好きなもの、魅力的なもの、カワイイものが目の前に現れた瞬間に（略）シャッターを切る¹⁰」と説明している。一方、「男の子¹¹」の写真は「フェティッシュな呪具」としてのカメラで「不安をえぐり出し、不幸を断罪する」のだと述べている¹²。この飯沢の解説に見られるように、理性と専門知識を持ち社会的意義のある芸術を生み出す男性写真家と、感性に突き動かされ専門知識を持たず取るに足らない写真を撮る女性写真家が対置され、新しい視点を持つ写真家として女の子写真家たちを評価しながら、正当ではない特異な存在の役割を女性に担わせている。

一方「美術館女子」は、読売新聞オンラインと美術連絡協議会の合同企画であった¹³。企画の趣旨は、女性アイドルグループのメンバーが「各地の美術館を訪れ、写真を通じて、アートの力を発信していく」というものであった。初回では、メンバーの1人が東京

⁵ 「女の子写真」という言葉を生み出し、それに関する講評を多く発表した飯沢によると、「女の子写真」の特徴は1)「半径5メートル以内」の被写体 2) コンパクトカメラの使用 3) ノードを含むセルフポートレイトの三点とされる。飯沢耕太郎『シャッター&ラヴ：Girls are dancin'on in Tokyo』インファス、1996年。

⁶ 長島、前掲書、I頁。

⁷ 写真家の性別は評論に大きく影響している。例えば、武田花と星野道夫の二名が同時に受賞した第15回木村伊兵衛写真賞における選考委員の一人である写真家の篠山紀信による選評は、受賞時30代後半であった武田に対し「処女」や「モノや町との、はじめてのコト」といった性行為を暗喩し写真家としての経験の浅さや未成熟さを仄めかす言葉を含んだ選評をしているのに対し、同じく30代後半の星野に対しては「命がけで立ち向かう」「一人の男の知的な闘い」「初々しくも力強い」といった若々しく活発な男性像を強調し、新人賞として選出された両者の「新しさ」にも差が生まれている。

⁸ 飯沢耕太郎『シャッター&ラヴ：Girls are dancin'on in Tokyo』インファス、1996年。

⁹ 飯沢耕太郎、同上書、156頁。

¹⁰ 飯沢耕太郎、前掲書、156頁。

¹¹ 飯沢は著書の中で「男の子」の対比として「かつて男の子だった者たち」という意味で男性写真家を「男の子」と呼んでいる。

¹² 飯沢耕太郎、「少女環境と写真の現在」『スタジオボイス』1996年3月号、インファス、18頁。

¹³ 読売新聞オンライン「美術館女子」<https://www.yomiuri.co.jp/s/ims/bijyutukanjyoshi01/>（サイト閉鎖済み）。

都現代美術館を訪れた様子の写真と、メンバー目線の語りとされる文章が掲載された¹⁴。しかしサイト公開直後から批判意見が相次ぎ、公開を終了せざるを得なくなった。ここで論点となったのは、1) 企画全体に見られた「女子」性の有徴化 2) 芸術作品の背景化 3) 女性を被写体に留めその存在を客体化していることであったと言われている¹⁵。

まず、企画全体の「女子」の有徴化の例として挙げられるのは企画名とサイト上の文章である。美術館女子という企画名は、「女子は普通美術館に行かない」という前提のもと、美術館における若い女性の存在を特徴付けており、様々な年代、性別の人が存在する美術館の観客のなかで若い女性は、美術館にとって新しい存在であるような印象を与える。また、サイト内の文章の中には「アイドルではなく、『作品』としての〇〇（女性アイドル名）」という文言がみられる。これは、美術館にある作品ではなく、写真に映る女性が「作品」の中心テーマであるということを表している。

第二節 女の子写真と美術館女子における類似点の分析

女の子写真と美術館女子は、以下の二つの点で類似していると分析する。一つは、芸術に関わる「若い女性」を特別視した表現によって彼女たちを矮小化している点、そしてもう一つは男性が撮影者であり、女性が被写体という男女の主体/客体の性役割を前提としたスタンスをとり、消費対象は芸術作品ではなく女性自体つまり女性の身体であるように読み取られる点である。

「女の子写真」にまつわる語りからは、「女の子写真家」の台頭以前にも存在した女性写真家の系譜や文脈を断ち切り、「若い女の子」が専門知識や技術を持たずに撮影する雑多な写真に価値があるとされた。一方、「美術館女子」企画は、美術館の落ち込んだ客足を回復させるために「アートの力を発信」していくことが目的であったにもかかわらず、企画名に「女子」という特定のジェンダーを明記し、内容においてもサイトの閲覧者が「若い女性」のみであると捉えられるような構成をとる。そのうえで、ターゲット層である若い女性の多くが「知らなかった」と考えられる美術館をソーシャルメディアにおける「映えスポット」として表象することで、美術館の集客につながるという意図があると推測できる。

女の子写真と美術館女子では、「芸術」という理解し生産するのに知識や技術が必要とされる領域に踏み込んだ経験が浅く、未発達な存在を想起させる女子や女の子という言葉を用いて名称を付けることでカテゴリー化し、彼女らの「感性」や技術や知識への無頓着さを表向きには称賛し肯定する。しかし、これは逆説的に「知識を持たないながらも専門

¹⁴ 毎日新聞 2020年6月24日 東京夕刊 7頁。

¹⁵ 美術手帖 「『美術館女子』は何が問題だったのか。『美術界のジェンダー格差を強化』『無知な観客の役割を女性に』」2020年6月15日 <https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/22140>（最終閲覧2021年10月20日）。

日）。東京新聞 WEB 「閉鎖に追い込まれた『美術館女子』 女性は『見られる』 <寄稿>吉良智子さん」2020年7月8日 <https://www.tokyo-np.co.jp/article/40981>（最終閲覧2021年10月20日）。

領域に足を踏み入れた理性の欠如した存在」というイメージを、芸術に関連した若い女性に当てはめている。

また、男女の性役割を前提とした撮影者と被写体の関係は、「女の子写真家」の撮影したセルフヌードのメディアにおける語られ方と「美術館女子」での写真へのコメントから読み取ることができる。女の子写真家のなかには飯沢が指摘したとおり、ヌードを含むセルフポートレイトを一つの表現方法とする写真家が存在した。その1人が長島有里枝である。長島は、1993年11月にパルコが主催する現代美術の公募展「URBANART」にて準グランプリであるパルコ賞を受賞した¹⁶。受賞作品である「セルフポートレイト！1・2」は家族と自分自身のヌードを撮影したもので、この作品をきっかけに長島の存在はアート界だけではなく、テレビや雑誌・新聞などのメディアに取り上げられた。特に、雑誌においてセルフヌードをポルノグラフィーと紐付けた文脈で語られることが多く、それらは「20歳現役美大生¹⁷」の「女の子」が受賞したという背景を含めた彼女の存在が色濃く描かれた。さらに、長島がパルコ賞を受賞した翌年1994年頃には「ヘア・ヌード」写真ブームが生まれたとされる。1994年発行の「週刊SPA!」では、「ワタシのハダカはワタシが撮ります 女たちのセルフヌード願望」という特集にて6名の「セルフヌード」写真家へのインタビューとそれぞれの作品が記載されている¹⁸。誌面では、ヌード写真を「その写真のすべてが男にとって、気分のいいモノとは、言いがたい。面白いけどヌケはしない。」と表現している¹⁹。さらに、同書では風俗研究家の松沢呉一が女性のセルフヌードの流行は、男でも女でもある“人前で脱ぎたい願望”が起点となっており、「男でも酔っぱらって尻出すヤツがいるじゃない。でも女には世間の縛りがあるってケツは出せない。そこに”写真ブーム”が登場して、女の裸の写真が公認され、飛びついたわけ。」とまとめている²⁰。しかし、インタビューにおいて写真家達の語りは必ずしも松沢の説に当てはまるとは言えない。長島や山本は、セルフポートレイトは写真や美術表現において歴史ある主題であることとしており、長島はそれが「裸だからと言って特別視するものではない」と主張している²¹。また、自分を含めた女性のポートレイトを撮影するトキは被写体である女性と同じように自分もヌードになって撮影することもあり、それは「撮る・撮られる側という関係を崩して一体化したいから」であると述べる²²。このように、セルフヌードは松沢の分

¹⁶ 長島、前掲書、40頁。

¹⁷ 「FLASH」1993年11月23日号では、長島がパルコ賞を受賞した記事に「迫力！家族ヌードでパルコ賞を獲得した二〇歳美大生」という見出しで紹介しているほか、ヘア・ヌード写真の系譜を継ぐスタイルのグラビアで構成された雑誌「SUPER G」では1994年に刊行されたNo.2、No.3にて長島の作品が取り上げられる。その見出しはそれぞれ「現役美大生（二〇才。学生証持参）ゆりちゃんのヘア出しセルフポートレイト。」、「ゆりちゃん（二一才。現役美大生）の日替わり・オカズ集。」であり、長島の若い女性、特に「大学生」としての側面が強く印象付けられている。

¹⁸ 長島有里枝、坂本香奈、酒井由里子、トキナオミ、安珠、山本陽子の六名。

¹⁹ 「週刊SPA!」1994年3月23日号、57頁。

²⁰ 長島、前掲書、51頁。

²¹ 長島、同書、51頁。

²² 「週刊SPA!」1994年3月23日号、55頁。

析とは異なり、特集された写真家にとっては表現手段の一部に過ぎなかった。実際、長島は、家族のヌード写真を撮影した目的の一つとして、1995 年刊行の「広告批評」にて次のように述べている。

セックスをするために他人の前では平気で裸になるくせに、どうして家族の前ではなぜ裸にならないのか、友だちにはなんでも聞いてもらってるくせに、どうして家族にはなんにも言わないのかとか、ケンカ一つせずによくやっているように見えるのは、実はしゃべらないからモメる機会がないからだとか、そういうことに目を向けて欲しくてやっている²³。

さらに長島は、自分の作品の主題と身体が切り離され、消費されてきたことについて以下のように批判を示している。

私が裸になることだって、別に裸になりたいわけじゃないし単純なセルフポートレイトのつもりでもなくて、(略) みんなどんどん脱いでるけど、お金でセックスを売のようなことは私は大嫌いだから、そういうことについてもっと考えて欲しかったのね。

だから、すごく皮肉っぽい作品のはずだし、撮るほうはこうやって真剣に考えているのに、大人はただ『面白い』でこの怖さを片付けたり特異なもの扱いするだけで、自分たちの中にあるそういう部分は見ないようにしているわけ。もっと真剣に、まっすぐに作品と取り組んで欲しかったのに²⁴。

このように、当時のメディアの中には、作品にこめられたメッセージとモデルである女性が「ヌード」であることを切り離し、消費したものも存在した。

一方、「美術館女子」企画ではアイドルの女性が着用する衣装について「美術館デート²⁵コーデ」と表現していることから、サイト内の写真はまるで女性アイドルとデートをしているかのような目線によって撮影されており、異性愛を前提とした恋愛関係の疑似体験を示唆する。その上で、「美術館という映えスポット」や「アイドルではなく、『作品』としての」といった言葉が並ぶことから、女性に被写体としての役割以外を認めない意識が受け取られる。つまり、この企画における主要テーマは、「ターゲット層と年齢が近く共感を得やすい女性アイドルが案内する美術館」ではなく、「美術館という映えスポットで撮影される女性アイドル、またその身体」である。

女の子写真と美術館女子では、写真という撮る側/撮られる側の性的役割規範が認められ

²³ 長島、前掲書、81 頁。

²⁴ 長島、前掲書、81 頁。

²⁵ 本論では、広辞苑による「日時や場所を定めて異性と会うこと」という説明を参照する。

る芸術行為を通して、芸術に関連する若い女性を女の子や女子というカテゴリーに当てはめ特別視することで、表向きには企画や特集として取り上げる行為で称賛を示す。しかし、その本質は若い女性という社会的な価値をもてはやしているだけで、芸術界における彼女達の存在は矮小化されていると指摘する。その上、撮影行為が作品として出力されると、「美術館女子」では女性アイドルが「映える」アイドル中心の写真、そして「女の子写真」では女性写真家のセルフポートレート（それがヌードであり過激であれば）メディアからの注目を集め、主題とは切り離され、若い女性の身体は常に性的な文脈で語られ消費されるという点で類似していると分析する。つまり、「美術館女子」と「女の子写真」言説における「女子」像は「無知で、かわいいものやソーシャルメディアに夢中」というような「女の子らしさ」を持つ者のことを指す。そして、そのジェンダーイメージを作り替えないように当事者達の女性性や若者ならではの未熟さだけを切り取った表象を行う。そのようにして作られたこれらの言説は、「新しさ」や「女性ならではの視点」といった一見して彼女達の存在を歓迎するような言葉によってデコレートされ、言説の「女子」像に当てはまらない存在や特徴、発言をカテゴリー外として認識し、不可視化する効果があるといえる。

第二章 被写体女性への視線

本章では、美術全体における性役割規範に着目し、先行研究を参照しながらヌード作品を例に芸術界において「見られる」立場である女性の身体や女性そのものを論じる。

第一節 芸術における女性身体の消費—ヌードをめぐる身体の意味—

社会学者の江原由美子は18世紀前半までの西洋美術におけるヌードは、圧倒的に男性であったとしている²⁶。それは、当時最も崇高とされた歴史画において、歴史を動かす主体であった男性の裸体を描く必要性があったためだと考えられている。その後、1839年に写真技術が誕生すると、1840年代にはヌード写真は盛んになっていった。写真評論家の笠原美智子は、写真史における男性ヌードは全体の中の1、2%にも満たないであろうと述べ、その中でも70年代以降に男性の裸体を主題にした作家は「『調和のとれた美しい自信に満ちた肉体』を表現し、見られる対象になることによって危機に瀕するであろう『男の権威』の失墜の可能性を、細心の注意を払って避けているかのように見える」ことを指摘している²⁷。絵画、写真において男性の裸体を示すというのは、「創造主」や「支配者」として作品の中の「彼ら」に自らの身体の所有権を損なわず、あくまで称賛を示すものだったと言える。しかし、女性の裸体が主題となる場合、「彼女」達には前者とは異なった位置づけがなされ男性を意識した鑑賞者に「都合の良い」身体を描いており、女性の身体は「支配される側」の性的対象だったことが分かる。

²⁶ 「写真に閉じ込められた男の肉体 - 季刊プリント 21」『プリント 21』、第39号、1995年、38頁。

²⁷ 笠原美智子『ヌードのポリティクス』筑摩書房、1998年、189頁。

第二節 男性視線の内在

A. W. イートンは女性のヌード作品がもたらす問題点のひとつに、それらを性的な文脈で解釈する「男性視線 (male gaze)」の存在を挙げる²⁸。それは、ヌード作品を鑑賞したときに被写体女性をジェンダー以前に存在するその性格や意志などの人間的な特徴と切り離して、女性を記号化して第一義的に性的なモノとしてみる視点のことを指す²⁹。さらに、ヌード作品は、女性が男性の関心対象という文脈で自分自身（とその身体）を解釈させる文化的規範の一つになっていることを指摘する³⁰。そのため、男性視点は男性だけではなく、女性の中にも存在することとなる。そして、イートンは裸体を描くこと自体を批判しているわけではなく「西洋芸術史における女性のヌードという視覚的表象のジャンル」が男性の支配と女性の従属という関係を芸術という名目で美化していることが問題であると結論づける³¹。

この、イートンの論に基づいた女性自身に内在している「男性視線」を前項で取り上げた二つの事象について検討する。「女の子写真」家達の語りにおいては、この視線を持つと分析できる作家とそうとは言えない作家に二分化される。例えば、前述の「週刊SPA!」での特集にてインタビューを受けた6名の写真家のうち、安珠は「根本的には女のこは自分を見られることが好き」で「『きれいな時の自分』を残しておきたい」ために被写体となるとしているが³²、長島や山本はセルフポートレイトを女性性の保存や顕示欲ではなく単に表現手段の一つであるとする。さらに、長島が「女の子写真」家として語られることに違和感を覚え、著書をとおして当事者から異議を申し立てるスタンスをとっていることから、第一義的な女性性を強調しているとはいいがたい³³。「美術館女子」では、企画内で女性アイドルが「今日のコーデは、作品のパワーに負けず、且つ、うまく馴染む色を意識してみました。映え写真いっぱいとれるかな？」と発言していることが掲載される。ここでは、服装に言及している点や自分自身が撮影者にまわった写真は掲載されておらず、全てが彼女を被写体とした写真であることがわかる。つまり、この女性アイドルの発言上で言う「映え」の対象は被写体女性自身を「映えさせる」写真を指すと考えら

²⁸ A. W. Eaton, “What’s Wrong with the (Female) Nude? A Feminist Perspective on Art and Pornography,” edited by Hans Maes and Jerrold Levinson, *Art and Pornography: Philosophical Essays* (Oxford: Oxford University Press, 2012), 293.

²⁹ 恋愛関係などにおいて自主的に性的なモノとして扱われることを望むこともあり、その状況はモノ化が悪い方向に働いているとはいいがたいが、男性視線 (male gaze) の存在によって望外に性的なモノとして扱われることはその対象の自己決定権を無視している。

³⁰ イートンは文中で John Stuart Mill の論を参照し、「女性のヌードは女性が『柔和さ』、従属性そして男性の意志に任せた忍従さが（女性の）性的魅力の重要な部分だと学ぶ有力な部分である」としている。

(Eaton, *ibid.*, 294)

³¹ Eaton, *ibid.*, 307.

³² 長島は、安珠がこの語りに続けて、セルフポートレイトは「創作の軸」で「苦しい」行為だとしていることについて、「女のこ」と自らの差異化を図り、撮影者という上位カテゴリーに自分を所属させる効果を指摘している。(長島、前掲書、54頁)

³³ 長島、2020, 1頁。

れる。これらは、写真の鑑賞者側の立場を内在化させており、閲覧者にとって美しいモノとなることを認識したうえでの発言だと読み取れる。当事者の語りという視点からは女の子写真と美術館女子には相違点が認められる。

第三章 女子カテゴリーがもたらすもの

本章では、「女の子写真」と「美術館女子」において、女性の身体が主題とは切り離されて消費されたことに加え、言説の構築自体が、対象の女性を単一的なイメージに押し込め、性的モノ化の一つである不活性に繋がることを指摘していく。

哲学者でフェミニストのマーサ・ヌスバウムは、性的モノ化の意味の一つで「対象に自発的な行為者性 (agency) や能動性 (activity) を認めない」ことを不活化と呼んでいる³⁴。

本論で取り上げた二つの事象では女の子や女子という特定のジェンダーを想起させる言葉によって、人間の特徴をもった個人を「若い女性」という「未経験で未熟な専門知識を持たない」下位カテゴリーにまとめ上げている。そしてその構築された言説の中で取り上げられた「写真」や「美術館」といったものを若い女性の間の一つの流行現象として単一化している。そうすることで、言説によって指定された若い女性が撮影や美術館に訪れる行為を自発的に行っていたとしても、彼女達を単に流行現象に追随する存在に落とし込む。これは各個人の主体的な行動を無視していると考えられ、不活化が発生していることから、性的モノ化に当てはまると言える。ヌスバウムの不活化の議論では、人が人に対して（主に男性が女性に対して）行うモノ化の例が取り上げられているが、女の子写真や美術館女子では言説が構築されていく過程で生まれた風潮や言葉に対するイメージが、当事者である女性達をモノ化していったと言える。

例えば、女の子写真言説においては、「コンパクトカメラで自分の半径5メートル以内のかわいい対象を何も考えずに撮る」という男性権力者によってその言説の中に込められた特徴が認知された。それと同時に、「写真を撮る若い女性」はすべてこの特徴に当てはまる、流行にのった軽薄な存在という短絡的な理解が及び、プロの写真家として作品を発表しても、「若い女性」だからといって写真家の性別だけが切り離され、作品中のメッセージや制作に対する姿勢を蔑ろにされてきたのである。また、美術館女子企画では、当事者を「企画以前から美術館で絵を鑑賞することを趣味としていた女性達」だと仮定する。彼女らが、美術館を「映えスポット」とは認識しておらず、文化的施設として利用していたとしても、企画によって「若い女性みんな『インスタ映え』に夢中」で、作品を背景として扱うというイメージが付与された「美術館女子」という言説は、彼女らの自発的で能動的な「美術館に行く」という行為を無視し、言説から得たイメージに当てはめた

³⁴ ヌスバウムによれば、性的モノ化とは「モノではないものをモノとして扱う」(treating as an object) ことであり、それには少なくとも道具性 (instrumentality)、自律性の否定 (denial of autonomy)、不活性 (inertness)、代替可能性 (fungibility)、毀損許容性 (violability)、所有可能性 (ownership)、主観の否定 (denial of subjectivity) という7つの意味があるとされる。Martha C. Nussbaum, "Objectification," *Philosophy and Public Affairs*, Vol.24, no. 4, 1995, 257.

「女子」の一部だとする。この二つの事象における問題点は、言説の流布によって言説の対象になっている存在³⁵に対し、世間においてイメージが先行した状態で認知が進むことで不活性の再生産が行われることである。

つまり、言説によって対象に与えられた短絡的なイメージは、一般大衆の間で、言説に当てはめられた対象が「言説という他者の影響で受動的に」その行動を行っている」と認知され、そのことが対象のモノ化に繋がるということである。これによって、言説に当てはめられた個人はカテゴリーの一部となり、またその中の多元的な個人らの特徴を黙殺される。

第四章 女の子言説への対応

ここまで、女子言説による若い女性への抑圧を論じてきたが、「女の子写真」の例においては、自分の存在が世間に広く知れ渡るように言説の広まりを利用したほか、作品中では言説の中に含まれた理想的な女性像を演じているように見せかけ、男性中心的な価値観を批判する女性写真家がみられた。本章では、女性写真家達の戦術とも言える自己表現の手法を分析する。

2001年、長島有里枝、蜷川実花、ヒロミックスの三名が第26回木村伊兵衛写真賞を受賞した³⁶。この受賞に関する特集記事の中で蜷川は、女の子写真について、「うれしくはないけどそこを利用したのは事実。」と述べている³⁷。蜷川の初期の作品は、ヌードのセルフポートレートや身近なものを被写体とした「女の子写真」の範疇に入るものであった。しかし、90年代後半からはセルフポートレートの作品は発表せず、鮮やかな色使いを特徴とした作品が中心となった。さらに蜷川は、その活動を写真だけではなく映画製作などにも広げ、女の子写真家の枠組みを脱していったと言える³⁸。

また、女の子写真家と呼ばれた一人であった長島は、1994年にスキンヘッドで顔のあちこちにピアスをした姿で、女性性を強調する姿態を撮影したセルフポートレート作品「YURIE NAGASHIMA」を制作した。作品中で長島は、坊主頭と真っ赤な口紅、網タイツとハイヒールに男性用の迷彩柄のジャケットといった「男らしさ」や「女らしさ」の規範を攪乱させる容姿で、ポルノ雑誌や風俗の広告でよく用いられた女性のポージングを模している³⁹。

二人の写真家は、その流行を利用したり、言説が作り出した「女の子」のイメージへの嘲りの意図が感じられたり、「女の子写真」という自身に当てはめられた言説に追従せず自分の意志で表現の形を選びとってきたと言える。

³⁵ ここでは「コンパクトカメラで写真を撮影する若い女性」や「美術館が好きな若い女性」

³⁶ 『アサヒカメラ』2001年5月号、260頁。

³⁷ 同上書、84頁。

³⁸ 飯沢耕太郎 「Photologue - 飯沢耕太郎の写真談話 活躍する女性写真家たち(3)」2009年、マイナビニュース。 <https://news.mynavi.jp/article/photologue-37/> （最終閲覧：2021年11月8日）。

³⁹ 長島、前掲書、356頁。

第五章 言説への抵抗ーポストコロニアリズムの視点からー

本章では、女の子写真家と称された女性写真家たちの戦術とも言える自己表現の手法をポストコロニアリズムの理論を参照し、分析していく。その上で、女性写真家達の行為にはどのような効果があったかを考察する。

前章で触れたように、女の子写真家達のなかには「女の子写真」という言説に自分自身の表現が当てはめられることに違和感を覚えながらも、自分自身の存在を世間に広めるためにその広まりを利用した蜷川やメッセージ性を持つセルフヌードの表現が常にポルノグラフィと結びつけられた文脈で解釈されることに違和感を持ち、男性視点的な女性の姿態を模倣しながらも男性性を併置することで「男らしさ」や「女らしさ」の規範の解体に挑戦した長島の存在がある。二人の女性写真家は、女の子写真のカテゴリーに不満を持ちながらもその言説を利用したり、「女らしさ」からの解放のために女性性を強調したり、一見してアンビバレントな行為をとる。彼女達自らの意志とは反してとった行為、すなわち言説で唱えられる女性像に迎合しているように見える行為はポストコロニアリズムの理論家であるホミ・バーバがミミクリーと呼ぶ行為と相通じるものがある。バーバによると、植民地化された地域の人々、特に現地のエリート層は支配者集団によって宗主国の文化や言説を、「適切に模倣」することを奨励され、結果的に宗主国の論理に占有されてしまいが、その過程において、「不適切な模倣」、すなわちずらしやあざけりのパロディをとおして自分たちを表現する可能性があるという⁴⁰。エリート層は、宗主国文化の純然たる再生産を行うのではなく、植民地教育の中で宗主国流の教養を身につけた差異を持つ存在となる。このわずかな差異が、被植民者を支配者権力にとっての「完全には統制することはできない脅威」として認識させる。バーバは、この不適切な模倣を脱植民地主義的な言説の一つの論理的な可能性としている。

蜷川は初期作品において、飯沢がはじめに提唱した女の子写真家の特徴を反映した「半径5メートル以内」の被写体を映した作品やヌードを含むセルフポートレートが見られる。しかし、女の子写真言説の広まりによって自身の作家としてのキャリアが多くの人々の目に触れたあと、その作風を変化させていった。作風の中の特徴的な色使いは、撮影という表現技法以前から蜷川が絵画を通して表現してきたもので、女の子写真言説以降に自身の作風を回帰させていったといえる⁴¹。そして長島は、セルフポートレート中の自身の姿で、消費される女性の姿態を男性的な服飾と併置させることで「不適切な模倣」を達成していると言える。

女の子写真における不適切な模倣には、「消費の対象」のジェンダーロールを割り与えられた「女の子」という特徴を持つ女性写真家達に、自らの存在を一過性の流行として他者に消費し尽くされないため、他人の視線が向けられ、消費される範囲を自分自身でコン

⁴⁰ 小森陽一、「ポストコロニアル（思考のフロンティア）」岩波書店、2001年、31頁。

⁴¹ 市井康延 『『蜷川実花：Self-image』（原美術館）レポート』、2015年。

<https://dc.watch.impress.co.jp/docs/news/exhibition/685627.html>

トロールする目的があったと考える。男性向けとされているメディアの多くは、若い女性写真家のセルフヌードをポルノグラフィと結びつけた形で「女の子写真」という言説を広めていった。女性写真家達は、自身に女の子写真のカテゴリーを押しつけられ、作品ではなく自らの若い女性という側面を評価されることに対する違和感から、彼女達を消費する側の望ましい動きを見せながらも、どこかで消費する側である彼らの完全な理想像ではない、差異を持つ存在として写真家としての自分を作り上げていった。そうすることで、女の子写真言説の広まりを利用して自らの名前を世間に知られることのきっかけを作り、消費されることの恩恵を選びとったり、女性性が消費される行為を模倣したポージングから、女らしさや男らしさを問い直す作品を発表したりといった、言説によって語られた主体性のないただ流行に追随する「女の子」の枠組みの解体が行われた。

おわりに

本稿では、女の子写真と美術館女子を例に「女の子」や「女子」という言説が言説に当てはめられた女性達を矮小化していること、そして特徴を単一化した言説はその多様性を不可視化することを指摘した。その上で、女の子写真に焦点を当て女性写真家が女の子写真言説を利用したり、言説に取り込まれていた女らしさや男らしさの規範を用いた表現をしたりすることで、言説の解体を試みた女性写真家達を考察した。

女の子写真の他に挙げた例である美術館女子言説では、その言説を利用して恩恵となるような行為をしている女性達は見られなかった。しかし美術館女子言説の成立時に違和感を覚え、企画を批判した女性達は、美術館女子言説による若い女性が美術に関する知識を持っていないとする矮小化や若い女性が皆「インスタ映え」に夢中だとする前提で企画が進められることの苦言をソーシャルメディア上で発信した。その結果、当該企画は公開を中止することとなり、美術館女子の他にも存在する「女子」言説の問題点を議論するきっかけとなった。

本論において女の子写真と美術館女子という二つの若い女性に関する言説を分析することで、言説によって奪われる主体性をそれぞれの戦術で奪還していく女性達の姿が浮かび上った。(15,963 文字)

参考文献

- A.W. EATON, “What’s Wrong with the (Female) Nude? A Feminist Perspective on Art and Pornography” *Art and Pornography*, edited by Hans Maes and Jerrold Levinson, *Art and Pornography: Philosophical Essays* (Oxford: Oxford University Press, 2012).
- シンシア・エンロー (佐藤文香監訳) 『〈家父長制〉は無敵じゃない 日常から探るフェミニストの国際政治』岩波書店、2020 年。
- 江口聡 「性的モノ化と性の論理学」『京都女子大学現代社会研究』、9 号、2006 年。

ホミ・K・バーバ（本橋哲也ほか訳）『文化の場所—ポストコロニアリズムの位相』、法政大学出版局、2005 年。

飯沢耕太郎『シャッター&ラヴ : Girls are dancin'on in Tokyo』インファス、1996 年。

飯沢耕太郎『女の子写真の時代』NTT 出版、2010 年。

笠原美智子『ヌードのポリティクス』筑摩書房、1998 年。

笠原美智子『ジェンダー写真論 1991－2017』里山社、2018 年。

笠間千浪 責任編集『〈悪女〉と〈良女〉の身体表象』青弓社、2012 年。

菊池夏野『ポストコロニアリズムとジェンダー』青弓社、2010 年。

菊池夏野『「女子力」とポストフェミニズム—大学生の『女子力』使用実態アンケートから』名古屋市立大学大学院人間文化研究科『人間文化研究』抜刷、25 号、2016 年。

今野志津 「シュザンヌ・ヴァラドンの男性ヌード」『表現文化研』3 巻、2 号、2004 年。

Martha.C.Nussbaum, “Objectification” *Philosophy and Public Affairs*, Vol.24, no.4, 249.

松谷創一郎『ギャルと不思議ちゃん論—女の子たちの三十年戦争』原書房、2012 年。

長島有里枝『「僕ら」の「女の子写真」からわたしたちのガーリーフォトへ』大福書林、2020 年。

シェア・ハイト（石渡利康訳）『なぜ女は女が嫌いなのか もっと上手に付き合う知恵』祥伝社、1999 年。

トリン・T・ミンハ（竹村和子訳）『女性・ネイティヴ・他者』岩波書店、1995 年。

上谷香陽「フェミニズムと知識／言語の社会学—江原由美子『権力作用』論の再考をとおして—」『文教大学国際学部紀要』25 巻、2 号、2015 年。

米澤泉『「女子」の誕生』勁草書房、2014 年。

雑誌

「藝術新潮」54（6）2003 年 6 月号 新潮社

「藝術新潮」70（1）2019 年 1 月号 新潮社

「週刊 SPA！」1994 年 3 月 23 日号 扶桑社

「スタジオボイス」1996 年 3 月号 インファス

「FLASH」1993 年 11 月 23 日号 光文社

「プリンツ 21」1996 年秋号 プリンツ 21

ロバート・ヘンライが目指した新たなアメリカン・リアリズム
-Ashcan School を先導した者として-

八十田舞

目次

はじめに

第1章 アッシュカン・スクールによるアメリカン・リアリズムの開拓

第1節 台頭した背景

第2節 共通意識

第3節 含まれる芸術家

第2章 ロバート・ヘンライ

第1節 学びの時代

第2節 教師として

第3節 1900年代初頭の作品分析

第3章 1908年開催のジ・エイト展

第4章 1910年開催の独立美術家展

おわりに

はじめに

南北戦争後の金ピカ時代を迎えた 1870 年代のアメリカは「文化的覚醒、芸術的目覚めの転換期」とも呼ばれていた。最初の美術家クラブの誕生や、アートコレクターの増加、そしてヨーロッパのコレクションも含めたメトロポリタン美術館がオープンしたのもこの時期である¹。国内作品ではトマス・エイキンズらによるアメリカ近代美術が発展し、その影響を受け 20 世紀初頭に活躍したのがロバート・ヘンライを筆頭とするアシュカン・スクールであった。ロバート・ヘンライは自身の芸術性の追求もさることながら、長年に渡り教師として次世代アーティストの育成に貢献し、多様な活動を通してアメリカの芸術の発展に努めた人物である。1910 年代前後には都市風景や労働者を写實的に描くことで知られるアシュカン・スクールを牽引し、その前衛的な作品の数々によってアメリカ社会に大きな衝撃を与えながらも新たなアメリカン・リアリズムの可能性を示し続けた。しかし、アシュカン・スクールが作品のイメージにより定義されていることから、これまでの研究ではヘンライがこの仲間と活動を開始した目的や集団の共通意識に着目されることが極めて少なかった。そこで本稿では、アシュカン・スクールのリーダー的存在であるロバート・ヘンライやヘンライにとってのピークであったとされる 1908 年のジ・エイト展と 1910 年の独立美術家展という二つの展覧会に焦点を当て、ヘンライの芸術に対する信念とアメリカ美術界への展望を明らかにし、アシュカン・スクールという芸術集団を分析していく。

第 1 章 アシュカン・スクールによるアメリカン・リアリズムの開拓

本章では、アシュカン・スクールが台頭した背景や共有されていた芸術家としての意識からアシュカン・スクールを概括的に捉える。

第 1 節 台頭した背景

20 世紀のアメリカン・リアリズムは、伝統に基づきながら新時代の様式や主題を取り入れていた 19 世紀におけるアメリカン・リアリズムの延長線上に位置づけることができる²。例えば、1825 年の運河開通と自然風景への関心の高まりは新たなアメリカ風景画の展開をもたらした。ウィルダネスという自然への崇拝や、ピューリタニズムと共通する神やエデンの存在を見出す姿勢があったことから、それまでヨーロッパ様式の模倣が主流であったアメリカにとって初めて独自の絵画流派が誕生したのである³。南北戦争後に活動したトマス・エイキンズ⁴やウィンズロー・ホーマーは、それまでのロマン主義や風景画とは一線を

¹ 海野弘『ニューヨーク黄金時代ーベルエポックのハイ・ソサエティ』平凡社、2001 年、50, 60 頁。

² 大坪健二『アルフレッド・バーとニューヨーク近代美術館の誕生ーアメリカ 20 世紀美術の一研究』三元社、2012 年、12 頁。

³ 出羽尚「ハドソン・リヴァー派におけるアカデミズムの痕跡」『宇都宮大学国際文化研究論集』、2017 年、第 43 号、1-14, 2-3 頁。

⁴ 海野弘、前掲書、135 頁。

⁵ トマス・エイキンズ(1844-1916)は人物画を中心に肖像画やスポーツを題材とした作品を描いた。1866

画す形でリアリズムをさらに躍進させた。特にエイキンズは、徹底的な写実主義を追求する中で自国の周縁性や個別性を強調し、アメリカ美術の発展を後押ししたとされている⁶。また、エイキンズはのちにジ・エイトのメンバーが多数在籍することになるペンシルヴァニア・アカデミー・オブ・ファイン・アーツで美術教師として勤め、アメリカの「地方性」がヨーロッパに対抗しうる唯一の価値観であるというエイキンズの分離主義的態度をジ・エイトのメンバーが受け継ぐきっかけをもたらした⁷。その後、写真家アルフレッド・スティーグリッツによる 291 ギャラリー⁸とロバート・ヘンライ率いるアシュカン・スクールが両翼を担い、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけて新しいアメリカン・リアリズムが展開されていったのである。

第2節 共通意識

アシュカン・スクールは明確な理念もとに構成された組織ではなく、写実的な作品を描くことが唯一の共通点であったと考えられている。そして、経済面と政治面の双方において世界的中心都市であったニューヨークの下町や、労働者階級の人々のリアルな生活などが主な主題であったとされている。アシュカン・スクールに含まれるウィリアム・グラッケンズの娘イラ・グラッケンズは、アシュカン・グループについて「社会批判や政治的宣伝、世界の改革を描いていたのではなく、ただ真実や生活そのものだけに興味を置いていた画家たちであった。」と記した⁹。また、『アーモリー・ショー物語』の著者ミルトン・W・ブラウンは、『アシュカン・スクール(ごみ缶派)』の反乱とは、いかなる美術様式の革新と

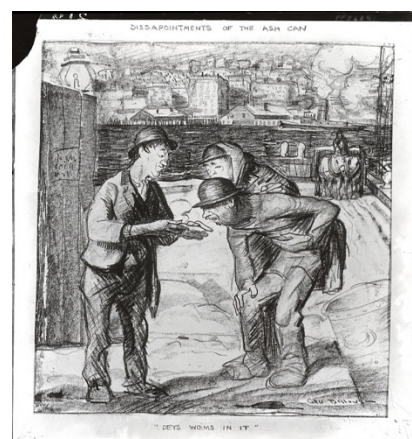


図1 ジョージ・ベロズ
”Disappointment of the Ash Can”

年のパリ留学を機にヨーロッパの風景画ではなくアメリカ美術に傾倒し、ジャン・レオン・ジェロームに師事する。1876 年からペンシルヴェニア・アカデミーでの教師時代は、リアリズムへの探求心によるスードモデルへのこだわりから生徒やその親から批判を受けるなど、アメリカで最も急進的かつ徹底的なアーティストとも言われている。H. Barbara Weinberg, October 2004, “Thomas Eakins (1844-1916: Painting),” THE MET, accessed Nov 9, 2021, https://www.metmuseum.org/toah/hd/epa/hd_epa.htm, (最終アクセス日: 2021 年 11 月 9 日)。

⁶ 小林剛「トマス・エイキンズと写真的視覚の発見ーアメリカン・リアリズム再考」『アメリカ太平洋研究』、2003 年、124 頁。

⁷ 小林剛「アルフレッド・スティーグリッツとビクトリアリズム：絵画的写真再考」『関西大学文学論集』、第 55 巻、第 3 号、2005 年、140 頁。

⁸ フォト・セセッションというギャラリーをスティーグリッツがオープンしたことから始まり、写真の他にもロダン、ブロンクシー、マティス、ピカソなどの西欧画家による前衛美術を紹介した他、ジョン・マリン、アーサー・ダヴ、マースデン・ハートレー、エイブラハム・ウォーコウィッツ、マックス・ウィーバーなどのアメリカ人アーティストたちもメンバーであった。ロバート・ヘンライ（野中邦子訳）『アート・スピリット』国書刊行会、2011 年、342 頁（Robert Henri, *The Art Spirit*, 1923）。

⁹ Ira Glackens, *William Glackens and the Eight: The Artists Who Freed American Art*, (New York: Horizon Press), 1957.

いうよりも、主題の“下品さ”によってアメリカの美意識をひっくり返したことがあった。」と述べた¹⁰。アッシュカン・スクールが重要視していたのは、美しさや芸術、また不自然さといった要素よりも、現実の真理や人々の生活に対する関心で、それはこれまでのアメリカ印象派やアカデミック様式への対抗を示していたのである¹¹。また、アッシュカン・スクールという名は、ヘンライの弟子でありアッシュカン・スクールに最も貢献した第2世代のメンバーとされているジョージ・ベローズの“Disappointment of the Ash Can”(図1)という作品に由来しているとも言われている¹²。またヘンライは、「私は特定の流派や運動、あるいは芸術のための芸術には関心をもたない。」と主張し、自身の生徒に向けたメッセージとしても「いかなる学派にも属するな。」と記した¹³。そのため、ヘンライがアッシュカン・スクールという一流派を意図して築き、芸術運動として認識していた可能性は極めて低いと言える。またそこに含まれる芸術家たちに関しても、アッシュカン・スクールの一員としてその名を背負いながら活動していたとも言い難い。むしろ、アッシュカン・スクールについての議論では、そのムーブメントがあくまでも後から他者によって名付けられ、定義されたものであるという点を忘れてはならないのだ。

第3節 含まれる芸術家

アッシュカン・スクールの原点は、1891年にフィラデルフィア女子デザイン学校で教師を始めたロバート・ヘンライと、ジョン・スローン、ウィリアム・J・グラッケンズ、ジョージ・B・ラックス、そしてエヴァレット・シンという4人のアーティストとの出会いにある。当時4人は『フィラデルフィア・プレス』で新聞挿絵画家として働いていた時代の同僚であった。火災や裁判、ストライキや殺人事件など、まさに「人間感情のアッシュカン＝ゴミ入的な底辺状況そのもの」のようなあらゆる現場の情景をリアルに描き、報道写真が台頭する以前のジャーナリズムの世界で活躍していたのだ¹⁴。一方、ヘンライの後押しもあってアーティストとして油彩画にも挑み始めた。また、新聞挿絵画家の4人は美術学校でトマス・エイキンズやトマス・アンシュッツ¹⁵から学び、そこでより写実主義に興味を抱いたようである¹⁶。なかでもジョン・スローンは政治領域に最も近かったと考えられる人物だ。『フィラデルフィア・プレス』で新聞挿絵画家をしていたスローンは、フェミニズム運動や労働運動

¹⁰ ミルトン・W・ブラウン（木村要一訳）『アーモリー・ショウ物語』美術出版社、2006年149頁。

¹¹ Milton W. Brown “The Ash Can School,” *American Quarterly* Vol.1, no.1, 1949. 131.

¹² H. Barbara Weinberg, April 2010, “The Ashcan School,” THE MET, accessed Feb 6, 2021, https://www.metmuseum.org/toah/hd/ashc/hd_ashc.htm, (最終アクセス日：2021年2月6日)。

¹³ ロバート・ヘンライ、前掲書、102、247頁。

¹⁴ ロバート・ヘンライ、同上書、329頁。

¹⁵ 滝本は、アンシュッツが1880年に鉄鋼所に勤務する若い労働者を描いた“The Ironworker’s Noontime”という作品が、アッシュカン・スクールの起点であったとしている。ロバート・ヘンライ、同上書、328頁。

¹⁶ Milton W. Brown, “The Ash Can School,” 128-129.

などに取り組んでいた妻ドリーの影響を強く受け社会主義者としても活動し、『The MASSES¹⁷』という前衛雑誌のアートディレクターを勤めていた経験がある。一方で、幅広い手法を実践し芸術界でも印象的な活動を行なった人物は、ウィリアム・グラッケンズだろう。『マクルーア・マガジン』¹⁸で務めた経験がありながら晩年は「アメリカのルノワール」と呼ばれる色彩豊かな作品を描き、独立美術家協会¹⁹の会長として 1917 年の独立美術家展も率いていた経験もある。同展覧会は、1910 年の独立美術家展と同様に「無審査」と「無報酬」を徹底して民主的な美術展を目指し、その結果 2125 点の作品を展示する「アメリカ美術史上最大の美術展」となった。また、印象派的でありながら生活感のあるニューヨークの街並みを描いていたのはジョージ・ラックスである。三誌で新聞挿絵画家や漫画家として働いたのち、ニューヨークのスラム街を舞台にした漫画である「イエロー・キッド²⁰」の作家としても活躍していた²¹。5 つの新聞社で働き漫画としても活動していたエヴァレット・シンは、劇場や役者を主題とした作品を多く描いた。同時期に活動していた小説家のセオドア・ドライサーによる“The Genius”という作品の主人公であるユージーンのモデルとしても知られている²²。

ヘンライと上記の 4 名は明確にアシュカン・スクールに含まれることが多い人物らとして列挙することができるが、他のアシュカン・スクールの厳密な構成員を断定することは非常に困難である。1997 年に出版された *Revolutionaries of Realism: the Letters of John Sloan and Robert Henri* の著者ベナード・B・パールマンは、アシュカン・スクールはヘンライとスローンをリーダーに、ラックス、グラッケンズ、シン、ペローズの 5 人によって構成されてい

¹⁷ ジョン・スローンやウィリアム・グラッケンズと同時期にグリニッジ・ヴィレッジに住んでいた社会思想家のマックス・イーストマンが編集長を務め、1911 年から 1917 年にかけて刊行された。スローンやペローズなどのアシュカン・スクールのメンバーやピカソなども貢献者として関与していたが、ウィルソン政権下の言論統制の犠牲となり廃刊に至った。田野勲『祝祭都市ニューヨークー1910 年代アメリカ文化論』彩流社、2009 年、41, 274 頁。Stephen K. Walkiewicz, “The Narrative of Revolution: Socialism and The Masses 1911-1917” (City University of New York, 2019), 1, 8, 9.

¹⁸ マックレーキング・ジャーナリズムの始まりと言われている。グラッケンズは同誌の采配によって米西戦争の舞台であるキューバに派遣され、あらゆる危機を乗り越えながら戦地や軍隊の様子を描き記録していた。Ira Glackens, *William Glackens and the Eight: The Artists Who Freed American Art*, 23-27.

¹⁹ アシュカン・スクールからグラッケンズとペローズが、アルフレッド・スティーグリッツの一派からジョン・マリンが、ウォルター・アレンズバーグの一派からはアレンズバーグ自身とマン・レイやマルセル・デュシャンが参加した。しかしデュシャンは、同展覧会での『泉』の出品を巡る議論によって、出品者リストから削除されている。田野勲、前掲書、234, 235 頁。

²⁰ 主人公はロウアー・マンハッタンのアイルランド系移民で社会風刺の要素が強く盛り込まれた漫画である。アメリカで最初のコミックスの主人公であるとされ、またセンセーショナルな報道をする「イエロー・ジャーナリズム」の語源であるとも言われている。中垣恒太郎「コミック・ジャーナリズムと戦争表象——スピーゲルマン以降のアメリカン・コミック」『立教アメリカン・スタディーズ』28 号、2006 年、83-84 頁。

²¹ 中垣恒太郎、同上論文、100 頁。

²² Joseph J. Kwiat “Dreiser’s the ‘Genius’ and Everett Shinn, the ‘Ash-Can’ Painter,” PMLA, 67, no.2, 1952, 18, 30.

たとしている²³。一方でアレクシス・ボイランは2005年に発表した論文で、アシュカン・スクールとは1900年から第一次世界大戦の間までにNYを中心に6人のリアリストにより構成されていたとしている。ボイランは6人目の人物について明確には言及していないが、同論文で写真家ジェイコブ・リースについて述べていることから、リースを6人目としている可能性が高い²⁴。画家に限らずリースのような写真家がアシュカン・スクールに含まれることもしばしばあるようだが、画家の作品は写真家の作品よりも政治性が希薄で、また市民の不安を駆り立てたり階級闘争を扇動したりすることも避けていたことから、改革主義者の活動写真とは多少の差異が見受けられる²⁵。一方で、ヘンライの影響を受けていた上にニューヨークの人々や都市生活に目を向けた作品を制作していたジェローム・マイヤーズが、正式なメンバーとはみなされていないとの見解も見られる²⁶。

アシュカン・スクールの集団性の希薄さは、名前もその対象も後になって他者により決定されたことが理由であろう。その事実から、当時本人らが抱いていた共通意識が後付けの名称に起因するイメージにより不可視化されてしまったという可能性も考えられる。一方で、20世紀初頭のアメリカに衝撃をもたらし、新たなリアリズムを開拓した集団として知られている背景には、彼らの多くがジャーナリズムの世界で生き抜いた経験を持ち、それらを活かして写実的な作品の数々を世に提唱したことが関係していると言えるだろう。

第2章 ロバート・ヘンライ

本章では、アシュカン・スクールを先導したロバート・ヘンライについて、来歴と作品分析などから浮かび上がる芸術に対する信念を明らかにしていく。

第1節 学びの時代

ロバート・ヘンライは、1865年にオハイオ州シンシナシティで誕生した。21歳になった1886年には美術の名門校であるペンシルヴァニア・アカデミー・オブ・ザ・ファイン・アーツに入学し、トマス・アンシュッツを師として本格的に美術の道に進み始めた。ヘンライは生涯通して幾度となく海外に赴いたが、初めの留学先として1888年から1891年まで滞在したパリでは、マルセル・デュシャンやアンリ・マティスも通ったアカデミー・ジュリアンや名門の官立美術学校であるエコール・デ・ボザールで美術を学んだ。ところが、パリの美術学校での学び以上に欧州滞在に大きな目的を持っていたようである。

²³ Bennard B. Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri* (Princeton, N.J.: Princeton University Press), 1997, 18.

²⁴ Alexis L. Boylan “Neither Tramp nor Hobo: Images of Unemployment in the Art of the Ashcan School,” *Prospects*, Volume 30, October 2005, 433.

²⁵ H. Barbara Weinberg, April 2010, “The Ashcan School,” THE MET, accessed Feb 6, 2021, https://www.metmuseum.org/toah/hd/ashc/hd_ashc.htm, (最終アクセス日：2021年2月6日)。

²⁶ “The Mission Tent,” THE MET, accessed Feb 6, 2021, <https://www.metmuseum.org/art/collection/search/11635>, (最終アクセス日：2021年2月6日)

留学から帰国してスローンなどフィラデルフィアの新聞挿絵画家集団と出会ったヘンライは再びパリへ向かい、二度目の訪仏ではマネやベラスケス、またヘンライの人物画の手法に関して影響を与えたとされるフランス・ハルス作品を学んだ。ヘンライはハルスの獨創性や対象の本質を見抜く力なども賞賛しており、1908年のジ・エイト展にて展示された“Dutch Girl in White”という作品を現在収蔵しているメトロポリタン美術館は、同作品に「ヘンライにとっての英雄フランス・ハルスの影響が表れている」と紹介している²⁷。ヘンライがニューヨークを中心としたアメリカ美術界に台頭し始めた契機は、二度目のパリから帰国し母校で開催した1897年の個展と、そこでヘンライを評価したウィリアム・メリット・チェイス²⁸との出会いである。さらにその後、三度目の訪仏でサロンに初入選とフランス政府による作品の買い上げもヘンライに自信を持たせた経験であった。

第2節 教師として

ヘンライは、1902年からの5年間は創立者であるチェイスの要請によりニューヨーク・スクール・オブ・アートで教師として働き、1906年にはナショナル・アカデミー・オブ・デザイン²⁹の会員に選出された。しかし、アカデミーが主催する1907年の春季展に審査員でありながらも低評価を受けたことを理由に、ヘンライは1908年に「ジ・エイト」展を開催した³⁰。しかし、この「ジ・エイト」展がヘンライの名声のピークであったとも言われている³¹。実際に、1910年に独立美術家展をグラッケンズやスローンと開催したが、1913年に開催された大規模展覧会であるアーモリー・ショーにおいて指揮を取ることはなく、5作品を展示した1人の画家に落ち着いた。それだけでなく、アーモリー・ショーでは優れたヨーロッパの展示作品が陳列され、アメリカの後進性が強調されるような結果となった。権威の喪失とアメリカの後進性を突きつけられたヘンライは、ひどく意気消沈した。しかし、ヘンライは怯まず、この経験を自身の芸術の方向性を再考する機会へと転換させた。自著においても、孤独でも絵を描き続け、考え、仕事を続けることが重要である、と記している³²。また、ヘンライの教え子は、「王は死すとも、王政は続く（The King

²⁷ ロバート・ヘンライ、前掲書、213, 214頁。“Dutch Girl in White”, THE MET, accessed Nov 26, 2021, <https://www.metmuseum.org/art/collection/search/19303>, (最終アクセス日：2021年11月26日)。

²⁸ ウィリアム・メリット・チェイスは主に肖像画や風景画を描き、19世紀後半から20初頭のアメリカ合衆国における印象派を代表する画家。1896年に自身が設立したチェイス・スクールという美術学校は1898年にニューヨーク・スクール・オブ・ザ・アートと名称を変え、現在のアートとデザインを専門とするパーソンズ美術学校へと発展し、著名なアーティストやデザイナーを数多く輩出している。” History,” The New School Parsons, accessed Feb 6, 2021, <https://www.newschool.edu/parsons/history/>, (最終アクセス日：2021年2月6日)。

²⁹ 1906年4月にヘンライを含む6人の委員によって Society of American Artists と合併した。Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri*, 103, 138.

³⁰ 大坪は、ジ・エイト展を第一回独立美術家展とし、1910年の独立美術家展を第二回展としている。大坪健二、前掲書、I頁。

³¹ ロバート・ヘンライ、前掲書、334, 336, 340頁。大坪健二、前掲書、66頁。

³² ロバート・ヘンライ、前掲書、252頁。

is dead; long live the King)」という言葉で、たとえヘンライの権威が失われても、彼によって拓かれた可能性は発展していく、とこの出来事を象徴的に表現した³³。

ヘンライはニューヨーク・スクール・オブ・アート時代を中心に数多くの著名なアーティストを生み出した。表現派やキュビズム等に対して反動を見せた新写実主義の代表的なアーティストであるエドワード・ホッパーがまず筆頭に挙げられる。また、ヘンライが息子と呼ぶほど深い関わりがありアシュカン・スクールのメンバーでもあったジョージ・ベローズやロックウェル・ケント、ガイ・ペネ・ドゥ・ボワなどもヘンライに学び、影響を受けた³⁴。ニューヨーク・ダダ運動を率いたマン・レイも例外ではない。フェラー・センターでヘンライの講義を受けた経験があり、「危険を冒してでも自分たちの個性を押し出すこと」の重要性を学んだようである。ここで、ヘンライがフェラー・センターで教鞭をとった過程に注目したい。フェラー・センターは、スペインのアナーキストであるフランシスコ・フェラーの処刑を記念して設立され、自由主義的な環境での学びを提供していた³⁵。そして、ヘンライが講義を開講することとなった背景には、エマ・ゴールドマンの存在がある。アナーキストでありフェミニストであったゴールドマンの演説を聞きその雄弁さに圧倒されたヘンライが自らアプローチしたことがきっかけで、ヘンライが先進的な思想を持っている人物であると耳にしたゴールドマンがフェラーセンターでの講義を依頼したのである。しかし、ヘンライはアナーキズム運動を組織することではなく、表現の自由という信条をゴールドマンが支持していたことが講義を依頼した最大の動機であったとしているため、自身がアナーキストと見做されないよう適度な距離を保つよう心がけていたと考えられる³⁶。ヘンライは社会主義についても「個人のより偉大な自由を目指すものとして共感する。」と1910年5月22日に自身の日記に記している一方で、スローンらの社会主義運動とは一線を画していたことは忘れてはならない³⁷。

ヘンライはその後、自身が創設した美術学校で3年間勤務した他、1915年から死去する2年前の1927年にかけてアート・ステューデント・リーグに勤め、人生を通して画家や美術教師として表舞台に立ち続けた³⁸。ヘンライは、芸術学校で長年教鞭に立ち続けたが、徹底して維持していた教師としての信念は生徒が自分という存在を尊重できるように促すことだった。自著においても、画学生は自分の感情を大切にし、自分の判断で行動し、自分で自分を教育しながら自分らしい表現や見方を持って前身することが理想であり、学校とは考え方や表現の個性を伸ばすよう手助けする場所であるべきだ、と記している³⁹。

³³ Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri*, 215.

³⁴ ロバート・ヘンライ、前掲書、334, 340 頁。Milton W. Brown, “The Ash Can School,” 131.

³⁵ 田野勲、同上書、216-217 頁。

³⁶ Bennard B Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art* (New York: Dover Publications, Inc.), 100, 101.

³⁷ Henri, diary, May 22, 1910, quoted in Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 101.

³⁸ “Robert Henri,” Fine Arts Museums of San Francisco, accessed Feb 14, 2021,

<https://art.famsf.org/robert-henri>, (最終アクセス日：2021年2月14日)。

³⁹ ロバート・ヘンライ、前掲書、37, 86, 141, 171, 257, 282 頁。

アシュカン・スクールを先導したヘンライであったが、1906 年のアカデミー会員選出の事実からは、まず当時ヘンライがアメリカ芸術界で確固たる権威を握っていたということが言えるだろう。一方で、アカデミー会員でありながら独自に複数の展覧会の開催を企画し、権威の失墜を自覚しながらも個性の尊重という信念を持ち教鞭に立ち続けたことから、美術界の権威という狭間で揺れ動きながらも、ヘンライ自信が常に自分と向き合うことの実践と次世代の芸術家のために邁進していた姿が浮かび上がってくる。

第3節 1900年代初頭の商品分析

ヘンライによる作品は、欧州留学時代の初期作品は風景画が多いが、米国で教鞭に立ち始めた 1902 年頃から中心が人物画に移行している。同年に描かれた“Snow in New York”(図 2) や“Derricks on the North River”(図 3) は、都市をテーマにした最後の試みであったと言われる作品だ。“Snow in New York”は、油絵に相応しいとはいえず、泥混じりで塵が被ったマンハッタンの通りの雪景色が描かれている。また、“Derricks on the North River”はハドソン川を舞台に労働者や工業の様子に注目して描かれていることから、「不適切な題材」を扱った作品としてみなされている。これらは、都市風景を写實的に描いていることから、アシュカン・スクールの特徴がやや垣間見える作品である。しかし、ヘンライが作品を描いた動機は、可視化された実体ではない点に由来していた可能性が高い。それは、「対象になるものは、美しくても醜くても構わない。美術作品の美は作品そのものにある。」というヘンライの主張からも推測できるように、ヘンライが表層的な美醜より対象の本質的な美に関心を向けていたからである。そのため、この二作品はアシュカン・スクールらしい風景画とも言える一方で、グループに対する批判的見解とヘンライの意図との乖離が顕著に現れた作品とも言えるのではないかと⁴⁰。しかし、前述したようにヘンライはこの二作品を境に人物画に注力するようになった。ところが、ヘンライの伝記を記したベナード・B・パールマンは、ヘンライが生徒に都市風景を描くよう勧めた存在でありながら人物画を選択したことに注目して「皮肉なことであった」と表現し、その選択は風景画に関する知識の乏さに由来していると論じている⁴¹。この点について、まずヘンライは主題を限定せず自分が一番気に入ったテーマに熱中するべきであると主張しているため、生徒に風景画を描くよう強制していたとは考え難い⁴²。さらに、「もしも私が二人いたなら、人物画と風景画の両方が描けたのに。」と記していることから、どちらの主題にも意欲的であったと言える。それでもヘンライが人物画に専念したのは、パールマンが指摘したような自身の能力不足と主題への強い関心を合理的に判断した結果だと考えられる。それは、自然な方法で自分自身を表現し、人生の高潔さが現れている「我が同胞」を描きたいという想いを吐露していることに加え、職業を全うし得意分野や好きなものに専念すべきだとヘンライが主張していることから推測

⁴⁰ ロバート・ヘンライ、前掲書、151, 184 頁。

⁴¹ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 57.

⁴² ロバート・ヘンライ、前掲書、93 頁。

できるだろう⁴³。

1900年代前半までのヘンライは風景画作品を多く手掛け、特に扱った二作品はまさにアシュカン・スクールの画家らしい作品であった。しかし、ヘンライが描こうとしたのは対象に内在した美であり、決してアシュカン・スクールの印象に紐付けられているような限定的な主題を選択していたわけではなかった。そのため、確かに1902年以降は人物画を多く描くようになったが、ヘンライは題材を問わず一貫して内なる本質を見つめ続けていたと言えるだろう⁴⁴。



図2 “Snow in New York”

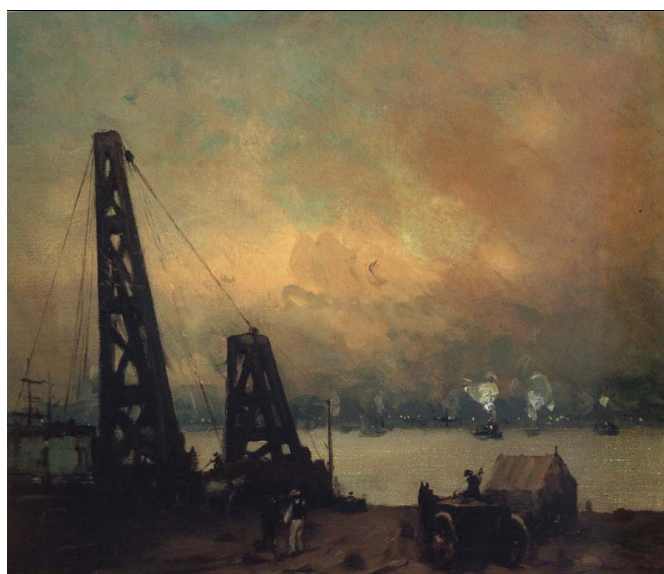


図3 “Derricks on the North River”

第3章 1908年開催のジ・エイト展

1908年2月、ニューヨークのマクベス・ギャラリー⁴⁵でジ・エイト展が開催された。3月にはフィラデルフィアで、秋には8つの都市でも開催された同展覧会⁴⁶だが、メンバーは

⁴³ ロバート・ヘンライ、前掲書、125頁。

⁴⁴ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 57. ロバート・ヘンライ、前掲書、223頁。

⁴⁵ ウィリアム・マクベスが1892年に開設し、1953年に閉鎖された。マクベスはアメリカの絵画の販売と永続的な展示を目的としていて、アメリカの美術作品に特化したニューヨーク初の画廊でもあり、1908年のジ・エイト展は有名な展覧会の一つである。“Macbeth Gallery Exhibition Catalogs,” THE MET, accessed Feb 14, 2021, <https://www.metmuseum.org/art/libraries-and-research-centers/watson-digital-collections/rare-materials-in-the-met-libraries/macbeth-gallery-exhibition-catalogs>, (最終アクセス日：2021年2月14日)。“1892 to 1953, in the Archives of American Art,” Smithsonian Institution Smithsonian Online Virtual Archives, accessed Feb 14, 2021, <https://sova.si.edu/record/AAA.macbgall?s=0&n=10&t=C&q=&i=0>, (最終アクセス日：2021年2月14日)。

⁴⁶ Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri*, 177.

ヘンライを中心として、スローン、グラッケンズ、ラックス、そしてシンら 5 名に加え、印象派のアーネスト・ローソン、後期印象派のモーリス・B・プレnderガスト、そして幻想的な作品を好んでいたロマン派のアーサー・B・デイヴィス⁴⁷の 3 名を合わせた 8 名の画家たちであった。アシュカン・スクール以外の 3 名はより急進的な画家であり、作風も大きく異なる。ニューヨーク・サン紙が同展覧会の開催を報道する記事で「ジ・エイトは皆違うから一緒になった」と記述したように、ジ・エイトはリアリストの 5 人とより前衛的な 3 人とで構成され、特定の画派や主題に限定することもヨーロッパの模倣をすることもなく、従来からアメリカ美術が伝統としてきたリアリズムを新たな様式で表現することを共通のテーマとしていたのである⁴⁸。このように仲間と共に展覧会の開催を企画したヘンライだが、自著では他の芸術家との協働や流派に関する持論を展開している。ヘンライは、何かを成し遂げる方法を知るためには、同じ志を持つ仲間の元へ向かい学ぶべきだとし、また共感で結びつき少人数のグループであれば、自主性を尊重して個人がそれぞれ自由な表現をすることが可能と述べた。一方で、仲間からの影響と、個人の自由を剥奪し不要な干渉や対立にまで巻き込まれかねない大きな団体への所属には注意をするべきであるとし、少数での個人を潰さない活動に積極的であった様子が窺える⁴⁹。

ヘンライは初日の会場を見て「センセーションを巻き起こした」と歓喜し、パールマンはその成果を「アメリカ美術史の伝説」と表現した⁵⁰。一方アカデミックな絵画に親しんでいた評論家や大衆からは「醜悪の使徒」と批評され、当時の新聞記事での見解も賛否両論に分かれた。それでも、斬新な主題や手法を求めていた画家たちにとっては待ち望んでいた改革となり、共感を呼んだ。大坪は「いわばアメリカ美術そのものの内発的な動きの中から生まれた進歩的画家たちによる展覧会だった」と述べ、画題の新しさや社会とのつながりをもたらしたことにジ・エイト展の成果を見出している⁵¹。

展示作品は全 63 作品で、ヘンライが 9 点、スローンが 7 点、グラッケンズが 6 点、ラックスが 6 点、シンが 8 点、ローソンが 4 点、プレnderガストが 17 点、デイヴィスが 6 点、となっていたようである⁵²。ヘンライの展示作品は、1907 年の夏にオランダで描いた風景画 2 作品と人物画 7 作品により構成された。その中でも、特に“Laughing child”（図 4）と“Dutch Girl in White”（図 5）に関するヘンライの語りに注目したい。ヘンライは同年 7 月 28 日にスローンに宛てた書簡で、「描きたいと思っていたオランダの子どもたちを描くことができ

⁴⁷ 実際に、デイヴィスの作品で頻繁にモチーフとして描かれているのは神話の世界観と裸体の女性たちである。1906 年に制作され、現在メトロポリタン美術館に収蔵されている『Unicorns(Legend-Sea Calm)』では、2 人の女性と 3 匹のユニコーンが描かれおり、ジャーナリズムやリアリズム、またニューヨークの下町風景や人々の生活といったようなアシュカン・スクールが共有していた要素は全く現れていない。

⁴⁸ “Eight Independent Painters to Give an Exhibition of Their Own Next Winter,” New York Sun, May 15, 1907.

⁴⁹ ロバート・ヘンライ、前掲書、56, 91 頁。

⁵⁰ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 84.

⁵¹ 大坪健二、前掲書、17 頁。

⁵² ロバート・ヘンライ、前掲書、336 頁。

ている」と高揚を露わにした。また、8月14日の書簡では、「集中して素晴らしい作品を描くことができ、満足している」と記し、「作品から多くのことを学んだ」と夏の経験を締め括っている⁵³。ヘンライは、1906年の1月頃から既にアカデミーに反する形で小グループでの展覧会を計画していた⁵⁴。そのため、1907年の夏にオランダで描いた作品は、ジ・エイト展を意識していた可能性が非常に高い。加えて、同展の意図をダイレクトに反映する作品であるとも考えられるだろう。一方で、ジ・エイト展がアシュカン・スクールの原点かつ象徴的な展覧会であるにも関わらず、ヘンライの作品には粗野で無骨な特徴やごみ缶派と呼ばれる要素は全く見当たらない。反映されているのは我が同胞に対する創作意欲と、芸術が「人々が大胆に大きな喜びと共に歩いた足跡であり、生きようとする人々の存在の痕跡」であるというヘンライの価値観そのものである⁵⁵。そのため、人々の生活をリアルに描くという点ではある種アシュカン・スクールの一員として通じた部分があったのかもしれないが、当時否定的に捉えられ一般化されたイメージとはやはり若干の齟齬が生じているのだ。

ジ・エイト展を開催するにあたって、当時アメリカ国内で抑え込まれていた幅広い画家の存在や新たな芸術の可能性を知らしめることは一つの重要な目的であった可能性がある。そのように仮定すると、ヘンライ自身も1人の画家として存在を顕示するべく、自身の信念に従って最も熱中できる対象を吟味し、列举したような作品の制作と展示に至ったと考えられるのではないだろうか。



図4 “Laughing child”



図5 “Dutch Girl in White”

⁵³ Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri*, 152.

⁵⁴ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 76.

⁵⁵ ロバート・ヘンライ、前掲書、178, 197 頁。

第4章 1910年開催の独立美術家展

1910年の4月1日から27日にかけて、独立美術家展が開催された。契機はアカデミーの展覧会にスローンの参加とヘンライの作品2点が落選したことだった。ヘンライ、スローンを中心に、グラッケンズ、デイヴィス、ベローズなどに加えヘンライの学生複数名も参画した。展示内容は絵画265点、線画344点、彫刻22点で、計103名のアーティストが作品を連ねた⁵⁶。同展の最も特徴的な点といえば、出品審査のない初の大規模な展覧会であったことと、ヘンライの提案により賞を設けなかったことであろう。ヘンライは審査について対して徹底した意見を貫いていた。まず芸術作品の価値は測ることができないため審査員は往々にして間違った判断を下してしまうということ。さらに賞を与えることが画家の支配を意味し、画家の成長を妨げることになると見抜いていたのである。さらに、年配の審査員が若い芸術家を評価する仕組みにも疑問を抱いており、「今日を生きる人々の魂を表現し、そういった芸術活動をする若者に耳を傾けるべきだ」とも考えていた⁵⁷。

ヘンライはのちに同展を「いかなる種の反乱者の集いではなく、現在のアメリカに見られる固有性の発展という傾向を示すもの」であったと振り返った⁵⁸。また展覧会最終日の4月27日には自身の日記に「大衆の反応や来場者数から見て、大成功に終わった」と記している⁵⁹。実際に同時期開催のアカデミーの展覧会は盛り上がり欠けていた一方、独立美術家展の開会式には2,500人が参列したほか、前の通りには人が溢れ、最終日まで来場者数が減少することはなかったという。同展の成果に関して、各社の専門批評家は様々な見解を示した。『ザ・サン』紙のハネッカーは「統一性や意図に欠け、くだらない普遍性が目立っていた」と展示作品の無秩序性を批判した⁶⁰。一方で、『イヴニング・ポスト』紙のマザーは「肯定的に称賛されるべき躍然たる多くの作品は、どういうわけかアカデミーやその他では見られなかった」と高く評価し、「確かに人々の真実を我々に示している」とヘンライの意図と展覧会の本質を鋭く見抜いたようだった⁶¹。滝本がヘンライのピークがジ・エイト展であったとみなす一方で、独立美術家展によってアメリカのみならず海外の展覧会でも作品が展示され始めるようになったことから、ヘンライが同展覧会をきっかけに最も影響を持つ人物となったという見解も見られ



図6
“Salome Dancer”

⁵⁶ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 94.

⁵⁷ “Insurgency in Art,” *The Literary Digest* Vol.40, January, 1910-June. 1910, 814. ロバート・ヘンライ、同上書、152, 244 頁。

⁵⁸ “Insurgency in Art,” *The Literary Digest* Vol.40, January, 1910-June. 1910, 814.

⁵⁹ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 95.

⁶⁰ “Insurgency in Art,” *The Literary Digest* Vol.40, January, 1910-June. 1910, 815.

⁶¹ Ibid.

る⁶²。

『イヴニング・メール』紙の批評家は、1909年に描かれ、アカデミーに拒否された作品であるヘンライの“Salome Dancer”(図6)について、「おそらく最も素晴らしい作品」とした⁶³。モデルは、『サロメ』⁶⁴に出演したオペラ歌手である。妖艶な表情に魅惑的なポーズという特性のみならず、オペラ自体もスキャンダラスな作品であったことを踏まえると、アカデミーの対応を予測することは困難なことではない⁶⁵。そのため、選択した主題そのものには前衛的なアシュカンらしさが表れていると言えるだろう。しかし、繊細な色遣いや全体の構造からはゴミ箱派として批判されるような要素は見られない。一方でこの作品においてもモデルの外側ではなく内面の美しさがヘンライの創作意欲を掻き立てているように思われることは、アシュカン・スクールとして連想される人々の真実の姿といった特徴と合致しているとも言える。それらから考察すると、この作品においては特にアシュカン・スクールらしい特徴と1人の芸術家としての個性という二つの要素を容易に二分化することができず、双方が複雑に関係し合っていると考えられるのだ。よって、アシュカン・スクールの主導者的存在であったロバート・ヘンライという人物を語る上では、重要な存在として位置付けられる作品と見なすことができるのではないだろうか。

1910年の独立美術家展は、審査と報酬からの解放を達成したことにより、全ての芸術が等しく立ち並ぶ貴重な場を提供することに成功した。また、ヘンライが展示した作品に注目すると、題材や手法を問わず何よりも惹かれた主題に内在する美や本質の描出を最優先にしていた可能性が改めて明らかになった。そのため、視点の違いから生まれる齟齬があり完全に合致するとは言い難い一方で、ヘンライの芸術観とアシュカン・スクールに対する認識の間には確かに共通要素があったと言えるのではないだろうか。

おわりに

本論では、ロバート・ヘンライと、ヘンライが先導したジ・エイト展や1910年の独立美術家展を分析することでヘンライ並びにアシュカン・スクールがもたらした芸術運動を分析してきた。ヘンライによる日記や書簡、そして自身の著書から浮かび上がってきたことは、人や風景など全ての存在に内在する美しさや真実をそのまま描き出すことにあった、というヘンライの一面である。ヘンライは、手法や主題などの印象によりアシュカン・スクールと呼ばれ批判的に受け止められた美意識とは、全く異なる視点で芸術や美を捉えていたのだ。そして、ヘンライは自身の作品や二つの展覧会を通して、写実的な表現だけに止まらず

⁶² Ibid., 814-815. Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 94. Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri*, 195.

⁶³ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 95.

⁶⁴ 劇的で退廃的な世紀末の心情に訴える劇であった1893年のオスカー・ワイルドの『サロメ』を、リチャード・シュトラウスにより音楽の変形と台本の創作から改作した作品。ジョン・マッケンジー（小西真弓訳）『音楽における『オリエンタリズム』』『豊橋創造大学紀』第6号、2002年、16頁。

⁶⁵ Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art*, 91, 95.

その対象が持つ美しさや真理を描き出すことを追求する新たなアメリカン・リアリズムの展開を目指していたと考えられる。さらに、アシュカン・スクールの仲間との活動では、尊重すべき芸術の多様性や芸術家の個性、そして次世代アーティストの存在をアメリカ国内に知らしめようとしていた可能性が窺える。名前や作品の印象のみが独り歩きしていたアシュカン・スクールに関しては、やはり集団の本質的な共通意識を明らかにすることが困難であった一方で、展覧会等から芸術の新たな可能性を示そうとしたその前衛的な姿勢そのものが一つの共通点であったという側面が浮かび上がってきた。以上のことから、アシュカン・スクールの主導者的存在であったロバート・ヘンライという人物は、アメリカン・リアリズムの追求とアメリカ芸術界の発展を図るため、多岐にわたる活動から真摯に芸術と向き合っていたと言えるだろう。その上で、ヘンライにとってアシュカン・スクールと呼ばれた芸術運動とは、それらの目的を達成するための一手段だったのではないだろうか。

参考文献

- 海野弘『ニューヨーク黄金時代—ベルエポックのハイ・ソサエティ』平凡社、2001年。
- 大坪健二『アルフレッド・バーとニューヨーク近代美術館の誕生 —アメリカ 20 世紀美術の一研究』三元社、2012年。
- 滝口修造監修、『近代絵画事典』、紀伊国屋書店、1960年。
- 小林剛「アルフレッド・スティーグリッツとピクトリアリズム：絵画的写真再考」『関西大学文学論集』、第55巻、第3号、2005年。
- 小林剛「トマス・エイキンズと写真的視覚の発見 ——アメリカン・リアリズム再考」『アメリカ太平洋研究』、2003年。
- ジョン・マッケンジー（小西真弓訳）「音楽における『オリエンタリズム』」『豊橋創造大学紀』第6号、2002年。
- 田野勲『祝祭都市ニューヨーク—1910年代アメリカ文化論』彩流社、2009年。
- 土屋陽子「The “Genius”における『都市』と『牧歌』の描かれ方」『名古屋アメリカ文学・文化』2号、2013年。
- 出羽尚「ハドソン・リヴァー派におけるアカデミズムの痕跡」『宇都宮大学国際学部研究論集』、第43号、2017年。
- 中垣恒太郎「コミック・ジャーナリズムと戦争表象——スピーゲルマン以降のアメリカン・コミック」『立教アメリカン・スタディーズ』28号、2006年。
- 西田正憲「19世紀アメリカ風景画に見る大自然へのまなざし」『奈良県立大学研究季報』第12巻、第2号、2001年。
- ミルトン・W・ブラウン（木村要一訳）『アーモリー・ショウ物語』美術出版社、2006年。
- ロバート・ヘンライ（野中邦子訳）『アート・スピリット』国書刊行会、2011年。
- Alexis L. Boylan “Neither Tramp nor Hobo: Images of Unemployment in the Art of the Ashcan

- School,” *Prospects*, Volume 30, October 2005.
- Bennard B. Perlman, ed., *Revolutionaries of Realism: The Letters of John Sloan and Robert Henri* (Princeton, N.J.: Princeton University Press), 1997.
- Bennard B Perlman, ed., *Robert Henri: His Life and Art* (New York: Dover Publications, Inc.), 1991.
- “Dutch Girl in White,” THE MET, accessed Nov 26, 2021,
<https://www.metmuseum.org/art/collection/search/19303>, (最終アクセス日：2021年11月26日)。
- “Eight Independent Painters to Give an Exhibition of Their Own Next Winter,” *New York Sun*, May 15, 1907.
- “Insurgency in Art,” *The Literary Digest* Vol.40, January, 1910-June. 1910, 814-815.
- Ira Glackens, *William Glackens and the Eight: The Artists Who Freed American Art*, (New York: Horizon Press), 1957.
- Milton W. Brown “The Ash Can School,” *American Quarterly* Vol.1, no.1, 1949.
- “Arthur B. Davies,” National Gallery of Art, accessed Feb 6, 2021,
<https://www.nga.gov/collection/artist-info.1213.html>, (最終アクセス日：2021年2月6日)。
- “Artist & Designers, Ashcan School,” Dallas Museum of Art, accessed Feb 6, 2021,
<https://collections.dma.org/essay/YD6OvjMg>, (最終アクセス日：2021年2月6日)。
- “Ernest Lawson,” Smithsonian American Art Museum, accessed Feb 7, 2021,
<https://americanart.si.edu/artist/ernest-lawson-2833>, (最終アクセス日：2021年2月7日)。
- H. Barbara Weinberg, April 2010, “The Ashcan School,” THE MET, accessed Feb 6, 2021,
https://www.metmuseum.org/toah/hd/ashc/hd_ashc.htm, (最終アクセス日：2021年2月6日)。
- H. Barbara Weinberg, October 2004, “Thomas Eakins (1844-1916: Painting),” THE MET, accessed Nov 9, 2021, https://www.metmuseum.org/toah/hd/eapa/hd_eapa.htm, (最終アクセス日：2021年11月9日)。
- ” History,” The New School Parsons, accessed Feb 6, 2021,
<https://www.newschool.edu/parsons/history/>, (最終アクセス日：2021年2月6日)。
- Joseph J. Kwiatt “Dreiser’s the ‘Genius’ and Everett Shinn, the ‘Ash-Can’ Painter,” *PMLA*, 67, no.2, 1952.
- “Macbeth Gallery Exhibition Catalogs,” THE MET, accessed Feb 14, 2021,
<https://www.metmuseum.org/art/libraries-and-research-centers/watson-digital-collections/rare-materials-in-the-met-libraries/macbeth-gallery-exhibition-catalogs>, (最終アクセス日：2021年2月14日)。
- “Robert Henri,” Fine Arts Museums of San Francisco, accessed Feb 14, 2021,
<https://art.famsf.org/robert-henri>, (最終アクセス日：2021年2月14日)。

Robert Torchia, “John Sloan,” National Gallery of Art (Sep 29, 2016), accessed Feb 7, 2021, <https://www.nga.gov/collection/artist-info.1881.html>, (最終アクセス日：2021 年 2 月 7 日)。

Stephen K. Walkiewicz, “The Narrative of Revolution: Socialism and The Masses 1911-1917” (City University of New York, 2019).

“The Mission Tent,” THE MET, accessed Feb 6, 2021, <https://www.metmuseum.org/art/collection/search/11635>, (最終アクセス日：2021 年 2 月 6 日)。

“1892 to 1953, in the Archives of American Art,” Smithsonian Institution Smithsonian Online Virtual Archives, accessed Feb 14, 2021, <https://sova.si.edu/record/AAA.macbgall?s=0&n=10&t=C&q=&i=0>, (最終アクセス日：2021 年 2 月 14 日)。

目次

はじめに

第一章 対アフリカ政策の歴史的変遷

第一節 フランス

第二節 中国

第二章 学者による議論とその検証

第一節 ポール・コリアーとダンビサ・モヨの見解

第二節 コリアーの議論の検証

第三節 モヨの議論の検証

第三章 援助と政治経済体制の関係から考察する援助の変容

第四章 今後の援助のあるべき姿

おわりに

参考文献

はじめに

現在、世界人口の8割以上が経済開発協力機構(OECD)の発表する開発途上国¹で暮らしている。この途上国に対し、先進国は援助という形で途上国に対してインフラ整備や投資の活発化を行うことで開発途上国の発展を促進させようとしてきた。しかし、従来の援助を疑問視する声もあり、方法の再検討が行われている。

イギリスの経済学者ポール・コリアーは自身の著書『最底辺の10億人』で、貧困問題の核心は成長であると述べている²。貧困問題に対して開発事業などでプロジェクトが進められていくが、最底辺の国々まで開発が回らないのが現状であるという。こうした国々の多くは政府機能の不全により国民に対する実質的な義務を果たすことが困難な状況にある、いわゆる脆弱国家であり、政府機能を回復するために援助は必要だが、そのアプローチを変えなければならないと主張する。

一方で、ザンビア出身のダンビサ・モヨは、逆に援助が汚職等の腐敗を助長させ、人々を貧困に陥れると主張する³。彼女は、従来の先進国による援助の機能不全を指摘し、アフリカの貧困は先進国の援助によるものだとしつつも、中国の対外援助政策については肯定的な見解を示している。1949年の建国以来中国(中華人民共和国)は、アフリカを含む多くの国と地域へ対外援助を行ってきた。しかし、冷戦下の1964年に周恩来首相が発表した「対外援助8原則」(1984年には鄧小平がこの原則を踏襲する4原則を発表)に基づいて対外政策を進めてきた中国の援助に対して、内政干渉であるとの批判がなされる。

本稿では後発開発途上国における援助に関してコリアーとモヨの著書で議論されている援助と政治経済体制の関係性に注目し、援助国と被援助国の関係性の変遷について検討していく。特に、後発開発途上国が多く存在するアフリカ地域に焦点を当て、植民地支配の旧宗主国として援助を行うフランスの対アフリカ政策とアフリカへの援助を拡大させる中国の対アフリカ政策を対象とする。

第一章 対アフリカ政策の歴史的変遷

本章では、研究の対象とするフランス・中国の対アフリカ援助政策の変遷から両者がアフリカ諸国と関係構築するに至った経緯を整理する。

第一節 フランス

歴史的にフランスとアフリカ諸国との繋がりは、宗主国と植民地として強固なものであった。そのため、外交政策において開発援助を重視するフランスは、特にアフリカへの開発援助を重視している。この政策は、植民地独立後も旧植民地と旧宗主国との関係を維持しようとするものである。

現代のフランスとアフリカ諸国との繋がりは戦後に再構築されたものである。第五共和憲法⁴によってフランス連合⁵が解体され、新たにフランスと共同体構成国から成るフランス共同体が成立した。これは、植民地独立の機運が高まっていた1950年代に成立し、制度的、経済的な関係の維持を目的とした共同体である。フランスの各海外領土では「共同体参加か独立か」の国民投票が行われたが、ギニアを除く多くの国が共同体への参加を承認し、フランス共同体内の独立国へと移行し

¹ OECDの発表するODA受取り国リストに掲載されている国。開発途上国に分類される国は、世界銀行によって「高所得国」以外に分類されているか、国連によって後発開発途上国に分類されている。

² ポール・コリアー『最底辺の10億人』日経BP、2008年。

³ ダンビサ・モヨ『援助じゃアフリカを救えない』東洋経済新報社、2010年。

⁴ 1958年にシャルル・ド・ゴールが第四共和政を事実上打倒し、新たに作られた現在のフランスの共和政体制。

⁵ 第四共和政憲法に基づき形成されたフランスと植民地の間の国家形態。

た。現代では、一つの共同体としての機能は失われているものの、当時形成されたフランスとアフリカ諸国の密接関係はその関係は現在も維持され続けている。

フランスの対アフリカ政策には伝統派と改革派と言われる派閥が存在する。前者は、フランスの植民地であったアフリカ諸国とフランスの二国間関係を維持したうえで、フランスの影響力を維持しようとする政策一派である。こうした政策は旧友外交とも呼ばれ、人権や民主主義などの原則を尊重しない国家とも関係構築に努めた。一方で、後者は伝統に基づく関係に否定的な見解が示され始めたことで登場した一派である。1990年、ミッテラン大統領はラ・ボール演説⁶において民主主義と経済発展を結びつけ、フランスの開発援助と民主化を結びつける原則を表明した。さらに、バラデュール前首相によって推進されたアビジャン・ドクトリン⁷はフランスのアフリカ開発援助を国際基準に一致させ、従来の対アフリカ政策に変化をもたらした。このように戦後、旧植民地諸国との関係を伝統に基づいて維持していたフランスであったが、国際的な潮流の変化から方針を転換し、民主主義などの原則に基づいた現代型の援助へと変容していった。

第二節 中国

中国とアフリカ地域の関係は、戦後、イデオロギー面での外交関係を形成したことに始まる。その後、1955年に開催されたバンドンでのアジア・アフリカ会議⁸をきっかけとして中国とアフリカの関係はより深まったといわれる。同会議において、中国は第三世界の国々を代表する意志を表明した。その後、多くのアフリカ諸国が独立を果たすが、中国の支援をもとに旧宗主国への対抗路線を歩むこととなる。

中国がアフリカ諸国を支援した背景には、中ソ論争⁹や台湾との対立などに関与することで中国が国際的な孤立の危機に瀕していたことがある。このような背景から中国はアフリカ諸国の独立支援、国交樹立を行い、後ろ盾となることで中国への国際社会での支持を取り付けようとした。とりわけ、ガーナ・ギニア・マリはいち早く中国と密接な関係を築き上げた。さらに、この関係を強化したのが1964年の周恩来元首相によるアフリカ10カ国訪問であった。中国は、この訪問に合わせて対外援助8原則¹⁰を発表する。その後、中国はこの原則に基づいて対外援助を進めていった。

また、1971年の国連総会で中国の代表権が承認され、それまで代表権を保持していた台湾が代表権を失った背景にも、アフリカ諸国からの賛成票があった。その後、中国の対アフリカ政策は改革开放路線¹¹を通じて変容していく。中国が経済活動を重視した政策へと移行したことで対アフリカ政策についても見直しがなされ、1982年には鄧小平が対外協力関係発展4原則¹²を発表した。

⁶ 第16回アフリカ・フランス会議においてミッテランは経済支援と民主化は同時に行われるべきだと述べ、新植民地主義政策を推進した。

⁷ フランスの開発援助の基準をブレトンウッズ機構の構造調整プログラムの進行状況に追従させることを目的とした原則。

⁸ アジア及びアフリカから29カ国が参加した国際会議。植民地主義への反対や民族自決などに関する宣言が採択された。

⁹ 中国共産党とソ連共産党の理論的対立。スターリン批判を契機に表面化した。

¹⁰ 平等互惠の原則に基づく援助、被援助国での主権尊重、自力更生路線での経済建設の実現などを規定した対外政策の原則。

¹¹ 中国で1978年に開始された経済政策。鄧小平の主導により市場経済への移行が図られた。

¹² 平等互惠と相互の主権尊重・内政不干渉・経済上の相互利益・共同发展を規定した原則。

さらに近年、中国が推進する一帯一路¹³もアフリカ支援を加速させる要因となっている。2020 年には、中国とアフリカ連合は「中華人民共和国政府とアフリカ連合の『一帯一路』建設の共同推進に関する協力計画」に調印し、両者の関係はさらに強固なものとなっている。

第二章 近年の学者の議論とその検証

本章では、ポール・コリアーとダンビサモヨの著書のなかで議論されている援助国と被援助国の関係について、実際の事例を検証し、援助と政治経済体制の関係についてみていく。

第一節 ポール・コリアーとダンビサ・モヨの見解

イギリスの経済学者ポール・コリアーは、最底辺の国々は、紛争の罠¹⁴、資源の罠¹⁵、内陸国の罠¹⁶、悪いガバナンスの罠¹⁷の一つ以上に囚われており、経済的相互依存の進む 21 世紀の世界においては、脆弱性は増すばかりで、世界経済から脱落していくとしている。従来の援助は、その効率や成果が疑問視されるものであり、途上国の持続的な成長には繋がりにくいため、先進諸国には経済援助や軍事的介入が求められると主張する。しかし、過度な経済援助は産業の多様化を阻むこともあることや汚職へとつながる場合もある上、先進国にとって軍事的介入のインセンティブがないことなど問題は多い。先進国は、ニーズのみを見据えた援助でなく成果を追求した救済のための援助を行うべきとする。さらに、アフリカ地域の国々の統治体制が成長の遅れを招いているとし、その統治体制下では、西側的価値観である民主主義などのイデオロギーは親和性が低いことを指摘する。ガバナンスは開発を実効的に進める上で重要な要素であるとし、劣悪なガバナンスは経済を崩壊に招くという¹⁸。

紛争の罠については、最底辺の国々の紛争は、暴力的な国内衝突パターンにはまり込んでおり、内戦やクーデターへと発展するとしている。この二つの政治的紛争のコストは大きく、その国を貧困の中に閉じ込める結果となる。内戦は低所得の国の方が起こりやすい。また、低成長や停滞・衰退が内戦を駆り立てる。内戦開始時の国の所得が低ければ低いほど内戦は長期化する。コリアーは、ある国が独立にあたって内戦が勃発する要因は低所得、低成長、一次産品輸出への依存の 3 つであるとする。

天然資源の罠については、天然資源の輸出による黒字は成長を著しく鈍らせ、その要因は、収入から総コストを差し引いた余剰分レントが有害に働くためであるとする。十分な天然資源がある場合には、通常の経済活動を怠ることもできるが、このような豊かなレント依存国家はまれであり、多くの資源国は資源からの収入で中所得国にはなれても、それ以上にはなれないという。そこで、十分に発展するためには成長に向けて資源の富を活用する必要があるが、それは困難で、普通のパターンは停滞であり、足踏みが続くなかでの好況と不況の循環であるとする。また、石油および他の天然資源による収益は、選挙競争によるプレッシャーとはとりわけ相性が良くないことがわかったのだ。天然資源の収益がないとすれば、民主主義国は独裁国よりも経済成長しやすい。

¹³ 習近平国家主席により提唱された広域経済圏構想。

¹⁴ コリアーが『最底辺の 10 億人』で主張している、内戦やクーデターなどによって貧困が改善されない状況を指す。

¹⁵ 資源に依存する国の成長が停滞することを指すコリアーの主張。

¹⁶ 内陸国であることが理由で成長率が低下することを指すコリアーの主張。

¹⁷ ガバナンスのコンディションが成長を左右するというコリアーの主張。

¹⁸ ポール・コリアー、前掲書、14-30 頁。

しかし、天然資源からの収益が大きい場合には逆の現象が起き、独裁国家は民主主義国家の経済パフォーマンスをしのぎ、その正味の効果も大きい。

内陸国の罨について、国が陸地に囲まれている場合には成長率はおよそ0.5%低下するという。資源に乏しい内陸国にとっては、ただ1つの成長戦略だけで中所得国に成長できるような方法はない。このためには独創的で巧みな戦略が必要とするとする。

ガバナンスの罨は政府がなにをしようと、経済はそれ以上成長できない。一方、劣悪なガバナンスと政策は恐るべき速さで経済を破壊する。例えばロバート・ムガベ大統領は、1998年以来、年率1000%以上のインフレを引き起こしており、ジンバブエの経済崩壊の責任を負うべきである。9.11同時多発テロ以降にアメリカは援助予算を50%増額した。その主な動機は失敗国家¹⁹を安定させる必要があるという認識だった。失敗国家のコストは年々積みあがっていく。そして失敗国家の成長率は激減していき、絶対的衰退に陥りやすい。また近隣諸国の成長も激減する。失敗国家が方向転換するには長い時間がかかるため、これらのコストは将来にわたって続く。

一方で、ザンビア出身のダンビサ・モヨは、無償援助がアフリカ経済に与える悪影響を指摘し、援助の停止が必要と主張する。援助は独裁者や腐敗した役人にとって安定的に収入を獲得することのできる手段であり、国民からの徴税よりも横領につながる可能性は高く、政権を維持することにもつながるという。そして、援助が停止されれば汚職に関与する政治家は税率を上げることとなり、国民による政治家の審査の機運が高まると主張する。西側諸国の行ってきた開発援助の欠陥は、援助に対する対価を求めなかったことであるとし、中国の互恵的な開発援助は従来の西側の援助とは異なると主張する²⁰。

第二節 コリアーの議論の検証

本節では、コリアーの主張する4つの要因と政治経済体制の関係性をフランスと繋がり深いアフリカ諸国の事例から検証していく。

紛争国の罨についてコリアーが主張するように、アフリカの成長にとって紛争解決と平和構築のための軍事介入は必要であると認識されてきた。こうした認識のもとで、フランスは軍事的介入を行ってきた。

例えば、マリにおいて武装組織が蜂起した際にはマリの要請を受けてフランス軍が介入した。この背景には、マリとの関係維持を望むフランスの思惑があった。また、その後就任したイブラヒム・ケイタ大統領はフランスとの良好な関係を築いていた。しかし、武装勢力の蜂起後、不安定な情勢を改善することができなかったケイタ政権に対して国民の不満は高まっていった。その結果、昨年、マリ軍幹部はクーデターを決行し、ケイタ大統領を辞任へと追い込んだ。このように、軍事介入が行われる際のインセンティブは、先進国側の政治的思惑がある場合が多い。マリの事例においてもフランスの軍事介入により、樹立された政権が結果として同国内の政治的不安定につながっている。

また、フランスはチャドにおいても軍事的プレゼンスを維持し続けてきた。チャドはフランスの軍事拠点として大きな役割を果たしており、多数の軍事作戦において協力関係を築いてきた。フランスにとってチャドが軍事拠点として意味を持っていた背景には、サヘル地域²¹の治安維持があ

¹⁹ 内戦や政治的腐敗によって国民に安全や基本的公共サービスを提供できない国家。

²⁰ ダンビサ・モヨ、前掲書、4-19頁。

²¹ サハラ砂漠南縁部に広がる地域。各国の国境付近が砂漠となっているため犯罪集団移動が容易であり、同地域の治安が懸念されている。

る。同地域は、反政府勢力やジハーディスト²²といった犯罪集団が拠点とする場であり、世界的な懸念の対象となっていた。フランスはチャドにおいて軍事的プレゼンスを維持するため、デビ前大統領との良好な関係の維持を条件として、チャド国内の政治状況についての不干渉を約束していた。このフランス・チャド間の関係性の影響もあり、デビ前大統領は30年以上にわたり政権を掌握し続けたが、同政権に対する国内からの批判は目立っていた。一方で、先進諸国からはアフリカ西部のテロ対策に関わる重要なパートナーとされていた。このように、援助国が政治的意図をもって実行した軍事介入が必ずしも被援助国にとっての利益につながるとは限らない。

次に、天然資源の罠について検証していく。アフリカ地域において、GDPが第1位の国はナイジェリアである。同国は、国家歳入の約7割、総輸出額の約8割を原油に依存しており、経済の多角化が課題となっている。1970年代には、石油輸出による収益が増えるにつれて、従来の輸出品であったココアやピーナッツなどの利益が落ち込み、これらの産業は衰退していった。その後、1980年代の前半にナイジェリアは石油ブームにわき、同国政府はその間に大きな負債を抱え、腐敗にまみれたプロジェクトに投資し、石油ブームを取り逃した。1986年に世界の原油価格が暴落すると、ナイジェリアの石油に依存した経済は大きなダメージを受け、石油収入が減っただけでなく、借款の返済へと事態は急激に悪化して、ナイジェリアの生活水準は低下した。

中国の対外支援先の拡大は、主にスーダンなどの石油資源国を中心に進められているが、これらの国々は非民主的な政治体制であることが多い。よって先進国のような民主化を条件とした援助ではなく、中国が一貫して内政不干渉を主張し、政治体制に関与しない姿勢が示していることが、被援助国の腐敗を助長するという見方もある。

中国が援助先として支援するアフリカ地域の一つにアンゴラがある。アンゴラの成長の背景には、中国による援助が存在する。世界銀行や国際通貨基金は、アンゴラ国内の政治の不透明性や汚職の可能性を理由として、融資について消極的な姿勢をとってきた。こうした中で、中国はアンゴラへの支援を続け、プレゼンスを維持し続けてきた。Transparency Internationalの発表する腐敗認識指数において、アンゴラは27.00ポイントである²³。このポイントは179カ国中142位であり、ムセベニ大統領の長期政権による腐敗や汚職が指摘されているウガンダと同率である。このような国内政治の腐敗が指摘されている国に対する無条件の支援は現行体制の温存につながるとされる。

コリアーは、資源からの収入に依存する国家は、中所得国²⁴となった段階で、その成長の停滞が訪れることを指摘している。事実、アンゴラは資源による収入で経済成長を遂げ、2014年には、国民一人当たりのGNIが7680米ドルまで推移したが、その後は低下傾向にある²⁵。ここから、資源に依存した経済の成長には、コリアーの指摘するように限界があることがわかる。また、内陸国の罠について、コリアーが指摘するように、資源に乏しい内陸国は成長率も低く、そのような国に対する援助は援助供与国にとっても利益が少ない。友好国とされる国に対する援助を優先するフランスは、資源の豊富な国やGDPが高水準で推移し、成長が見込まれる国に対する援助を厚遇する。

ガバナンスの罠についてコリアーが言及するように、ガバナンスと開発途上国の成長は相互に影響し合う概念としての認識がされてきた。フランスとアフリカ諸国の特異な結びつきは、「フラン

²² イスラム法による全面統治を武力によって実現しようとするイスラム過激派の総称。

²³ GLOBAL NOTE「腐敗認識指数国別ランキング」<https://www.globalnote.jp/post-3913.html>（最終アクセス 2021年11月27日）。

²⁴ 世界銀行では一人当たりGNIが約1000～1万3000米ドル弱を中所得国と定義している。

²⁵ Data Commons「アンゴラ：1人あたりの国民総所得」

<https://datacommons.org/place/country/AGO?category=Economics&hl=ja>（最終アクセス 2021年12月6日）。

サフリック²⁶」と揶揄されることがある。サルコジ前大統領は、このフランサフリックからの脱却を掲げたが、未だにフランスとアフリカ諸国の結びつきは維持されている。

フランス語圏アフリカ諸国において使用されている共通通貨である CFA フラン²⁷は、元来、フランス領植民地において使用されていた通貨である。この CFA フランは、先述したアビジャン・ドクトリンの適用によって 1994 年に切り下げられた²⁸。この切り下げは、対外債務の膨張を招きカメルーン等のアフリカ諸国を破産の危機に追いやった。そこでフランスは、これらの国への経済援助を約束し、保護する姿勢を見せた。つまり、フランスの政治的・経済的プレゼンスの維持を条件としてフランスに経済援助を求めることが可能となった。自力で経済的問題を切り抜けることが困難であった開発途上国にとって、先進国による経済援助は不可欠な要素であったが、援助国への依存を生み出すほか、援助国による過度な介入を招きかねないものであった。

次に、1990 年代の国際通貨基金や世界銀行による構造調整²⁹がアフリカ経済に与えた影響を、第一次世界大戦後にフランスによって統治され 1960 年に独立したカメルーンのガバナンスと援助の関係からみていく。

カメルーンでは独立以来、国家主導型の経済開発が進められ、石油などの一次産品を軸に好調に推移していた。1970 年代から 1989 年代初頭にかけて、カメルーン政府は、石油等の主軸産業のみならず、観光産業など様々な経済分野にまで事業を拡大し、国営企業・開発公社の数は増えていった。しかし、国家主導の開発戦略は現実の市場とは乖離しており、官営事業の多くは収益性や採算を無視した状況であり、赤字経営の国営企業を支援すべく政府は補助金を増額し、財政支出は年々増加していった。結果として、国営企業や開発公社の多くが破綻寸前の状態となった。このような経済危機について、国際通貨基金と世界銀行は、輸出利益に依存した経済が一次産品の市場価格下落という一時的・外的要因によって破綻したのではなく、経済制度に要因があると判断した。そこで、低開発国に対して経済構造改革の実施を条件とした政策融資を開始した。また、為替政策の見直しも行われ、先述の CFA フラン切り下げによって天然ゴムやカカオといった商品作物を中心に輸出額を伸ばし、経済収支の改善につながった。このように、経済的ガバナンスの整っていない国において、経済成長は見込めず、開発を実効的に進めることも困難であるため先進諸国はガバナンスの整備を優先する傾向にある³⁰。

しかし、構造調整政策は政策改革の枠組み策定およびその履行を融資の条件とするため政治体制選択の自由や経済体制選択の自由などの国家主権の侵害ではないかとの批判がされた。この条件の存在は、その後の構造調整をめぐる議論の契機となった。

第三節 モヨの議論の検証

エチオピアと中国

本節ではモヨの議論を中国とアフリカ諸国の関係から検証していく。

²⁶1990 年代のアンゴラへの武器の不法輸出など、フランスの政軍財界とアフリカ諸国政府との不透明な癒着関係を揶揄した言葉。

²⁷西アフリカ諸国中央銀行が発行する共通通貨。コートジボワールやマリなどで使用されている。

²⁸1994 年のダカールでの首脳会議で決定された。1 フランス・フラン＝50CFA フランから 1 フランス・フラン＝100CFA へと変更された。

²⁹途上国が国際通貨基金や世界銀行から金融支援を受ける前提として要求される政策勧告。マクロ経済を安定させ、国営企業の民営化、金融の自由化、規制緩和などを通じて市場機能を整備を整備することを内容とする。

³⁰墓田桂「構造調整計画移行のカメルーン」『外務省調査月報』、2000 年度第 2 号、2000 年。

モヨは先進国による援助が腐敗を助長するとしているが、近年アフリカ地域においてプレゼンスを拡大している中国による援助も途上国の汚職を助長するとの批判が存在する。

モヨの指摘する先進国の援助の非互惠性は、援助に関する原則に基づくものである。フランスをはじめとする先進国によって構成される経済開発協力機構（OECD）の委員会の一つである開発援助委員会（DAC）は加盟国による途上国の援助の拡充を目的としている。DACは1991年に「DAC評価5原則」を提唱し、国際協力の基準を示し、2019年には新基準の追加が採択され6原則となった。同原則には、妥当性・有効性・効率性・持続性・インパクト・整合性の評価基準が設けられ、各国はこれに基づき援助の評価を行う。そのため、先進諸国による援助は基準を満たす形で供与されることとなる。

一方で、中国は先述の「対外援助8原則」および「対外協力関係発展4原則」に基づいて援助を行ってきたが、両原則の最初に「平等互惠」を掲げている。先進国とりわけ旧宗主国が行ってきた恩恵的援助ではなく、相互性を有した関係を構築することで被援助国の経済的發展を促進すると同時に中国の経済的利益にも資する「援助」を供与し続けているとされる³¹。

では、実際に中国の援助は相互性を有し、被援助国に資するものとなっているのだろうか。中国は、アフリカ進出を進めるにあたって中国・アフリカ協力フォーラム（FOCAC）³²を開催してきた。同フォーラムは、日本主導で開催されてきたアフリカ開発会議（TICAD）³³の模倣であるとされてきたが、近年、その規模はTICADを超えてきている。昨年12月、第8回FOCAC閣僚会議がセネガルの首都ダカールで開催された。これまで、中国の資金提供に頼りきりであったアフリカ諸国であるが、最近になり、中国が提供する資金が高利子であることや返済期限が短いことを理由に開発に限界があると考えられるようになった。中国側も、「債務の罠」の批判を受け、資金貸出の審査基準を厳格化する方針を明らかにしている。

同会議では、総額400億ドルの資金提供と10億回分のコロナワクチン提供を発表した。中国にとってアフリカとの関係は政治的動機に基づくものであることが多く、国際民間航空機関（ICAO）³⁴など4つの国連機関を中国が掌握している現在の状況は、アフリカとの関係なしには実現できなかった。このような関係を維持・構築するため、中国側はアフリカ諸国のニーズにあった援助を供与する。今回のワクチン提供もアフリカでのワクチン接種が大幅に遅れている状況を鑑みた実効性のある援助と言える。すなわち、中国・アフリカ諸国の双方の利益に資する援助である。

第三章 援助と政治経済体制の関係から考察する援助の変容

本章では、援助と政治経済体制の関係について考察した上で、近年の援助の変容についてみていく。また、援助に関する議論がされ続けている要因について検討する。

ガバナンスや経済政策を梃子に援助の供与を行うフランスの対外政策には、被援助国の体制にも一定の圧力を加えることで、政治的安定ひいては経済的安定を確保する。一方、中国のような利己的な援助供与は、被援助国の非民主主義的体制を維持させる一因ともなる。

³¹ 「ODA評価ガイドライン」、外務省大臣官房 ODA 評価室、2020 年。

³² 2000 年から 3 年毎に開催されている中国とアフリカ諸国との地域協力の枠組み。アフリカ側の参加国は中国と国交のある 53 カ国とアフリカ連合の事務局。

³³ アフリカの開発をテーマとする国際会議。1993 年から開催されており、アフリカ 53 カ国・52 カ国の開発パートナー諸国、108 の国際機関及び地域機関などが参加する。

³⁴ 国際民間航空機条約（シカゴ条約）に基づき設立された国連専門機関。

フランサフリックと批判されるフランスとアフリカ諸国のつながりは、援助を基盤として継続しているが、このつながりはフランス的価値観の普及につながっている。アフリカ諸国はフランスを最大の外交相手としている国も多くあり、フランスの顔色を伺う国家運営になっている国も少なくない。旧宗主国としてプレゼンスを維持し続けるフランスによる援助は政治経済体制との関係を抜きには語ることができない。

一方で、中国による「援助」は政治的関与をしないとされているが、その主な目的は自国の経済的利益の優先にある。内政不干渉を強調した援助は、結果として独裁など政治的不安定さにつながる体制の維持を招く可能性が高い。

以上より、援助の条件として西側の価値観を普及させようとする先進諸国の援助は、援助と政治経済体制の関係性が深く、中国のような内政不干渉を主張しながら自国に有利な結果を生む援助は間接的に政治経済体制との関係を持つといえる。しかし、中国の主張する内政不干渉はあくまでも経済的利益を優先した結果であり、中国の経済的利益の追求に都合の良い体制の維持・普及であるとの批判もある。

援助には外交手段としての側面があり、援助国の政治的経済的政策が伴うため、それに対する批判は常に存在する。そのため、援助は議論を巻き起こし、また変容を遂げている。

例えば、フランスのフランス語圏に対する援助はソフトパワーによる援助の割合が他の先進国よりも高い。同国は特に優先連帯地域（ZSP）に対して重点的に援助行いが、主要援助供与国の援助分野の割合を比較すると、教育分野の援助が突出している³⁵。これは教育分野の援助が被援助国の体制作りの根幹になるとの認識があるだけでなく、基本方針である文化的プレゼンスの維持を目的としているものともとれる。ソフトパワーによるプレゼンスの維持は、他国の直接的援助とは一線を画している。

同様に中国は、孔子学院事業³⁶に注力している。同学院設置は中国政府が資金提供をし、現地学生に経済的負担なく中国語の教育を提供することができる教育機関であった。中国が世界中に学院を設置する活動は、もともと中国語教育や中国文化といったソフトパワーを用いたパブリック・ディプロマシー³⁷と認識されてきたが、先進国からはシャープパワー³⁸との批判がされている。

近年、孔子学院の存在と中国の輸出貿易および対外直接投資に与える影響をまとめた研究もある。具体的には、1996年から2008年までの期間における中国の輸出額と直接投資額を孔子学院の数や中国との関係性、政治的安定性などを考慮した上で分析している。結論としては、孔子学院の存在は、中国の輸出額に影響を与えないが、中国の対外直接投資額を48%から118%にまで増加させることが示されているという。さらに、孔子学院の存在は、先進国に対する直接投資額と輸出額には影響を与えないが、発展途上国に対しては、中国の対外直接投資額と輸出額を増加させると結論しているという³⁹。このように、孔子学院の存在は中国と設置国との関係性に影響を与えており、単なる教育機関として扱われることは少ない。

³⁵ Organisation for Economic Cooperation and Development, Aid by Major purposes in 2019.
<https://www.oecd.org/dac/financing-sustainable-development/development-finance-data/statisticsonresourceflowstodevelopingcountries.htm> (最終アクセス 2021 年 11 月 27 日)。

³⁶ 世界各国に設置されている中国語および中国文化に関する教育機関。

³⁷ 公共外交ともいわれ、広報・対市民外交などを国益のために国家が意図を持って行う外交形式。

³⁸ 権威主義国家が、強引な手段を用い自国の方針を飲ませようとする外交形式。

³⁹ 尹曼琳「中国の「四位一体」型アフリカ進出-ギニア湾岸地域の事例を踏まえて-」『博士論文本文 Full』、2014 年。

2018年に北京で開催された FOCAC で採択された北京行動計画⁴⁰においては、中国がアフリカ諸国における既存の孔子学院の発展を支援すること、アフリカ諸国が中国語教育を国家教育制度に取り入れることを歓迎することなども含まれ、孔子学院・孔子課堂を新規設立したとの実績も示された。

教育事業の海外展開は、表面的には教育分野の援助とされていても、援助国の体制の違いにより批判が生まれることは避けられない。このように、援助の形式を変更したとしても、援助国の政治経済体制の違いにより援助の供与方式に差異が生じ、相対する国からの批判がなくなることはない。外交手段としての側面を持つ援助であるからこそ、援助国の政治的経済的な思惑と密接に関わってくることは当然とも考えられる。

第四章 今後の援助のあるべき姿

本章では、コリアーとモヨの議論をふまえ、今後の援助に求められる姿を検討する。

コリアーとモヨの著書の中で共通して主張されているのは、従来の援助形式の改革の必要性である。両者の主張を受け、私は効果的な援助を供与するためには二つの要素が必要であると考え。実効的かつ緻密に計画された被援助国を導くことのできる援助の「質」と被援助国の国内環境を変えうほどの援助の「量」が求められると考える。両者の著書の中で主に議論されているのは、「質」の部分であり、その効果的实施方法などが議論されている。質的充実を実現させるための様々な案が両者から主張されている。ここでは、「量」の側面に注目し、今後の援助のあるべき姿を検討していく。

先に述べたように、援助は政治的利益や経済的利益と大きく関係する各国の一政策であるが、援助の量的充実を目標とした国際目標も存在する。国際連合は、1970年の総会で国民総生産

(GNP: Gross National Product) 0.7%相当の金額を政府開発援助 (ODA: Official Development Assistance) に支出することを先進諸国に対して目標として定めた。また、2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals) ⁴¹の目標17には、先進国による開発途上国及び後発途上国に対する O D A の目標が定められている⁴²。

しかし、多くの先進国がこのような国際的基準を達成できていないのが現状だ。2019年の DAC メンバーによる ODA 実績で、対 GNI 比 0.7%を超えている国は、ルクセンブルク (1.05%) ・ノルウェー (1.02%) ・スウェーデン (0.99%) ・デンマーク (0.71%) ・英国 (0.70%) の5カ国のみである⁴³。各国の経済規模に見合った援助が求められる現代社会において、先進国クラブとも呼ばれる OECD の DAC メンバー全体での値が 0.32%と目標を大きく下回る結果となっている。

⁴⁰ 政治、経済、社会開発、人材・文化、平和・安全保障、国際、FOCAC のメカニズムの構築という幅広い分野にわたる協力の内容が含まれる。

⁴¹ 2001年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) の後継として加盟国の全会一致でされた持続可能な世界を目指す国際目標。

⁴² 先進国は、開発途上国に対する ODA を GNI 比 0.7%に、後発開発途上国に対する ODA を GNI 比 0.15~0.20%にするという目標を達成するとの多くの国によるコミットメントを含む ODA に係るコミットメントを完全実施する。ODA 供与国が、少なくとも GNI 比 0.20%の ODA を後発開発途上国に供与するという目標の設定を検討することを奨励する。

⁴³ 「2020年の各国 ODA 実績 (暫定値) の公表」、外務省、2020年。

このような状況下で、世界経済における新興国の影響力は大きくなってきている。中国が日本のGDPを超え世界第2位になり、BRICs⁴⁴をはじめとする新興国の存在感は年毎に強くなり、先進諸国との経済的格差は以前ほど大きなものではなくなっている。新興国が台頭し始める以前に存在した、経済的指標による「先進国」と「途上国」という明確な線引きはなくなりつつある。近年の世界経済を鑑みると、先進国にのみODAの支出基準を設け、量的充実を目指すことが最適とは言えない。最低目標を設け、先進諸国にそれを課す現状が、純粋な援助を遠ざけ、政治性の強い援助を助長しているのではないだろうか。量的充実を実現するためには、先進国のみならず新興国など経済規模の大きい国に対しても援助の国際目標を設けることが必要であると考えられる。

しかし、単に援助の量を増やせば被援助国側が発展するというわけではない。援助の拡大は、モヨが指摘するように、腐敗や汚職に関わる政治家にとっては安定的に収入を得る手段になりかねない。一方で、途上国が成長を達成するために必要な資金不足も指摘されている。国連貿易開発会議（UNCTAD）が発表した報告書によると、SDGs達成のために必要な資金は年間5兆ドル～7億ドル程度だという。特に途上国については、年間3.2兆ドル～4.5兆ドルの資金が必要とされる。しかし、実際に支出されている投資額は年間1.4兆ドル程度にとどまっているのが現状である。途上国が資金不足に陥ってしまう原因の一つに徴税能力の低さがある。国連は、GDPに対して20%以上の税収がある状態が望ましいとしているが、途上国の多くでこの基準を下回っている。資金獲得という側面においては、汚職や腐敗と繋がりやすい無償資金援助を拡大するのではなく、徴税能力を上げるためのガバナンス整備も必要となることがわかる。

このように、援助における「量」と「質」は表裏一体ともいえ、どちらか一方のみが満たされているだけでは開発途上国の持続的な成長にはつながらない。そして、「質」と「量」の双方が満たされた時点で、援助の新たなあり方を議論すべきではないか。

おわりに

本研究では、援助方法の再検討が活発化する現代において新たなアプローチを主張するポール・コリアーとダンビサ・モヨの議論で言及されている援助と政治経済体制の関係について、フランスによる対アフリカ政策と中国による対アフリカ政策を通して検証した。その結果、コリアーとモヨが挙げる要因が実際に開発途上国を深刻な状況にしていることが見えてきた。一先進国として西側の価値観を条件として援助を供与するフランスと自国の経済的發展に資する国に対する利己的な援助を供与する中国。どの援助方式をみても、援助国の方針・政策に沿ったものであり、援助と政治経済体制の関係は深いといえる。先進国は、より豊かな世界を目指すという大義のもとで、ガバナンス・経済・安全保障・教育など様々な分野から開発途上国に対して援助を行う。一方で、中国は途上国のリーダーであるという認識のもとに、自国の利益に資する国に対しての援助を拡大させ続けている。各国の援助方法の違いは、当該国の政治経済体制や当該政府の政策から生まれるものであり、援助方式の再検討をするうえで、各国の国益に絡め取られない方法の検討が始められる必要がある。

今後、援助に関する議論がされる際には、被援助国側の問題だけでなく、援助国側の諸問題にも目を向けるべきである。

⁴⁴Brazil・Russia・India・Chinaの頭文字を合わせた造語。広い国土と多くの人口、豊かな天然資源をもとに今後大きく成長することが期待される国。

参考文献

- 秋元一峰「「アフリカの角」の地政学的重要性——海洋安全保障の視点から」『反グローバリズム再考—国際経済秩序を揺るがす危機要因の研究—』、2020年、209-214頁。
- 安室憲一「21世紀初頭の中国のアフリカ戦略」『国際ビジネス研究』、第9巻、第1-2号、2017年。
- 尹 曼琳「中国の「四位一体」型アフリカ進出-ギニア湾岸地域の事例を踏まえて-」金沢大学博士学位取得論文（経済学）、2014年。
- ウスビ・サコ「文化大革命期における中国援助とアフリカ外交の役割（中国文化大革命と国際社会：50年後の省察と展望：国際社会と中国文化大革命）」『アジア研究』、別冊4、2016年。
- 大林 稔「冷戦後のフランスの対アフリカ政策」『冷戦後の国際社会とアフリカ』アジアアフリカ研究所、1996年、65-99頁。
- 大林 稔「CFA フランの切り下げとフラン圏アフリカの展望」『アフリカレポート』、第19巻、1994年。
- 遠藤 貢「現代世界におけるアフリカ 主要国の関与の現状と課題」『国際問題』、No. 591、2010年。
- 片岡貞治「アフリカ紛争予防：フランスの視点（仏の対アフリカ政策から）」『現代アフリカの紛争問題及び紛争解決の模索』日本国際問題研究所、2002年。
- 片岡貞治「アフリカにおける民主主義の考察と NEPAD」『NEPAD 再検証』、日本国際問題研究所 2003年。
- 木原隆司「援助協調（International Aid Coordination）の理論と実際 —『援助協調モデル』とベトナム—」『開発金融研究所報』、第17号、2003年。
- 小林誉明「アフリカにおける新興国の開発協力 中国モデルは理想の協力か？」『S R I D ジャーナル』、第6号、2014年。
- 近藤正規「ガバナンスの概念 主要ドナーの定義と取組み」『開発途上国と財政のガバナンス』、2012年、29-50頁。
- 斉藤淳、田中世紀「開発援助と民主化支援」『国際開発研究』、第18巻、第2号2009年。
- 佐久間浩司「アンゴラの現状と展望 ～短期的な外貨資金繰りには懸念ないものの長期的安定性は疑問～」『Newsletter』第31号、2014年。
- 佐藤誠「民主化とガバナンスのジレンマ-ルワンダ愛国戦線政府の評価をめぐって-」『立命館国際研究』第26巻、第4号、2014年、569-592頁。
- 嶋田晴行「1990年代の構造調整をめぐる議論から見た世銀の援助 How did the Structural Adjustment Lendings Affect World Bank's Aid in 1990's ?」『国際協力研究』、33号、2001年。
- 徐偉忠「中国の対アフリカ援助と直面する新たな課題」、中国現代国際関係研究、2007年。
- 出町一恵「アフリカ資源国の食糧輸入とオランダ病再考」『国民経済雑誌』、211号、2015年、59-71頁。

中村宏毅「昨今のサヘル情勢及び国際社会の対応」『武蔵野大学政治経済研究所年報』、第7巻、2013年、17-44頁。

増島健「民主化と援助—政治的コンディショナリティーをめぐるフランスの事例からの教訓」『Peace studies.』24巻、1999年、43-53頁。

村上亨二「中国のアフリカ関与の源流：1960年代前半を中心とした中国のアフリカ関与」、愛知大学大学院中国研究科博士論文、2016年。

中尾武彦「我が国のODAと国際的な援助潮流～特に国際金融の視点から～」、『ファイナンス』、2005年。

「2017年の開発援助額は前年とほぼ同じだが、最貧国への援助額が増加」OECD、2018年4月10日。
<https://www.oecd.org/tokyo/newsroom/development-aid-stable-in-2017-with-more-sent-to-poorest-countries-japanese-version.htm>（最終閲覧日2022年1月7日）

「アフリカにおける中国—戦略的な概観」日本貿易振興機構アジア経済研究所、2009年。
https://www.ide.go.jp/Japanese/Data/Africa_file/Manualreport/cia01.html（最終閲覧日2022年1月7日）

「政府開発援助（ODA）国別データ集2019」外務省国際協力局、2019年。
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/100153307.pdf#page=212>（最終閲覧日2022年1月7日）

「中国のアフリカ戦略：中国はアフリカに発展をもたらすのか」日本国際研究所、2006年。
https://www2.jiia.or.jp/RESR/column_page.php?id=109（最終閲覧日2022年1月7日）

「中国の対外援助外交」日本国際研究所、2010年7月2日。
https://www2.jiia.or.jp/RESR/column_page.php?id=201（最終閲覧日2022年1月7日）

「フランスから見た中国」霞関會、2021年6月24日。
<https://www.kasumigasekikai.or.jp/%EF%BC%88%E4%B8%AD%E5%9B%BD%E7%89%B9%E9%9B%86%EF%BC%89%E3%83%95%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%81%8B%E3%82%89%E8%A6%8B%E3%81%9F%E4%B8%AD%E5%9B%BD/>（最終閲覧日2022年1月7日）

「援助効果向上に係るパリ宣言（パリ宣言）及び第3回援助効果向上に関するハイレベル・フォーラム（アクラ HLF）」外務省国際協力局、2008年9月11日。
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shimin/oda_ngo/taiwa/pdfs/seikyo_08_0102.pdf（最終閲覧日2022年1月9日）

「2012年版 政府開発援助（ODA）参考資料集」外務省、2012年。
https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/shiryo/hakusyo/12_hakusho_sh/pdfs/s3-2.pdf（最終閲覧日2022年1月9日）

「フランス援助機関動向調査」国際協力銀行開発金融研究所、2006年3月。
https://www.jica.go.jp/jica-ri/IFIC_and_JBICI-Studies/jica-ri/publication/archives/jbic/report/working/pdf/wp22_1.pdf（最終閲覧日2022年1月9日）

「平和を強化し、脆弱性と闘う」在日フランス大使館、2019年1月17日。
<https://jp.ambafrance.org/article13468>（最終閲覧日2022年1月9日）

「主要先進国における海外援助の制度と動向に関する調査」 ODA 研究会、2008 年 3 月。

https://www.sangiin.go.jp/japanese/aramashi/ayumi/pdf/oda_kenyukai.pdf （最終閲覧日 2022 年 1 月 9 日）

「プロジェクト研究 「天然資源国における経済・財政状況」 PFM ハンドブック(天然資源国の経済・財政政策分析)」国際協力機構、2016 年 3 月。

<https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/12262077.pdf> （最終閲覧日 2022 年 1 月 10 日）

「2020 年の各国 ODA 実績（暫定値の公表）」外務省、2021 年。

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_009041.html （最終閲覧日 2022 年 1 月 10 日）

ペットロスに伴う悲嘆による死生観と信仰心の変化
—悲嘆への新たなアプローチ—

今市百音

目次

はじめに

第一章 ペットロスに対する認識

第一節 ペットロスの定義

第二節 現在までの研究とキーワード

第二章 ペットロスによる悲嘆に対するケアの在り方

第一節 人間の生活における伴侶動物

第二節 ペットロスによる悲嘆のプロセスと信仰心の関連性

第三節 宗教的存在の否定と肯定から見るケアの可能性

第三章 ペットロスによる悲嘆と死生観変化に関するアンケート

第一節 アンケート概要

第二節 アンケート結果

おわりに

参考文献

はじめに

衰えることのない我が国のペットブーム。第三次ペットブームと呼ばれる現在、一人暮らしの増加や少子高齢化などの社会的変化に伴い、ペットを「家族の一員」とする考えが広まっている。また、愛でる対象物としてモノや所有物のように見なす概念を持つ愛玩動物という意味合いの「ペット」という言葉から、より密接な心理的結びつきを持ち、生活を共にする伴侶という意味合いの「コンパニオン・アニマル（伴侶動物）」という言葉が使われるようになってきた。このように、ペット（伴侶動物）は多くの人々にとって欠かせない存在となっている。そしてそれに伴い、多くの人々が伴侶動物たちとの死別とそれによる悲嘆を感じ始めた。伴侶動物の死、いわゆる「ペットロス」は特別な存在との死別であるにもかかわらず、両親や祖父母、兄弟との死別とは異なりその苦痛に対する社会的理解が得られにくいものである。しかし増田公男によると、身近な人との死別経験より伴侶動物との死別経験のほうが死への意識を強く感じさせるとされていることから、ペットロスによる死生観の変化と悲嘆の関連性に着目した¹。

本稿では、ペットロス後に変化した死生観の変化に焦点を当て、ペットロスによる悲嘆との関連性を持つ死生観の考え方を検討する。そしてペットロスによる悲嘆を感じている人々が、どのような死生観を新たに形成してくのかという点に着目し、新たな死生観の形成が、ペットロスによる悲嘆に及ぼす効果や、その悲嘆に伴う精神的・身体的不調に対するケアとして有効な死生観や信仰心の特徴を検討していく。なお、広辞苑によると死生観とは「死と生についての考え方。生き方・死に方についての考え方」とされており、死について考えを巡らせることは、生に対する考えに影響をあたえるものであるととらえられる。本論文の死生観は、生をペットロスによる悲嘆への克服ととらえることから、主に死や死後への考え方とする。

第一章 ペットロスに対する認識

本章ではペットロスの定義から現在までのペットロス研究について言及し、その悲嘆に関わるキーワードを検討していく。

第一節 ペットロスの定義

ペットロスという言葉は10年ほど前から知られるようになったが、いまだにその定義について十分な検討はなされていない。この言葉に喪失後の悲嘆反応まで含めることもあれば、日本医師会のように「ペットを失うこと」をペットロス、そして「そのダメージによる精神的・身体的不調」をペットロス症候群として区別することもある。先行研究においても研究内容や分野によって定義に違いがみられた²。しかしこのペットロス症候群

¹ 増田公男「女子大生における死の意識に関する調査」『金城学院大学論集（人文科学編）』7巻2号、2011年、98ページ。

² 坂口幸弘、米虫圭子、梅木太志「ペットロス経験者のためのリーフレットの作成」『Human Welfare : HW』10巻1号、2018年。

(pet loss syndrome) という表現は日本独自のものであり、諸外国においてはペットロスに伴う悲嘆や悲哀、あるいは死別反応と表現されているほか、「一症候群」という呼称によって、ペットの喪失に悲嘆を感じることで自体が異常なものであるという印象が与えられる恐れがあるということから、本稿ではペットロスを「飼育動物の喪失体験」と定義する³。

第二節 現在までの研究と新たな視点

悲嘆を伴うペットとの死別体験は長らく非公認の悲嘆とされ、調査研究のテーマとしては意識されてこなかった。しかし、死生観形成に関する研究においてペットとの死別経験が幼児の不可逆性理解を進めることや、身近な人との死別経験より伴侶動物との死別経験のほうが死への意識を強く感じさせるという結果がみられることから、ペットロスが死生観に与える影響の大きさがうかがえる⁴。そこで、死生観とペットロスをキーワードに先行研究を分析したところ、ペットロスの経験がある人はない人よりも死を意識するようになるという記述にとどまり、死生観の変化過程や、それに伴う意識の変化にまで触れたものは見つからなかった⁵。そこで死生観に深く関わる信仰心とペットロスをキーワードにしたところ、相反する二つの意見がみられた。一つは宗教的信仰心を持つ人々は悲嘆の乗り越えが容易であり、ペットロスから生じる様々なストレスに比較的強く、乗り越えられやすいという可能性に言及するものである⁶。一般的に死生観というのは宗教に大きく影響を受ける。宗教的信仰心を持たない人に比べ、彼らは各々の信仰する宗教が提示する死後の捉え方や考え方を持つことから、日ごろから死に対して考えを巡らせる回数が多い。それによって死に対する絶望や恐怖といったマイナスな感情をあまり持たないことから、このような見解が生まれたと考えられる。一方で高い信仰心を持つ人はペットロス時に悲嘆が身体症状として表れるとされるものがみられた⁷。ペットロスは典型的な「喪失体験」であり、多くの論文において用いられる、「Kubler-Ross の 5 段階モデル」という喪失による悲嘆を受容するまでのプロセスモデルが適用されることが多い。しかし、宗教的信仰心を持つ人々はこのプロセスを経るより先に、自らの信じる死生観のなかでその悲嘆を完結させようとすることで、心と体のギャップから身体症状が現れるのではないかと考えた。

これらのことから、死生観の中でも信仰心の変化がペットロスによる悲嘆に関連していくと考える。ここからは宗教的信仰心に関する死生観に焦点を当て、ペットロスによる悲

³ 木村祐哉「ペットロスに伴う悲嘆反応とその支援のあり方」『心身医学』49 号、2009 年、357-358 ページ。

⁴ 濱野佐代子「幼児の動物の死の概念と、ペットロス経験後の生命観の変化に関する研究— 幼児の死の概念とペットロス経験の関連—」『Human Developmental Research』22 巻、2008 年、35 ページ。

⁵ 坂口幸弘、米虫圭子、梅木太志、前掲論文。

⁶ 得丸定子、鈴木智子「ペット葬はペットロス症状を軽減するか」『日本教育家庭科学学会大会』第 50 回、2007 年。

⁷ 得丸定子、川島名美子「大学生におけるペットとペットロスに関する意識調査」『日本教育家庭科学学会大会』第 48 回、2005 年。

嘆にどのように向き合っていくのかということを検討し、その悲嘆による精神的・身体的不調に対する新たなケアの在り方が提示していく。

第二章 ペットロスによる悲嘆に対するケアの在り方

本章ではペットロスによる悲嘆内容に着目し、その受容プロセスや実際の症状について言及する。

第一節 人間の生活における伴侶動物

我が国において少子化が進む中、伴侶動物の飼育数は15歳未満の子供の総数を上まわっている。アニコム「家庭動物白書2020」内の最新データ（2019年）によると、15歳未満の子供の総数1532万人に対し、犬・猫の総数は1856万頭（犬：878万頭、猫：978万頭）に上る⁸。また内田佳子が「ペットがコンパニオン・アニマルと呼ばれる時代が到来し、人間と飼育動物とのきずなが強く結ばれるようになった現在、ペットの家族にける位置を飼い主に尋ねるならば『パートナー』『子ども』『家族の一員』という答えがほとんどだろう」と述べていることから、伴侶動物が人間の生活において大きな存在となっていることが分かる⁹。

しかし、このような飼い主の気持ちと社会的認識が一致していないというのが問題になっている。例えば災害時に避難所や避難のための救助においてペット同伴禁止と言われることは少なくない。実際に2019年10月に発生した台風19号の際は避難所の判断で受け入れを拒否された事例も報告されている。さらに、避難所運営マニュアルで「ペット飼育のルール」を定めていた自治体の避難所においても受け入れを拒否されたという苦情が報告された一方で、動物が苦手な人からの相談や苦情が41件も報告されたという¹⁰。命の危険が迫り避難を余儀なくされたとき、それは人間にとってだけでなく、動物にとっても同じ状況である。そのような状況のなか、家族同然の伴侶動物をいて逃げることはできず、自宅に留まる人が相次いだ。そのなかには鳴き声やにおいを理由に避難所への受け入れを拒否された人のほか、周囲に遠慮して自ら車中泊や壊れた自宅での「軒先避難」を選択したケースも多く報告されている¹¹。こうした実情から、伴侶動物に対する社会的認識が、まだ「たかが動物」という意識に留まっていることがわかる。そしてペットロスにおいてはこの「たかが動物の死」という意思が他人だけでなく自分自身も戸惑わせてしまうとされており、ペットロスによる悲嘆をより深刻化させている要因の一つであると考え

⁸ 家庭動物白書2020、アニコム book_202012.pdf (anicom-page.com)（最終閲覧日：2021年11月29日）。

⁹ 内田佳子「動物の飼育と「ペット・ロス（喪失）症候群」」岩本隆茂・福井至共編『アニマル・セラピーの理論と実際』培風館、2001年、200ページ。

¹⁰ ペットと一緒に非難したい 避難所運営の整備が課題、朝日新聞、2021年3月25日、朝日新聞デジタル、<https://www.asahi.com/articles/ASP3S7G82P3SUTNB00H.html>（最終閲覧日：2021年11月29日）。

¹¹ 同上。

¹²。また、周囲の理解を得られないという状況は、何か大きな存在にすがりたいという思いを生じさせ、宗教的信仰心が生まれるきっかけになることもあると考えられる。

第二節 ペットロスによる悲嘆のプロセス

先にも述べた通り、ペットロスは典型的な「喪失体験」であり、多くの場合は親しい人物を失った場合と同じプロセスを経ると言われている。いくつかのモデルプロセスが存在するなか、Kubler-Ross が提唱する「五段階モデル」について言及する論文が多くみられた。このモデルプロセスは「否認・怒り・取引・抑うつ・受容」の5段階から成り立つことから、信仰心との関係性や悲嘆へのアプローチ法に関連する点がみられるのではないかと考え、本稿でもこの段階モデルを検討することとする。このモデルは、重要な他者を失った人々が、どのような時間経過のなかでどのような心理的变化を辿り、どのような行動を取りながら、最終的に喪失を受容するのかに焦点を当てたモデルであるとされている

¹³。また、これは200人の死にゆく患者との対話の中で発見されたものであるが、人が避けることのできない死を受容していく悲しみのプロセスをモデル化したものであり、残された側も同様のプロセスを辿ると考えられている。

この五段階モデルの第一段階は「否認」である。死に直面した衝撃から、その事実を受け入れられず否認している段階である。この段階では、感情的にその事実を否認し疑うため、事実に基づいて考えを進める周囲との距離を置くという傾向がみられ、孤立が伴うとされている。

第二段階は「怒り」である。第一段階の否認を乗り越え事実を認識するとともに、「どうして私なのか」「もっと悪い人間がいるじゃないか」という怒りの感情にとらわれる段階である。誰かを責めたり特に医師や看護師に当たったりするなどの死への反発がみられる。

第三段階は「取引」である。死への恐怖から逃れようとする気持ちから生まれるものであり、何かにすがりたい気持ちや奇跡が起こり死をなかったことにできないかという考えから、宗教的信仰心を持たずとも、神や仏にすがったり善行をしたりするようになる。

第四段階は「抑うつ」である。取引の無駄を認識し、死の回避ができないことを悟る段階である。感情的にも死を理解できるようになり、悲観と絶望、喪失感にさいなまれ憂鬱な気分になる。

最終段階である第五段階は「受容」である。死を拒絶し回避しようとしていた段階から現実として受け入れるようになっていく段階である。

ペットロスを経験した飼い主もこのプロセスを経て、ペットの死を受け入れ、乗り越えていくとされているが、このプロセスを一段階ずつ見ていくと、それぞれに宗教的信仰心と

¹² 木村祐哉、前掲論文、359 ページ。

¹³ 佐藤亜樹「ソーシャルワーカーの新しい機能：ペット・ロスが飼い主に与える影響とソーシャルワーク・サービスの可能性—先行業績レビューを通しての考察—」『松山大学論集』第29巻2号、2017年、16 ページ。

の関りがみられることが分かった。第一段階では否認から周囲とのギャップが生まれ孤立するとされているが、これは第二章の第一節でも述べたように、何かにすがりたいという思いを生じさせる可能性があると考ええる。また周囲の理解が得られないだけでなく、自分のなかでも理解ができない状態であるとき、人は何か明確な指針を示してくれるものを求めることが、心身の安定に繋がることもある。怒りの第二段階では、「もっと悪い人がいる」などの、自分の行いの正当化や他人の悪行の枚挙がみられることから、無意識に絶対的存在による恩恵を求めていると言える。この段階では怒りを周囲にぶつけるだけではなく、善は天、悪は罰といった宗教的な捉え方をもつことが心の支えになる可能性があると考えられる。これに繋がる第三段階の取引は、宗教的な存在があってこそ生まれる段階である。死にゆく過程における取引は、たいていの場合「神 (God)」との取引であるとされ、神に対し「自分のこれからの人生を捧げる生き方をしますから、もう少し命を延ばしてください」というような、罪の意識と深く関わった段階であると言えるだろう¹⁴。しかしプロセスが進み第四段階になるにつれて、その取引の無意味さや喪失感を実感する。この段階は宗教的存在の否定という今までの段階とは異なる性質を持つ段階ではないかと考える。そして最終段階の受容では死という現実と向き合うことになる。このように全ての段階において宗教的な考えとの関わりがみられるが、この分析から、今後ペットロスの経験に伴う死生観の変化について考察を進めるにあたって、特にその価値観が揺れ動く第三段階から第四段階にかけての変化に着目していくことで、新たな悲嘆へのアプローチ法を模索していく。

第三節 宗教的存在の否定と肯定から見るケアの可能性

前述の段階モデル第三段階と第四段階を通して宗教的信仰心が大きく揺れ動くという点はペットロスによる悲嘆のケアにおいて注目していくべき点であると考ええる。第三段階で生じる信仰心は、死への恐怖から逃れようとする気持ちから生まれるものであり、何かにすがりたい気持ちや奇跡が起こり死をなかったことにできないかという考えが生まれることから、宗教的信仰心を持たずとも、神や仏にすがったり善行をしたりするようになる。しかしこれらは、死をなかったことにしたいなどの不可逆性を無視した信仰心であること、宗教になじみのない日本人が明確な宗教的信仰心を持たずに絶対的存在にすがることが多いことから、ふと我に返り、信仰を遠ざけたい気持ちが生じる可能性がある。さらにその場合、第四段階の抑うつ段階で感情的にも死を理解できるようになった際、悲観と絶望、喪失感にさいなまれるだけでなく、必要以上の落胆や憂鬱を感じてしまうことが考えられる。つまり第三段階における信仰心は最終的な受容にたどり着くまでの過程において悲嘆をより強めることもあると言える。そしてその反動から、神や仏の強い否定に繋が

¹⁴ 藤井美和「ホスピスケア：その理論的枠組み」『関西学院大学社会学部紀要』1998年、5ページ。

ることもあると考えられ、本来心の支えとなるはずの信仰心に反発的な考えを持つことになりかねない。

一方で、第三段階とは異なり第四段階の抑うつにおいて、絶望や喪失感にさいなまれることからの脱却を目的に生じる信仰心は、着目できる点であると考えた。明確ではない非現実的な信仰心を否定し、それによって生じたさらなる悲観などを明確な信仰心によって補うことができれば、悲嘆への良いアプローチとなると考える。そこで、一度生まれたかりそめともいえる信仰心が、その後の悲嘆の受け入れにおいて大きな役割を果たすと仮定しアンケートを実施することとした。

第三章 ペットロスによる悲嘆と死生観変化に関するアンケート

本章では、これまで述べてきたペットロスと信仰心・死生観の変化について、実際にペットロスの経験がある人にたいしアンケート調査を行い、それを分析していく。

第一節 アンケート概要

本稿では、ペット（伴侶動物）の飼育経験かつ喪失経験のある人を対象にアンケート調査を実施した。喪失経験だけでなく、飼育経験も含んだ理由としては、増田公男の「身近な人との死別経験より伴侶動物との死別経験のほうが死への意識を強く感じさせる」という考えにおいて、自分が彼らの生活や生死にどれほどの関りと責任を持っていたかという点に注目する必要があると考えたためである¹⁵。（アンケート項目の詳細については注¹⁶参照のこと）

第二節 アンケート結果

アンケートでは25名から回答を得た。回答者の年代は20代16名、50代6名、60代3名という分布であり、多少の偏りがみられるが、青年期を終えて死生観が固まってくる20

¹⁵ 増田公男「女子大生における死の意識に関する調査」『金城学院大学論集（人文科学編）』7巻2号、2011年、98ページ。

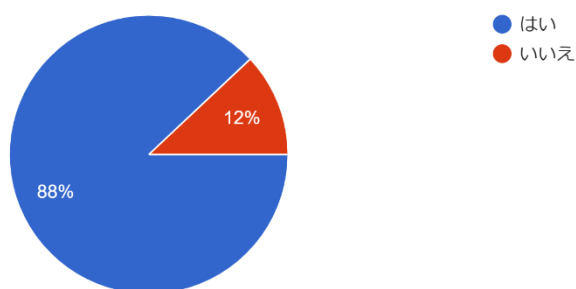
¹⁶ アンケート項目は以下の通りである。

- 1) 回答者の年齢・性別
- 2) ペット（伴侶動物）の種類
- 3) ペットロス経験時の回答者の年齢
- 4) 信仰する宗教の有無
- 5) ペットロスによる精神的苦痛の有無
- 6) ペットロスによる肉体的苦痛の有無
- 7) その苦痛を乗り越えたと感じたきっかけ・タイミング
- 8) 苦痛に関係なくペットロスを乗り越えたと感じたきっかけ・タイミング
- 9) ペット（伴侶動物）の生前、その死を免れようと宗教的な存在にすがろうとしたことがある
- 10) ペット（伴侶動物）の死後、宗教的な存在の無力さに絶望・怒りを覚えたことがある
- 11) ペットロス経験後、死生観（特に死後）に変化があった
- 12) 死後に対する意識を変えることが、ペットロスによる悲嘆の緩和に影響を与えると思うか
- 13) ペットロスを乗り越えるために必要だと考えるもの
- 14) ペットロスに伴う悲嘆に対して周囲（友人や同僚、会社）の理解を得られたと感じる

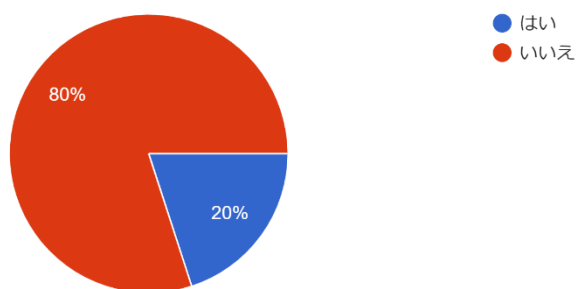
代と、死が身近なものになり始め、第2の人生への考えをめぐらせ始める5, 60代という点で、不足はないと考える。ペット（伴侶動物）の種類に関しては、犬が15、猫6、うさぎ4、ハムスター1、インコ1（複数回答あり）という結果になった。また、今回のアンケート4項目目の「信仰する宗教の有無」において、信仰する宗教を持つと答えた人は0人であった。これらの結果を前提に、今後の分析を行っていく。

ペットロスによる精神的苦痛の有無と身体的苦痛の有無に関しては、以下の結果が得られた。

ペット(伴侶動物)との死別によって精神的苦痛があった
25件の回答



ペット(伴侶動物)との死別によって身体的苦痛があった
25件の回答



身体的苦痛があったと答えた人は5人で、いずれも精神的苦痛を伴ったという回答であった。今回、信仰する宗教を持つ人がいないことから、得丸らの主張した宗教的信仰心を持つ人々は悲嘆の乗り越えが容易であり、ペットロスから生じる様々なストレスに比較的強く、乗り越えられやすいという可能性には言及することはできない。また、高い信仰心を持つ人はペットロス時に悲嘆が身体症状として表れるとされたものに関しても、同じ理由からその可能性に言及することはできない。一方では、身体的苦痛があったと答えた5名の「ペットロス後」の死生観の変化に着目をしてみたものの、その変化において宗教的な存在に言及した人は1名にとどまった。これはもとより持つ信仰心とは関係のないものの、信仰心の反動として身体的苦痛が表れるといった関係性は薄いと言える結果ではな

いかと考える。宗教になじみのない日本人へのアンケートであることから、これらの可能性に関して検証することはできなかったが、つまり日本人のペットロス悲嘆に関して、もとより持つ信仰心をそのケアへのアプローチ法として提案することは難しいと再確認できた。

次にその苦痛を乗り越えたと感じたきっかけ・タイミングに関しては、「時間の経過」が45%、「新しいペット（伴侶動物）を飼うこと」が23%、「火葬やお墓の建設」「いまだ乗り越えられていない」がそれぞれ9%、そのほかは、「同じような経験がある人に話を聞いてもらった」「もう動物は飼わないと決心したとき」「声が聞こえないことを受け入れていると感じた時」「他にいる犬たち（多頭飼いの為）」といった回答がみられた（複数回答あり）。時間の経過が圧倒的多数を占めたなか、着目したいのは「火葬やお墓の建設」である。得丸定子らが2010年に発表した論文では、ペット葬に関するイメージアンケートにおいて、「葬儀をすることによって気持ちの整理ができる」という回答が多くみられたにも関わらず、ペットをなくした悲しみからの立ち直りのきっかけに関するアンケートでは、火葬やお墓の建設といった回答は一切見られていなかった¹⁷。しかし、今回のこのアンケート結果から、少しではあるが、その認知度と効果が上がってきているということが言えると考ええる。日本では、人間であれば当たり前のように行われる葬儀や火葬、お墓の建設であり、喪に伏し故人を見送るというこの一連の行為を通して、気持ちを整理していくという役割を持つ部分でもある。ペット（伴侶動物）がただの動物という立場ではなく、家族の一員としてとらえられるようになってきたことで、これらの行為がペット（伴侶動物）の死においても同じ役割を果たすということが今回のアンケートから見えてきた点と言える。そして注目すべき点はもう一つある。それは、今回のアンケートで「火葬やお墓の建設」を苦痛の乗り越えのきっかけ・タイミングとして挙げた人はいずれもペットロス後に「死後の世界」の存在に言及していたという点である。一人は、ペットロス後の死生観の変化を認め、その具体的な変化内容として「死後に落ち着いた空間があればいいなと思った」と述べている。もう一人は、死生観の変化はなかったものの、ペットロスを乗り越えるために必要だと考えるものとして、「ごめんなさい、ありがとう、愛してます 繰り返ししっかりお別れをし、そのペットが天国で楽しく幸せにしていけることを心から本気でお祈りする」というものであった。前者は死後の世界が存在する可能性に希望を見出している点から、信仰心はなくとも、宗教的な存在にすがりたいという思いがみられる。後者に関しては、死後の世界を確信し、その世界でのペットの幸せを祈るという行為に言及している点から、無意識的な信仰心を持ち、心のよりどころとしていとみられる。これらの結果から、火葬やお墓の建設を行い、死と向き合うための行為を実際に行ったことで、ペット（伴侶動物）の死後の自分たちに関する克服方法や考え方ではなく、彼らが死後どのようにあってほしいかといったペット（伴侶動物）の立場に焦

¹⁷ 得丸定子、佐藤英恵、郷堀ヨゼフ「人生観によるペットロス、ペット葬の関係について」『上越教育大学研究紀要』第29巻、2010年、264-265ページ。

点を当てた視点になるということが言えるのではないかと考える。これは時間経過によってその苦しみを忘れるのを待つという行為よりも、一つの行為を用いて新たな視点からペット（伴侶動物）を大切に考えることができるという点で、ケアのひとつとして有効であると考えられる。

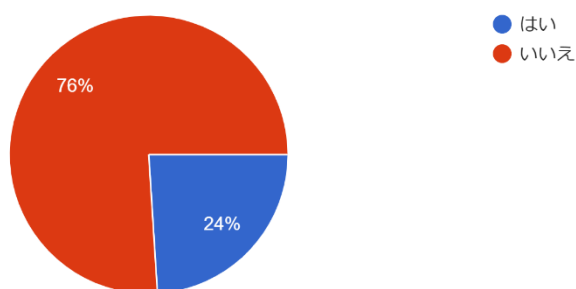
一方で、苦痛とは関係なくペットロスを乗り越えたと感じたきっかけ・タイミングをたずねた質問では、宗教的に関わるような回答は見られなかった。以下に、自由記述の詳細について紹介する。「家族で思い出の共有をすること」「時間」「他の生きがいを見つけたとき」「声が聞こえないことを受け入れていると感じた時」「新しい子をお迎えした時」「他の動物を見たりする」「ケージや餌や使える道具など、ウサギを買っている人やこれから小動物を買いたいという人に全て譲ったり処分したりした」などである。そのなかでも、宗教的ではないものの死生観と少なからず関係があるとみられる回答に、「生き物はいずれ死ぬ物なので素直に受け止めることが出来た」「そのペットとはながくすごしてペットが歳をとっていたため、十分役割を果たしてくれたと感じた」といったものがあった。これらの場合は、事故や病などの急死ではなく、生を全うしたと感じることが出来た時に生じることが多いが、日ごろから、生と死を意識することや、死というものが特別なイベントではないという意識が、喪失感の緩和や、死の受容に影響を与えるといえるだろう。

ここからは、前章で仮定した、第三段階から第四段階にかけての宗教的信仰心の変化について分析していく。「ペット（伴侶動物）の生前、その死を免れようと宗教的な存在にすがろうとしたことがある」という質問に対しては、「ない」が14名、「ある」が5名、無回答が6名であった。あると答えた人の内容としては、「お祈り」「神頼み」「先祖に頼む」といった回答がみられた。これらは、第三段階の取引で見られるといわれていた神との取引の段階であると言えるが、「先祖」というワードは「ご先祖様」と先祖を供養するお彼岸などの独自の文化を持つ日本ならではの存在であると感じた。日常から強く意識をするわけではないこれらの存在にすがる一時的な宗教的思考であるが、この次に続く「ペット（伴侶動物）の死後、宗教的な存在の無力さに絶望・怒りを覚えたことがある」という質問では、「はい」と答えたのは1名のみであった。つまり、第三段階で生じたりその信仰心がペット（伴侶動物）の死によって打ち砕かれたという事実はあろうとも、それがその後の段階においてよりマイナスな要素として働く可能性は小さいということが分かった。しかし、ここで「はい」と答えた1名は、その後の「ペットロスを乗り越えるために必要だと考えるもの」という質問に対して「死や死後について色々な面（天国など）から深く考える時間を持つこと」という回答をしていた。このことから、この回答者は仮説のように、かりそめの信仰心から、それによる落胆と否定を通して、最終的な受容に必要な要素として、宗教的な考え方や死生観への意識といったものを挙げたと言える。一方で、取引の経験はあるものの、その後落胆と否定の道を通らなかった4名の回答者は「ペットロスを乗り越えるために必要だと考えるもの」という質問に対して宗教的な要素はおろか、死生観に関する意見もみられなかった。

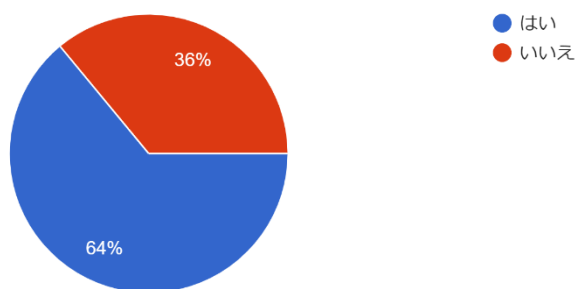
これらのことから言えることは、宗教的な考え方がペットロスのケアに役立つためには、第三段階の取引の存在が重要なのではなく、取引を経験した後に、それによって第四段階の抑うつが増進されることが重要であるということである。その反動があつてこそ、その後の考えに影響を与えることができるということであるが、これは個人によって差がでるものであるため、ケアのひとつとして提供していくということとはできないが、一つのケアの道として認識していくことはできると考える。

次にペットロス後の死生観に関する質問ではそれぞれ以下の結果が得られた。

ペットロス経験後、死生観(特に死後に対して)に変化があった
25 件の回答



死後に対する意識を変えることが、ペットロスによる悲嘆の緩和に影響を与えると思う
25 件の回答



この結果を見ると「ペットロス経験後、死生観（特に死後）に変化があった」という質問に対して「はい」と答えた人が24%にとどまるのに対し、「死後に対する意識を変えることが、ペットロスによる悲嘆の緩和に影響を与えると思う」という質問には64%の割合で「はい」と答えられている。

まずは、前者において、どのような変化があったのか以下紹介していく。「生まれ変わりを信じるのではなく、天国のような死後の世界を信じるようになった」「死後に落ち着いた空間があればいいと思った」「当然ではあるが、生き物はみんないつか死ぬということを改めて実感した」「またいつか会える」「もっと今を大事にしようと思った これからもし会う子との時間はもっと大切に 他の動物にも優しくなった」「初めて大切な者の死に直面し

て、死んでしまったら本当に絶対にもう会えなくなるんだということを実感した。生きていううちに伝えたいことはきちんと伝えようと思えた」などである。この回答から明らかになるのは、死後に目を向ける人と、死後を通して生に目を向ける人に分かれたということである。また、死後に目を向けた人のなかで「死後の世界が存在してほしい」と願う回答が複数見られた一方で、生まれ変わりや輪廻転生について言及した人はいなかった。「またいつか会える」という回答が、死後の世界なのか、輪廻転生の話なのかというところまでは回答されておらず詳細は不明であるものの、死後の世界というイメージの持ちやすい存在がより好まれる傾向にあるということが分かった。

次に「死後に対する意識を変えることが、ペットロスによる悲嘆の緩和に影響を与えると思う」という質問に対しては「はい」と答えた人が多数いたにも関わらず、「ペットロスを乗り越えるのに必要だと考えるもの」という次の質問で死生観に関しての回答割合はわずか14%であった。すでに述べたものもあるが改めて紹介すると「死や死後について色々な面（天国など）から深く考える時間を持つこと」「ごめんなさい、ありがとう、愛してます 繰り返ししっかりお別れをし、そのペットが天国で楽しく幸せにしていけることを心から本気でお祈りする」「又いつの日にか再びあえる日が来ると思う気持ち」といった回答であった。そしてその他の回答を以下紹介する。「時間」45%「家族」「思い出」「新しいペット」「近くで支えてくれる存在・悲しみに共感できる友人」がそれぞれ9%「客観的思考」「精神力」「切り替え力」「同じくらいの興味・愛情を捧げる対象を見つけること（代わりのペットだけでなく趣味や仕事など）」「他の動物との触れ合い」がそれぞれ5%という結果であった（複数回答あり）。死後に対する意識を変えることが、ペットロスによる悲嘆の緩和に影響を与えると思いながらも、実際にペットロスを乗り越えるために必要なものとして死生観に関連する回答がみられなかったのにはやはり日本人の宗教的意識の低さが挙げられると考える。今までのペットロスによる悲嘆の緩和に関する質問の回答で常に一番大きな割合を占めていた「時間」という概念は、自分たちの意思や行動とは関係なく流れ、過ぎていくものである。自らの意思や価値観を変えていくという面はなく、自然とその悲嘆が日常の一部となって小さく感じるようになるのを待つという面は、受け身な日本人により合っているとも言える。また、死生観の変化が悲嘆の緩和に影響を与える可能性には賛同するものの、実際にどのような考えがあるのかといったことや、自分が経験した変化などが明確にないというのも要因の一つであると考え。このことから、今回のアンケート結果のような具体的な死生観の変化の例や、その変化が持つ可能性を示していくことで、死生観の変化が悲嘆の緩和に影響を与える可能性に賛同する だけだった人たちが、実際にその変化をイメージし、役立てていくことにつながっていくことができると考える。

おわりに

本稿では、ペットロスによる悲嘆をペットロス経験後に変化する死生観の宗教的信仰心と結び付けて分析し、アンケートを通してその悲嘆への新たなアプローチを考察した。ペットロス前から持つ信仰心には長所と短所の二面性がみられていたが、大切な存在を失った人々がそれを受容するために変化していく5段階モデルの過程の分析から、ペットロス後に獲得する信仰心では、信仰心の獲得時期や多様性という点が新たな悲嘆へのアプローチ法として浮かび上がった。しかし、アンケート結果から、重要なのは信仰心の獲得時期ではなく、取引の段階で生じるかりそめの信仰心を一度大きく否定するということがその後の悲嘆へのアプローチに効果を発揮するということが分かった。また、その多様性に関しては、具体的に生まれ変わりのような輪廻転生を望んだ人はおらず、死後の世界に希望を見出す人が複数みられた。これは、悲嘆の緩和に関して、死後の世界が求められる傾向にある可能性があると言える。これは、死後の世界を説く宗教の信仰が悲嘆の緩和に影響を与える可能性を持つということとも言えるであろう。

一方で、死後に対する意識を変えることが、ペットロスによる悲嘆の緩和に影響を与えることに賛同する回答が半数以上に上ったのにも関わらず、実際にペットロスを乗り越えるために必要なものとして死生観に関連するものを挙げた回答が13%にとどまったことに対して、ペット葬の提案が有効であると考ええる。10年前までは、ペット（伴侶動物）の火葬やお墓建設が、「ペットロスによる悲嘆の緩和に役立つイメージ」としてとどまっていたが、今回のアンケートでは実際に、火葬やお墓の建設を「悲嘆の乗り越えのきっかけ・タイミング」として挙げた回答者が存在した。そして、かれらはその後「死後の世界」の存在意義に言及し、彼らが死後どのようにあってほしいかといったペット（伴侶動物）の立場に焦点を当てた視点になるということが分かった。つまり、火葬やお墓の建設という行為を実際に行うということが、一つの区切りを用いて新たな視点からペット（伴侶動物）を大切に考えることができるようになるきっかけになっていると言える。これは死生観に対する具体的なイメージがつかみにくい日本人であっても、火葬やお墓という、人間であればほぼ行われる身近な行為を通して、明確な死後への意識を確立させていくことを助けると考えた。これは宗教に疎く、しかし火葬やお墓といった身近な宗教面をもつ日本人にこそ合っているアプローチ法であると言える。また、ペットを「家族の一員」とする考えが広まっている現在においてこそ、人間と同じように供養するという考えが当たり前になるにつれて、より確かなアプローチ法になっていくと考える。

最後に、アンケートを通して様々な意見に触れるなかで、唯一「愛犬のことをずっと感じていたいのでも乗り越える必要はないかと考えています」という回答があった。この回答を含め、ペットロスによる悲嘆の受容とは正解のない受容であり、それぞれが納得のできる考えを持つことが重要だと言える。と改めて実感することのできる研究であった。今回、本稿で用いた段階モデルにおいて、最終段階として「受容」が用いられているが、必ずしも受容がゴールではなく、それまでの過程を宗教的視点があろうとなかろうと、自分の考えを軸に自身が変化・対応していくその過程を受容と捉えることができると考えた。だから

こそ、その悲嘆を緩和させ、その受容に役立つケアを提案し続けていくことが大切である
と考える。

今までのペットロスによる悲嘆の緩和に関する質問の回答で常に一番大きな割合を占めて
いた「時間」という回答をした回答者たちの半数以上が、死生観の変化がもたらす悲嘆緩
和の効果に肯定的であることからとも言えるように、その可能性はまだまだ掘り下げていく
ことができる部分でもある。今回のアンケートからみえた、変化する信仰心のタイミング
と変動や、火葬などの行動を通した死生観の獲得が持つ可能性は、ペットロスによる悲嘆
緩和への新たなアプローチとして利用することができる小さなきっかけになると言えるだ
ろう。

参考文献

- 内田佳子「動物の飼育と「ペット・ロス（喪失）症候群」」岩本隆茂・福井至共編『ア
ニマル・セラピーの理論と実際』培風館、2001年。
- 木村祐哉「ペットロスに伴う悲嘆反応とその支援のあり方」『心身医学』49号、2009
年。
- 木村祐哉、金井一享、伊藤直之、近澤征史朗、堀泰智、星史雄、川畑秀伸、前沢政次「ペ
ットロスに伴う死別反応から医師の介入を要する精神疾患を生じる飼主の割合」『獣
医疫学雑誌』20巻1号、2016年。
- 後藤有紀「大学生における死生観形成」『北星学園大学大学院論集』7号、2016年。
- 坂口幸弘、米虫圭子、梅木太志「ペットロス経験者のためのリーフレットの作成」
『Human Welfare : HW』10巻1号、2018年。
- 佐藤亜樹「ソーシャルワーカーの新しい機能：ペット・ロスが飼い主に与える影響とソー
シャルワーク・サービスの可能性—先行業績レビューを通しての考察—」『松山大学
論集』第29巻2号、2017年。
- ペットと一緒に非難したい 避難所運営の整備が課題、朝日新聞、2021年3月25日、朝
日新聞デジタル、<https://www.asahi.com/articles/ASP3S7G82P3SUTNB00H.html>（最
終閲覧日：2021年11月29日）
- 得丸定子、川島名美子「大学生におけるペットとペットロスに関する意識調査」『日本
教育家庭科学会大会』第48回、2005年。
- 得丸定子、鈴木智子「ペット葬はペットロス症状を軽減するか」『日本教育家庭科学会大
会』第50回、2007年。
- 得丸定子、佐藤英恵、郷堀ヨゼフ「人生観によるペットロス、ペット葬儀の関係につい
て」『上越教育大学研究紀要』29巻、2010年。
- 豊田幸子「家族の死による立ち直りと死生観の変化」『大阪大学臨床老年行動学年報』1
号、1996年。

二階堂千絵、安藤孝敏、梶原葉月「日本におけるペットロス研究の動向と展望」『横浜国立大学教育学部紀要』Ⅲ、2019 年。

濱野佐代子「幼児の動物の死の概念と、ペットロス経験後の生命観の変化に関する研究— 幼 児の死の概念とペットロス経験の関連—」『Human Developmental Research』22 卷、2008 年。

藤井美和「ホスピスケア：その理論的枠組み」関西学院大学社会学部紀要、1998 年。

増田公男「女子大生における死の意識に関する調査」『金城学院大学論集（人文科学編）』7 卷 2 号、2011 年。

増田公男「女子大生における死の不安および人格的発達に及ぼす死別経験の効果—東日本大震災の経験を通して—」『金城学院大学論集（人文科学編）』12 卷 1 号、2015 年。

目次

はじめに

第一章 問題の所在と分析方法

第二章 分析対象

第一節 「アメトーーク」

第二節 ジェンダーバイアス漫才

第三章 バラエティ番組における女性芸人の笑いのおこし方

第一節 バラエティ番組における男女比率

第二節 「伝統の笑い」と「新たな笑い」

第三節 お笑い界におけるジェンダー的価値観

第四章 ジェンダーバイアス漫才の受容

おわりに

はじめに

お笑い界では、女性芸人の数が少なく「笑い」を作る人が殆ど男性であることから、男性優位の構造が受け継がれてきた。しかし、近年になってコントの日本一を決める大会「キングオブコント」で女性芸人のイワクラがネタを書いているコンビ「蛙亭」が決勝に出場するなど、女性芸人に対する評価が、男性と同等の基準へと変化してきている。さらに、お笑い界におけるジェンダーバイアスへの不満を唱える漫才を行う男女ユニット「ヒコロヒーとみなみかわ」が、漫才日本一を決める大会「M-1グランプリ」に出場したことをきっかけに、ジェンダーバイアス漫才が面白いと評価されバラエティ番組に出演するようになった。

本稿では、男性優位の構造が引き継がれるお笑い界において、お笑い界を批判するとともにこの漫才が受容され、ブレイクした背景を、バラエティ番組での女性芸人の「笑い」の取り方と、立場の変化を分析することで解き明かす。分析にあたって、バラエティ番組をスクリプト化することで、近年における笑いが起きる状況と女性芸人が笑いを起こす方法を検証していく。そこから「笑い」によってズラされている常識と社会や人々のジェンダー関係の認識の変化を可視化させていく。

第一章 問題の所在と方法

これまで、女性芸人は男性芸人とは異なる存在として扱われてきた。女性芸人であるヒコロヒー¹は、自身のコラムで次のように述べている。

ネタ見せでは「ピンの女芸人で設定コントなんかしてても誰も見ないよ」「女ピン芸人ならウザい女あるあるとかモノマネとかやらなくちゃ」「女芸人で大喜利が面白くても可愛げがないから」と言われ「女芸人はMCを頑張らなくても良い」「女芸人はとにかく食レポを頑張れ」と、それはもう勝手な事を言われ続けてきた²。

このようにお笑い界では、女性芸人は男性芸人とは別の女性芸人としての型にはまることを求め続けられているといえるだろう。こういった現象について、女性芸人に関する研究を行っている澁谷知美によると、男性芸人は強く性別を意識されないのに比べ、女性芸人は「社会的に芸人であると同時に女性」、「芸人である前に女性」であることが強調される傾向があるという³。「笑い」の取り方においても、女性であることをネタにした笑いを生み出せば、「女性カテゴリー」に引き入れられ、女性である事をネタにせず笑いを起こせば、「男性カテゴリー」に引き入れられてしまっていると指摘している⁴。このように女性芸人は男性芸人とは違ったものとして切り離されてしまっている。

バラエティ番組においても、女性芸人は女性芸人であることを強調する笑いを求められる場合が多く、ステレオタイプの表象が行われることがしばしばある。テレビバラエティ番組に関する研究を行っている国広陽子によると、一度形成されるとそれが認知的枠組みとして個人に関する認知を歪めるステレオタイプングの手法がテレビ番組において多用されているのは、ス

¹ 女性ピン芸人。松竹芸能所属。2019年から毎年、ユニット「ヒコロヒーとみなみかわ」でM-1グランプリに出場。

² ヒコロヒー「『女性芸人』と呼ばれ10年。ジェンダーバイアスについて考えないほうが嘘」朝日新聞社、<https://mirror.asahi.com/article/13576805>（最終閲覧日2021年10月27日）

³ 澁谷知美「お笑いー『男の世界』で女性はどうに語られているか」小川伸彦、山泰幸編著『現代文化の社会学入門-テーマと出会う、問いを深める』、ミネルヴァ書房、2007年、29頁。

⁴ 同上。

テレオタイプの表現を行うことで視聴者への説明を省略することが可能となるからだという⁵。つまり、ステレオタイプが人々の共通の認識となっているがゆえに、テレビ番組において母親役がパーマをかけており、おたまを持っている等のステレオタイプの描写を行うことが可能となっているといえるだろう。このように、番組内で起きる笑いは人々にとってのステレオタイプの認識が投影されていることがしばしばある。そのため、笑いは人々のそういった固定観念を基に成り立っている。

しかし、これまでの笑いにおける研究では、女性芸人に関する研究は少なく平成初期の女性芸人を対象とする研究が主である。また、その中でも女性芸人のバラエティ番組における笑いの取り方に絞った研究は行われていない。そこで本稿では、近年のバラエティ番組における女性芸人の笑いの取り方と受容を分析する。バラエティ番組を分析するにあたって、番組での出演者の発言や笑いをスクリプト化した。このスクリプトを基に、現在の笑いの起きる状況と女性芸人の笑いのとり方を考察していく。スクリプトとして、発言者、発言内容、テロップ、笑いの起きた場所を記録した。スクリプトとしては、発言者、発言内容、テロップ、笑いの起きた場所を記録した。特に「笑い」を起こす上で欠かせないものとなりつつあり、字体に装飾がなされたり一部が強調されることでボケとして発言されていないものもボケにする役割をもつと指摘されているテロップに関しては、内容だけでなく文字の色や装飾、大きさも記録した⁶。また、番組のホームページのバックナンバーから過去の回に出演した女性芸人、女性ゲスト、全体の人数を記録した。ここから、番組において女性芸人はどのように起用されてきたのかを考察する。

第二章 分析の対象

本稿では分析対象としてテレビ朝日系で2003年から現在まで放送されているテレビバラエティ番組『アメトーーク』の、2020年9月10日に放送された女性芸人をテーマにした『若手女芸人』回と「ヒコロヒーとみなみかわ」のジェンダーバイアス漫才を取り上げる。本章では二つの分析対象の概要を述べる。

第一節 「アメトーーク」

アメトーークは、回ごとに設定されているテーマに合わせ、出演者がエピソードを話すトークバラエティ番組である。雨上がり決死隊⁷がMCを行う冠番組として開始し、2019年以降は元雨上がり決死隊の蛍原と週替わりのサブMCが総合司会を行っている。2009年のユーキャン新語・流行語大賞には、この番組で使われてから一般的にも呼ばれるようになった「ひな壇芸人」やテーマの一つである「家電芸人」がノミネートされている⁸。通常深夜帯での放送を行なっているが、年に数回ゴールデンでのスペシャルを行なっており、放送開始から現在まで継続して多くの人々からの人気を誇っているバラエティ番組であるといえるだろう。ひな壇には、設定されたテーマに深く繋がりのある出演者のキャスティングがなされており、毎回出演者が異なっていることが特徴になっている。主に、テーマに対し知識や熱量のある芸人がひな壇に配置され、反対にテーマに対する知識や興味がない芸人がサブMCとして配置されていることが多く、

⁵ 国広陽子「現代日本のジェンダー変容と『ここがヘンだよ日本人』（特集 TVステレオタイピング）」『メディア・コミュニケーション』53号、2003年、29頁。

⁶ 太田省一『社会は笑う ボケとツッコミの人間関係』青弓社、2002年、104頁。

⁷ 蛍原徹と宮迫博之からなるお笑いコンビ。吉本興業所属。1989年に結成されるも、2019年6月からコンビでの活動を休止し、2021年8月に解散。

⁸ 「現代用語の基礎知識」選ユーキャン新語・流行語大賞、<https://www.jiyu.co.jp/singo/index.php?eid=00026>（最終閲覧2021年12月6日）

疑問点やツッコミが頻繁にいれられることで、テーマに対する知識のない視聴者も内容を理解しやすい構造となっている。今回取り上げる『若手女芸人回』では、総合司会の瑩原徹とサブMCの陣内智則⁹、ひな壇にガンバレルーヤ¹⁰、3時のヒロイン¹¹、納言・薄幸¹²、ラランド・サーヤ¹³、ぼる塾¹⁴が出演している。この回では、女性芸人をテーマに、ひな壇に座っている芸人が、どういう芸風でどのようなポジションであるのか分析する「分析しよう」や誰に憧れて芸人になったのかを発表する「この人に憧れてました」など女性芸人のパーソナルな部分にフォーカスしたコーナーがあった。

第二節 ジェンダーバイアス漫才

ジェンダーバイアス漫才はお笑い男女ユニットヒコロヒーとみなみかわが、2019年のM-1グランプリに出演したことをきっかけに、話題になった漫才である。2020年6月14日テレビ東京で放送された「ゴッドタン」で披露したものを例にみてみよう。この漫才の冒頭部分では以下のような見た目いじりなどの女性芸人の扱われ方や、お笑い界のジェンダーバイアスを扱っている。

みなみかわ：どうもー、ヒコロヒーとみなみかわでございますけれど

ヒコロヒー：お願いします

みなみかわ：あっ僕たち別に旅行しにきたアジア人カップルじゃないですよ

ヒコロヒー：ちょっと待ってください。待ってください。なんですか。そのシャバいかみ

みなみかわ：シャバい？普通やろ。これって。

ヒコロヒー：なんか横に女芸人置いてるから、見た目でもいじっとこかみたいな安直でシャバい魂胆みえみえっすよ

また、これまでお笑いの一種のお決まりとして女性芸人の見た目いじりが行われてきていたが、これに対し疑問を問いかけ笑いをとっている。この漫才の後半では、ヒコロヒーが「男みtainな女芸人」を演じ、みなみかわが「女芸人みtainな男芸人」を演じ、以下の掛け合いを行っている。

ヒコロヒー：なんや自分？男捨ててへんのか？

みなみかわ：捨ててます

ヒコロヒー：捨ててへんやん

みなみかわ：私ショーレースで勝っていく男芸人なんで、そんなんしたくないです。

⁹ ピン芸人。吉本興業所属。1992年から2021年現在まで活動を続けている。韓国進出など海外でも精力的に活動している。

¹⁰ よしことまひるからなるお笑いコンビ。吉本興業所属。2012年から2021年現在まで活動を続けている。「小雪の顔真似」などの見た目を使った笑いやリアクション芸で人気を博している。

¹¹ 福田麻貴とゆめっち、かなでからなるお笑いトリオ。吉本興業所属。2017年に結成し2021年現在まで活動中。海外ドラマあるあるやコント、漫才など様々なネタを行う。『女芸人No.1決定戦 theW』三代目チャンピオン。2021年4月8日、メンバーの福田がtwitter上で「容姿に言及するネタを捨てることにしました」と宣言。

¹² お笑いコンビ「納言」のメンバー。相方は男性の安部紀克。太田プロダクション所属。2017年に結成し2021年現在まで活動中。趣味の飲酒とタバコを活かしたやさぐれ漫才を行う。

¹³ お笑いコンビ「ラランド」のメンバー。相方は男性のニシダ。個人事務所レモンジャムに所属。2014年に結成し、現在まで活動中。個人事務所開設以前は、フリーとして活動し見た目いじりを行わないネタなど、従来の芸人像とは違う新たな芸人像を作り上げている。

¹⁴ あんり、きりやはるか、酒寄希望、田辺智加からなるお笑いカルテット。吉本興業所属。2019年に結成し、2021年現在まで活動中。酒寄は、育休中のため2021年現在は、酒寄以外の3人がぼる塾として活動を行っている。第4回目『女芸人No.1決定戦』決勝出場。

ヒコロヒー：ふーん。男芸人がそんなん無理やって。

このように、これまでのジェンダー的に言われる側と言う側が入れ替わることで、その違和感から、実際の問題が浮き彫りになると同時に面白さが生みだされている。お笑い界の問題を扱いつつも、これまでの「常識」をズラすことでお笑いとしての形にしている。この漫才を披露したテレビ番組「ゴッドタン」では、MCの劇団ひとりが「去年M-1でピーマンズスタンダードのみなみかわと組んだ漫才がお笑いファンの中ですごかったと話題になっているということで来ていただきました」と紹介し、先輩男性芸人も漫才の最中笑っていた。お笑いファンだけでなく男性芸人からもこの漫才は少なくとも表面上は受け入れられていた。

第三章 バラエティ番組における女性芸人の笑いの起こし方

第三章では、バラエティ番組における女性芸人の笑いの起こし方から、ジェンダーバイアス漫才が受容される近年において、受け手と芸人が面白いと受容するものが、どのようなものであるかを考察する。

第一節 バラエティ番組における男女比率

まず、今回取り上げる「アメトーーク」における出演者の内訳を分析していく。分析対象としたのは「アメトーーク」ホームページ内のバックナンバーに記録されている2006年10月12日放送の「東野ゴルフ部」回から2020年最後の放送回であった2020年12月30日放送の「アメトーーク年末5時間SP」までの全778回分である¹⁵。そのうちの514回で女性芸人の出演はなかった。反対に、男性芸人が出演しなかった回は7回のみであった。このように、男性芸人と女性芸人では出演している割合に大きな偏りがあることが分かった。また、アメトーーク内で芸人以外も含む女性出演者が過半数を超えた回は15回のみであった。その中の7回が「女芸人会」や「幸せいっぱい奥様芸人」などの出演者が女性であることが前提とされていた回であり、反対に性別関係なく、ひな壇に座ることが想定されていたと予想される回は、「アメリカにかぶれてます芸人」と「今これを伝えたい！！ピンポイントアカデミー賞」のみであった。つまり、女性出演者が多く起用されている回の約半分が女性であることが前提とされており、「ドラえもん芸人」や「バラエティ観るの大好き芸人」など性別が関係のない多くの回で男性芸人の方が起用されている点を踏まえると、「アメトーーク」において男性芸人である方が番組に起用されやすい傾向があると考えられる。

とはいえ、女性芸人個人やコンビにフォーカスを当てた「黒沢ナイト」、「椿鬼奴クラブ」、「39オアシズ姉さん」などの回が複数回放映されていることから、女性芸人であることが評価されないことと同一ではないことが分かる。「黒沢ナイト」が放送された2008年の全49回の放送において、個人やコンビにフォーカスを当てた回は「ホリケン&ほっとけない芸人」、「ガレッジセール」、「出川ナイト」、「肥後という男」、「ベッキーすごいぞ芸人」、「笑い飯と周辺の人たち」、「マチャミ・ファミリー」、「黒沢ナイト」の8回のみであった¹⁶。この内女性芸人にフォーカスを当てた回は、「マチャミ・ファミリー」と「黒沢ナイト」の二回である。出演する女性芸人の数が少ないにも関わらず、このように大々的にフューチャーされるのは出演してきた女性芸人の評価が高いからだといえるだろう。

しかし、女性芸人がアメトーーク に出演した回数では2008年の8回から2020年には15回へと増加しているものの、ほとんど全ての回に出演している男性芸人と比較した時、出演回数には大

¹⁵ 2015年から2016年のSP回はバックナンバー内でくりごとに別ページとなっているのでくりごとに別の回という扱いにした。

¹⁶ 出川ナイトは2週連続同じくりでの放送がされた。

幅に差がある。本稿でスクリプトを基に分析する2020年9月10日放送回は、2020年で唯一女性のみがひな壇に座っていた回であった。この回のテーマは「若手女芸人」と企画段階から女性芸人のみを呼ぶことが想定されている。男性芸人には「若手女芸人」のような性別だけで呼ばれる回がないにも関わらず、女性芸人にはそういった回が設けられるのは、女性芸人を異なるものとみなす、男性が中心的な構造が引き継がれていると考えられる。

第二節 「伝統の笑い」と「新たな笑い」

番組冒頭「女若手芸人2020伝統の笑いか新時代か、何かと難しい昨今熱く本音のぶつかり合いこんばんは」とナレーションされるなど、伝統の笑いとなんだな笑いとの間で生まれる対立に関する表現が多く使われていた。番組内では、伝統の笑いを引き継ぐガンバレルーヤとなんだな笑いを作り出すラランドサーヤというような対立する掛け合いが行われていた。ここでの、伝統の笑いとは見た目や身体を張ることで笑いを取ることを指し、新たな笑いは見た目や身体を張らずワードセンスなどで笑いを取ることを指している。

よしこ：（多部未華子の物真似が似ていないと）言ってもらわないと、やっぱりウケないっていうのがあるので

サーヤ：なんか綺麗とは言われたくないってことですか？

よしこ：綺麗って言われたくはくはないです。

サーヤ：言われたいんですよ。本当は可愛い綺麗って言われたいんですよ。

こうした掛け合いの繰り返しを中心に、出演者間の話が展開していた。

中でも、見た目やリアクションで笑いをとる「伝統の笑い」は、一部の女性芸人の中で引き継ぐ笑いという意識がある。新たな笑いに関するコメントを述べるサーヤと福田に対し、よしこは以下のようなコメントを行なっている。

よしこ：「私今基本的にこのお二人の考え方はちょっと納得いかない部分はありますね聞いてて」

蛭原：「ああそう？」

よしこ：「ああ古いわってやっていかない、もう森三中さん、モリマンさんが作ってきてくださった。モリマンさんですよ。」

蛭原：「北海道から見てるよ¹⁷」

よしこ：「私たちは、継承していかなければいけないんですよ。なにが古いんだ。だから先祖。先祖じゃない。先祖がね作った笑いをなぜ守らない。あんたたちは。」

このように、見た目とリアクションを使った笑いは、個々が新たな笑いの形を一つずつ作り出しているというよりも、先輩から後輩で形を受け継ぎながら変化させ作り上げてきた笑いであると考えられている。

言及されていた森三中とモリマンは、リアクションなど現在多くの人にイメージされるであろう、女性芸人が見た目やリアクションを使い作り上げる笑いを最初に作り出してきた存在である。特に、モリマンは過激な下ネタ行い人気を博すようになった。

しかし、こうした笑いが他のお笑い芸人から受容されてきた訳ではない。モリ夫はインタビューで、ボケて笑いが起きているのに権力がある先輩が「うわっ、さむっ」と言ってこれを笑

¹⁷ モリマンは北海道を中心に活動を行なっている。

ったらセンスがないと思われるような空気感を作り上げられてしまったと述べている¹⁸。また、他の芸人から「女だからだろ」とか「下ネタやるからだろ」というような言われ方をしていたことが、ストレスだったという¹⁹。このように、当時モリマンの笑いは、一部の他のお笑い芸人から笑いととは違うものとして扱われていたことが分かる。また、「女だから」と男性芸人の笑いととは別カテゴリーに入れられてしまうという動きはモリマンブレイク当時からあったものだとはいえる。

実際にモリマン本人としてもこういった笑いは、率先して作り出してきた笑いという訳ではなかったという。モリマンのネタを作成していたホルスタインモリ夫はネタに関してインタビューで、最初に作ったネタは下ネタを使った芸風の原型ではなく、そのネタがウケたことから、1女性初の七丁目劇場での単独ライブを行うことを劇場の支配人に直談判したところ「1週間で10本新ネタを書け」と言われネタを考えたが思い付かず、「シモやればウケるっしょ」という発想から下ネタをするようになったという²⁰。これに関して、モリ夫は「そうなんです。だから、芸人としては本当にダサいことをやり続けた感じなんです。本当はカッコいいネタをやりたかった。漫才できっかり笑わすような。でもそんな技術もセンスも考える脳みそもなかった。」と述べている²¹。つまり、自分自身で考え作り上げてきた笑いではあるものの、自ら率先してこのような笑いをとっていた訳ではない。

そういった中で、実際にこういった見た目やリアクション、下ネタなどで笑いを取ることが継承していかななくてはいけない笑いだと認識されるまでに至ったのは、これらの笑いが男性優位的構造を持つお笑い界で、女性芸人が出演できる場所を作りだしていったからなのではないかと考えられる。「継承すべき笑い」を作り上げていった1人である森三中大島のインタビューでは、「とにかく男に負けたくなかった。男の芸人さんは裸になって笑いを取れるのに、どうして女芸人が裸になっちゃいけないのか、なんて考えたりして、あえて脱いだりしていた部分もあります(笑)。」と述べている²²。このように、元はこういった体を張る笑いは男性の笑いとして認知されていたが、森三中などがそういった中に入り込んでいったことによって体を張る笑いが女性芸人のものへと変化し伝統的な継承すべきものと認知されるようになったといえるだろう。

反対に新たな笑いと定義されている笑いの中には伝統の笑いに異議を唱えることも含まれていると考えられる。コーナー「分析しよう」では分析項目として用意された見た目・インパクト、トーク・ネタ、キレ系、体を張ることであるアクション系の4つのどの位置に、女性芸人がいるのかを決める構成になっていた。女性芸人一人一人を蛭原が考える位置に配置したあと、ひな壇の芸人とサブMCも含めて議論するという順番でコーナーが進んでいく。

サーヤ：(表に対して) 古いですよ。考えとしてこれ自体が。
(笑いが起きる)

¹⁸ 西澤千央「理不尽な罵倒、プライベートでも・・・過激女芸人モリマン・モリ夫が『東京のテレビは無理だな』と悟ったワケ モリマン ホルスタイン・モリ夫さんインタビュー#2」文春オンライン、<https://bunshun.jp/articles/-/41451> (最終閲覧日2022年1月11日)

¹⁹ 同上。

²⁰ 西澤千央「90年代を駆け抜けた女芸人モリマン・モリ夫が語る『なぜ過激な下ネタで勝負したのか』モリマンホルスタイン・モリ夫さんインタビュー#1」文春オンライン、<https://bunshun.jp/articles/-/41446?page=4> (最終閲覧日2021年12月7日)

²¹ 同上。

²² 音部美穂「森三中の大島美幸さん『“女芸人だから”にとらわれていると、自分自身が行き詰まってしまう』激しい『いじめ』を受けた子ども時代」、現代ビジネス、<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/81699?page=4> (閲覧日2022年1月11日)

蛭原：そこ言われんの？

このように、ラランドサーヤは見た目・インパクトやキレイ系といった女性芸人を、見た目
で分ける表に対し反対意見を述べた。意見を述べた後、女性芸人側では笑いが起きているもの
の、司会の蛭原は、やや困惑している様子であった。このシーンでは、女性芸人が女性芸人の
扱われ方に対する意見を述べたことに対する反応が、「笑い」と「困惑」の二極化しているこ
とが分かる。これは、表で取ろうとしていた笑いが「攻撃の笑い」であったとも考えられる。
お笑いに関する研究を行っている井山弘幸によると、嘲笑や憫笑である「攻撃の笑い」は上下
関係や能力・品差の格差、あるいは社会的差別の現実をなぞるような笑いでもあり、ターゲッ
トになった人間にとって決して気持ちのいいものではないという²³。表に対する意見が述べられ
たことで、今まで面白いと許容されていた女性芸人を「見た目インパクト」や「キレイ系」と
分類することの攻撃性が明らかとなり、自分自身が攻撃する側として加担していたことへの居
心地の悪さが困惑という反応に繋がっているのではないかと思われる。

こうした困惑を生み出す一方で、これらの指摘を面白いものとして受容している層も存在し
ている。ラランドサーヤはインタビュー記事で「『アメトーク！』きっかけで何かを腐して
くださいみたいな仕事とかコメンテーターみたいな仕事のオファーが増えましたね」と述べて
おり、同じような立ち位置で他の番組に出演してほしいという需要があることが分かる²⁴。今ま
での差別的ともとれる笑いをよしとせず別の切り口からトークを行うことが、世間的にも新た
な笑いと捉えられているといえるだろう。

第三節 お笑い界におけるジェンダー的価値観

番組中、このような見たい目じりを行ったり、無理やりリアクションをさせたりすることが
できない理由は時代にあると何度も出演者たちは述べていた。番組終盤に行われた「好きなだ
け臭害物競争！！」は、誰が参加するかは個人の自由となっていた²⁵。これについて蛭原と陣内
は以下のようにコメントしている。

蛭原：これは皆さん、自由参加でございます。好き好きですからね。

陣内：もうこういう時代ですからね

このように、自由参加であることを強調し、時代によって強制させることが不可能であるこ
とを補足説明している。これらのシーンでは、女性芸人であるがために、強制的に大きなリアク
ションを取らせることに対する違和感というよりも、その行いが時代に適合し、受け手に受け
入れられるかどうかを気にしていることが読み取れるだろう。

つまり、お笑い界内での価値観が変化したというよりも、受け手の価値観と時代の変化に合
わせているという側面が浮かび上がってくる。バラエティ番組とお笑いに関する研究を行って
いる太田省一によるとこれまでの受け手に対して「ただたんに楽しければいいというその場だ
けの安易な快楽志向に浸りきっているわけではない。『笑い』に関する受容能力の柔軟性を示
すこともまた、『仲間』の空間の同定という『笑い』の実効性を示す振る舞いとして重要な意

²³ 井山弘幸『お笑い進化論』青弓社、2005年、11頁。

²⁴ 「ラランドサーヤ×Aマッソ加納『コロナ禍のブレイク、芸人とジェンダー、そして未来』」、FRaU、<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/81006?page=3>（最終閲覧日2021年11月14日）

²⁵ アメトーク内でのコーナー。小麦粉の中にあめ玉とくさやが隠されており、その中からアメ玉を1番早く探
し出した人が優勝となるゲームコーナーである。

味をもっている」と指摘している²⁶。しかし、お笑い芸人のAマッソがボケとして話した人種差別的発言を受け手が批判したように、ネタやボケに対する批判は近年頻繁に起こっている²⁷。受け手が受容し仲間に入ることが重要だった笑いが、受容するよりもそれが受けいれるべきものなのかどうか吟味するものへと変化しているといえるだろう。

また、男性優位的思想というお笑い界内でのジェンダー的価値観が現れたシーンもあった。

福田：「でもサーヤちゃんが結構そういうね。お笑い界を変えて行こうっていう」

サーヤ：「いやいや」

福田：「女芸人は体当たりせなあかんとかインパクトないとあかんとかそういう考えだったんですよ。ずっと。サーヤちゃんがこういう発言をしだしてから私もなんか男芸人と同じようにトークとかでいけるようにならんとあかんなって思いました。ほんとに」

陣内：「はい」

福田：「漫才のボケとかが男脳のボケ方なんです。それがなかなか女の子にはできないんですよ。あのボケ方が、めっちゃすごいです。」

サーヤ：「嬉しいです。あんなに言ったのに。」

このようにこのシーンでは男脳という言葉が褒め言葉として機能している。また、発言時、テロップでも白字に黒枠で「男脳のボケ方！！」と男脳という言葉を強調するような編集がなされていた。お笑いの中で、男性的なボケと女性的なボケというイメージが分かれていることが分かる。そして、男性的なボケの方が優れているというような空気感があるとみられる。アメトークにも何度も出演し、現在まで活躍している女性ピン芸人友近も、取材で「ゼロから笑いを作りあげる能力はやはり男性の方が優れていると思います。女性芸人が天下をとれないのもそのあたりに原因があるのかも。古い考えかもしれませんが、男性の方がお笑い脳は優れていると思いますね。」と述べている²⁸。このように、お笑いで優れていることと男性的であることは少なからず同じようにとらえられる場合があるといえる。現在でもお笑いをする上では、男性の方が優れているという空気感は引き継がれていると考えられる。

第四章 ジェンダーバイアス漫才とお笑い界における受容

以上の分析から、これまで受け手側と芸人側とで柔軟な受容性をみせることで面白いことが分かるという仲間意識が強かったお笑い界が、受け手側の受け取り方の変化によって変わりつつあることが明るみになった。

こうした中で、ジェンダーバイアス漫才は、受け手側の問題意識と重なる部分があったため、観客からの支持を得たと考えられる。お笑いに関する研究を行っている井山弘幸によると「現実からズレた先につくりあげられるパラレルな世界が、生き生きとしたリアルなものであるかどうか、笑いにとって重要な決め手になる。」という²⁹。つまり、ヒコロヒーの発言内容

²⁶ 太田省一『社会は笑う ボケとツッコミの人間関係』青弓社、2002年、60頁

²⁷ 「大阪なおみへの差別ネタ、若手芸人Aマッソが謝罪『笑いと履き違えた最低な発言だった。』」、ハフポスト日本版編集部、https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5d8ab7a4e4b08f48f4ac5fe5（最終閲覧日2021年11月14日）

²⁸ 中村計「友近が分析する『女芸人が天下をとれない原因』」、NEWSポストセブン、https://www.news-postseven.com/archives/20201107_1610296.html/2（最終閲覧日2022年1月11日、）

²⁹ 井山弘幸『お笑い進化論』青弓社、2005年、93頁。

と観客が抱いていた違和感とが一致していたことで、生み出されるセクハラや差別的内容のリアルさと、実際にはありえない光景のズレが笑いとなり受け入れられていたといえる。

しかし、『アメトーク』内で何度も言われていた「こういう時代だから」という社会の雰囲気を感じさせるような発言から分かるように、受け手の問題意識の強まりと共に、お笑い界内での問題意識が強まったという性質は薄く、多くの芸人側では時代に合わせているという意識が強いといえるだろう。そうした中で、ジェンダーバイアス漫才が面白いものとして受容されたのは、切り口の新しさがあるからだと考えられる。これは、受け手が脱却しつつある「柔軟な受容性」を見せることで仲間意識を作るという雰囲気が、お笑い界では維持されていることで受容されていったといえるだろう。このように、ジェンダーバイアス漫才は、差別的な思想を単に指摘するだけでなく、新たな切り口から漫才として成立させたことの新しさから、お笑い界内に浸透する「面白いことが分かる」という仲間意識の中で、受容されていったのだと考えられる。

おわりに

本稿では、バラエティ番組での女性芸人の姿を分析することで、男性優位の構造が引き継がれるお笑い界においてジェンダーバイアス漫才がどのようにして受容されてきたかを考察した。

その結果、お笑い界における男性優位の構造の変化が起きたというよりも、受け手の笑いがあってこそ成立するお笑いにおいて、受け手から拒絶されるような笑いを生み出すことは不可能であることから、受け手の感覚に合った「新たな笑い」が求められていることが分かった。

参考文献

石田万実『笑いの中の女性表象：ザ・ドリフターズのコントを事例に』『笑い学研究』21号、2014年

石田万実『コント番組における働く女性：職業や描写に関する一考察』『笑い学研究』23号、2016年。

井田貴子『笑いの方法論：小林賢太郎研究』『表現文化』7号、2013年

井山弘幸『お笑い進化論』青弓社、2005年。

太田省一『社会は笑う ポケとツッコミの人間関係』青弓社、2002年。

国広陽子「現代日本のジェンダー変容と『ここがヘンだよ日本人』（特集 TVステレオタイプینگ）」『メディア・コミュニケーション』53号、2003年。

澁谷知美「お笑いー「男の世界」で女性はどうに語られているか」小川伸彦、山泰幸編著『現代文化の社会学入門-テーマと出会う、問いを深める』、ミネルヴァ書房、2007年。

澁谷知美「萌えとお笑いのゆくえ 女子とお笑い」『ユリイカ』11月号、2015年。

音部美穂「森三中の大島美幸さん『“女芸人だから”にとらわれていると、自分自身が行き詰まってしまう』激しい『いじめ』を受けた子ども時代」、『現代ビジネス』、<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/81699?page=4>（閲覧日2022年1月11日）

ヒコロヒー「『女性芸人』と呼ばれ10年。ジェンダーバイアスについて考えないほうが嘘」朝日新聞社、<https://mirror.asahi.com/article/13576805>（最終閲覧日2021年10月27日）

中村計「友近が分析する『女芸人が天下をとれない原因』」、NEWSポストセブン、https://www.news-postseven.com/archives/20201107_1610296.html/2（最終閲覧日2022年1月11日）

西澤千央「90年代を駆け抜けた女芸人モリマン・モリ夫が語る『なぜ過激な下ネタで勝負したのか』モリマンホルスタイン・モリ夫さんインタビュー#1」文春オンライン、<https://bunshun.jp/articles/-/41446?page=4>（最終閲覧日2021年12月7日）

西澤千央「理不尽な罵倒、プライベートでも・・・過激女芸人モリマン・モリ夫が『東京のテレビは無理だな』と悟ったワケ モリマン ホルスタイン・モリ夫さんインタビュー#2」文春オンライン、<https://bunshun.jp/articles/-/41451>（最終閲覧日2022年1月11日）

「大阪なおみへの差別ネタ、若手芸人Aマッソが謝罪『笑いと言った最低な発言だった。』」、ハフポスト日本版編集部、https://www.huffingtonpost.jp/entry/story_jp_5d8ab7a4e4b08f48f4ac5fe5（最終閲覧日2021年11月14日）

「ラランドサーヤ×Aマッソ加納『コロナ禍のブレイク、芸人とジェンダー、そして未来』」、FRaU、<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/81006?page=3>（最終閲覧日2021年11月14日）